
第3章 分析視点別結果

第3章 分析視点別結果

1. 地方・都会において女性が置かれている状況と課題 調査結果まとめ

I. 進学・仕事の検討に関して、周囲の人から言われたことと自分の意見の関係

- 1 性別や出身地域にかかわらず、大学等の進学や仕事の検討に関する様々な意見について、親や家族、先生などの周囲の人から言われた人と、言われていない人を比べると、**周囲の人から言われた人の方が、自分でも「そう思う」とする割合が顕著に高い。**
- 2 進学に関してみると、**女性では、都会出身者・地方出身者ともに、「女性は偏差値の高い学校を目指す必要はない」「女性は理系に向いていない」「学歴が高すぎると結婚しにくくなる」「学歴が高すぎると就職しにくくなる」「できるだけ偏差値が高い学校を目指した方がよい」等の意見については、周囲の人から言われた人の方が、自分でも「そう思う」とする割合が50%ポイント程度高い。**
- 3 仕事の検討に関してみると、**女性では、都会出身者・地方出身者ともに、「よい結婚相手と出会えそうな職場の方がよい」「都会で働いた方がよい」「技術的な仕事に就いた方がよい」「事務的な仕事に就いた方がよい」については、周囲の人から言われた人の方が、自分でも「そう思う」とする割合が40%ポイント程度高い。また、都会出身の女性では、「地元や親の近くで働いた方がよい」「キャリアアップを目指した方がよい」という意見も、40%ポイント以上高い。**

→報告書中123～130ページ掲載

POINT

- ◆周囲の人からの声かけは、若い世代の進学先や仕事の検討に、大きく影響している。
- ◆特に、「女性は偏差値の高い学校を目指す必要はない」「女性は理系に向いていない」など、固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込みを感じさせる声かけが、特に若い女性本人の意識に大きく影響している。
- ◆他方で、「できるだけ偏差値の高い学校を目指した方がよい」「キャリアアップを目指した方がよい」などの前向きな声かけも、本人の意識に大きく影響している。

II. 女性や若者が地元を離れたいと思う要因

- 1 自己都合で出身地域を離れた女性や若者のうち、出身地域を離れた理由として「地元から離れたかったから」を理由に挙げた人は、「親や周囲の人の干渉から逃れたかったから」「若者が楽しめる場所や施設が少なかったから」「出会いやチャンスが少なそうだったから」も同時に出身地域を離れた理由として挙げる割合が高い。女性には「多様な価値観が受け入れられなそうだったから」も高い。
- 2 「地元から離れたかったから」を選んだ女性は、出身地域において「個人の価値観よりも世間体が大事」「家事・育児・介護は女性の仕事」「地域や親戚の集まりでの食事の準備やお茶出しは女性の仕事」「家を継ぐのは男性がよい」といった意識があったと感じている割合が顕著に高い。

→報告書中132～134ページ掲載

POINT

- ◆進学や就職が、若い世代が出身地域を離れる大きなきっかけや理由である一方、固定的な性別役割分担意識や伝統的価値観が残る地元で生きづらさを感じて、女性や若者が都会へと転出していることがうかがえる。

2. 地域ブロック別にみた特徴 調査結果まとめ

I. 現住地域に満足しているか

1

総合満足度で現住地域に満足している割合が最も高いのは、男女ともに「南関東(東京圏)」、次いで、「東海」。女性では次に「近畿」、男性では次に「北海道」。逆に最も低いのは、女性は「四国」、男性は「東北」。

2

項目別にみると、「南関東(東京圏)」では、仕事の選択肢の豊富さ、収入の妥当性、生活上の利便性、性別や年齢にかかわらず活躍できる環境、多様な価値観の尊重、新しい出会いやつながりなど、多くの項目で満足度が高い。

3

女性では、「南関東(東京圏)」に次いで、「東海」「近畿」で満足している割合高い傾向だが、「仕事の選択肢の豊富さ・収入の妥当性」「公共交通機関などの利便性」「多様な価値観の尊重」などは、「南関東(東京圏)」に比べて低い。

→報告書中143～145ページ掲載

【現住地域の総合満足度】

※満足(計)の数値を掲載。

	総合満足度(満足計)	
	女性	男性
全国	67.0%	60.2%
北海道	60.0%	60.5%
東北	51.6%	43.2%
南関東(東京圏)	75.5%	68.9%
北関東・甲信	55.9%	53.7%
北陸	54.7%	56.7%
東海	70.4%	60.9%
近畿	68.1%	59.9%
中国	66.4%	48.0%
四国	44.3%	50.3%
九州・沖縄	66.2%	56.7%

POINT

◆女性では、三大都市圏で総合満足度、項目別満足度ともに高い傾向。しかし、「仕事」「生活上の利便性」「多様な価値観の尊重」については、東海や近畿でも東京圏との差が確認された。

4

女性において、総合満足度で満足している割合が最も低かった「四国」では、「公共交通機関などの利便性」「仕事による収入の妥当性」「仕事の選択肢の豊富さ」「性別・年齢にかかわらず活躍できる環境」「新しい出会いやつながり」で満足している割合が特に低い。「南関東(東京圏)」と比べると、特に仕事の選択肢や収入、生活上の利便性、性別や年齢にかかわらず活躍できる環境について差が大きい。

5

男性において、総合満足度で満足している割合が最も低かった「東北」では、「新しい出会いやつながり等」「仕事の収入の妥当性・選択肢の豊富さ」「公共交通機関などの利便性」「地域の活気や賑わい」の満足度が特に低い。「南関東(東京圏)」と比べると、特に仕事の選択肢・生活上の利便性について満足度の差が大きい。

→報告書中143～145ページ掲載

【女性における項目別満足度】

※四国で満足(計)が低い項目を掲載。
※四国-南関東(首都圏)で30%ポイント以上差がある項目を黄色色掛け。

	女性	
	四国	南関東(東京圏)
公共交通機関などの利便性	27.2%	73.7%
仕事による収入の妥当性	26.8%	58.6%
仕事の選択肢の豊富さ	26.3%	69.2%
性別・年齢にかかわらず活躍できる環境	31.4%	62.3%
新しい出会いやつながり・交友関係の広がり	34.1%	57.7%
総合満足度	44.3%	75.5%

【男性における項目別満足度】

※東北で満足(計)が低い項目を掲載。
※東北-南関東(首都圏)で30%ポイント以上差がある項目を黄色色掛け。

	男性	
	東北	南関東(東京圏)
新しい出会いやつながり・交友関係の広がり	29.5%	51.7%
仕事の選択肢の豊富さ	30.7%	66.1%
公共交通機関などの利便性	33.2%	69.1%
地域の活気や賑わい	33.3%	60.1%
仕事による収入の妥当性	33.6%	58.2%
総合満足度	43.2%	68.9%

POINT

◆男女ともに、現住地域の総合満足度が低い地域では、特に「仕事」「生活上の利便性」において東京圏との差が大きい。また女性では「性別・年齢にかかわらず活躍できる環境」についても満足度の差が大きい点は、注目すべき要素である。

3. 東京圏への転出者の特徴 調査結果まとめ

I. 東京圏への転出のきっかけ・理由

- 1 東京圏以外出身で、現在は東京圏に居住している人が、現住地域に住むようになったきっかけは、男女ともに「進学」「就職」が高い。加えて女性では「結婚」も高い。
- 2 東京圏以外出身で、自分の都合で出身地域を離れた経験がある人に着目すると、男女ともに「希望する進学先が少なかった」「やりたい仕事や就職先が少なかった」と、進学・就職が出身地域を離れた大きな理由。加えて女性では、「地元から離れたかったから」も大きな理由となっている。
- 3 女性は男性に比べて「希望する進学先が少なかった」「地元から離れたかった」「親や周囲の人の干渉から逃れたかった」が高く、男性は女性に比べて「仕事と結婚生活・子育てを両立できなそうだった」「性別を理由に活躍できなそうだった」が高い。

→報告書中159～160ページ掲載

POINT

- ◆男女ともに、進学・就職が東京圏への転出の大きなきっかけとなっていることがうかがえる。
- ◆また、女性の方が結婚により配偶者に合わせて居住地を移動することが多いのか、女性は結婚も東京圏への転出の大きなきっかけとなっている。
- ◆女性では、「地元から離れたかったから」が特徴的に高く、「地元に離れたい」と感じる何かしらの不満や思いを抱えた女性が、進学・就職・結婚などの大きな節目で東京圏へ転出している可能性がある。

II. 東京圏への転出と、地域における固定的な性別役割分担意識の有無等の関係

- 1 東京圏以外出身者に着目すると、現在も東京圏以外に住んでいる女性に比べて、現在東京圏に住んでいる女性の方が、出身地域に固定的な性別役割分担意識等があったと感じている割合が高く、現住地域にあると感じている割合が低い。
- 2 現在は東京圏以外に住んでいる女性も、「出身地域にあった」と感じる人の割合よりも「現住地域にある」と感じる人の割合の方が低いが、現在は東京圏に住んでいる女性の方が差が顕著。男性も同様の傾向にあるが、女性に比べると差が小さい。

→報告書中170～171ページ掲載

POINT

- ◆東京圏に転出した女性は、出身地域に固定的な性別役割分担意識等があったと感じている割合が特に高いことが確認された。
- ◆時代による意識の変化により、全体として、固定的な性別役割分担意識等は薄れてきているが、東京圏に転出した女性は、現住地域と出身地域の違いを特に大きく感じている。
- ◆固定的な性別役割分担意識等が、女性が地方を離れ、地元に戻らない要因となっている可能性がある。

【東京圏以外出身の女性における、出身地域と現住地域における固定的な性別役割分担意識等の有無】

※東京圏居住層で、出身地域にあった（計）が高い項目を掲載。
※20%ポイント以上差がある項目を黄色色掛け。

	東京圏居住層		東京圏以外居住層	
	出身地域	現住地域	出身地域	現住地域
家事・育児・介護は女性の仕事	42.5%	23.5%	30.3%	26.5%
地域や親戚の集まりでの食事の準備やお茶出しは女性の仕事	42.2%	18.4%	30.7%	25.1%
家を継ぐのは男性がよい	38.6%	15.3%	27.0%	22.1%
個人の価値観よりも世間体が大事	36.3%	17.6%	25.9%	22.7%
職場でのお茶出しや事務などのサポート業務は女性の仕事	34.5%	20.2%	27.1%	24.3%

3. 東京圏への転出者の特徴 調査結果まとめ

Ⅲ. 現住地域や仕事の満足度、仕事について重視していること

- 1 東京圏以外出身者に着目してみると、男女ともに東京圏に居住している人の方が現住地域に満足している割合が高い。
特に、「仕事の選択肢の豊富さ」「収入の妥当性」「生活の利便性」「地域の活気や賑わい」などで差が大きい。加えて、女性では、「多様な価値観等の尊重」「新しい出会いやつながり」「性別・年齢にかかわらず活躍できる環境」にも大きな差がみられる。
一方、「自然の豊かさ」は、東京圏以外に居住している人の方が、満足している割合が高い。
- 2 東京圏以外出身者の仕事に着目してみると、東京圏に居住している女性は、東京圏以外に居住している女性に比べて、「仕事内容や昇進・給与等について男女の差異がないか」「ワーク・ライフ・バランス」「柔軟な働き方ができているか」などに満足している割合が高い。男性はあまり差はない。
- 3 東京圏以外出身者が就職時に重視したことをみると、東京圏に居住している女性は、東京圏以外に居住している女性に比べて、「自立できそうか」「自分の能力を活かせそうか」「仕事を通じて自分が成長できそうか」などが高い。
また、仕事の検討に関する自分の意見についても、「都会で働いた方がよい」「能力や学歴を活かせる仕事に就いた方がよい」「キャリアアップを目指した方がよい」が、東京圏以外に居住している女性よりも高い。

→報告書中161~162,165~166ページ掲載

POINT

- ◆東京圏以外出身で、現在は東京圏に居住している男女は、仕事、生活の利便性など様々な項目に満足している。加えて、女性では、性別や年齢にかかわらず活躍できる環境、多様な価値観の尊重等にも満足している割合が高い。
- ◆仕事の面でも、自分の能力を活かし、成長し、キャリアアップを目指したいという思いがあり、性別に関係なく活躍できる環境に満足している割合が高い。

Ⅳ. 出身地域への愛着度、今後の居住希望地域

- 1 東京圏以外出身で、現在は東京圏に居住している人についてみると、現住地域に対する愛着度よりも、出身地域に対する愛着度が高い。特に女性は出身地域への愛着度が高い。
- 2 東京圏以外出身で、現在は東京圏に居住している男女は、「現在住んでいる地域に住み続けたい」は、全体に比べると高くはなく、「現在住んでいる地域以外に住みたい」は、特に女性で高い。将来は「地元に戻りたい」女性も1割いる。
- 3 将来は地方に住みたいとした男女について、住みたい理由では「ゆとりのある暮らしができそう」「自然環境が豊か」などが高い。一方不安に思うことについては、経済面、希望する仕事に就けるか、生活の利便性に加えて、特に女性では「人間関係や地域コミュニティへの不安」も高い。

→報告書中168,172,112~114ページ掲載

POINT

- ◆東京圏へ転出した男女は、現住地域(東京圏)の生活、仕事の満足が総じて高い一方で、地元への愛着も持ち続けており、「今後も東京圏に住み続けたい」意欲が高いわけではない。
- ◆将来、地方に住みたい男女は、「ゆとりのある暮らしができそう」「自然環境の豊かさ」などを理由に挙げている一方、仕事や経済面及び利便性への不安のほか、特に女性では「人間関係や地域コミュニティへの不安」も高い。

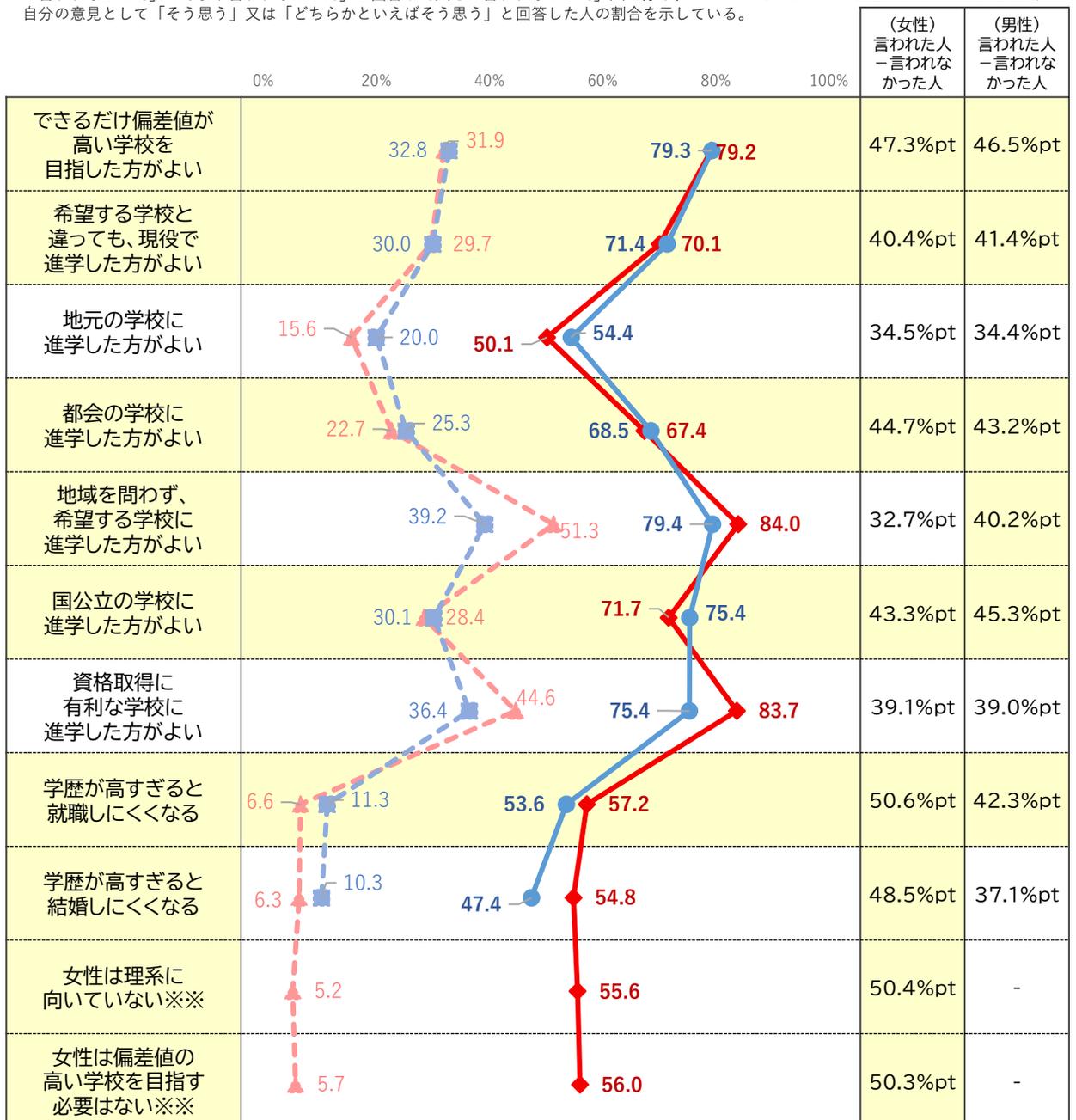
1. 地方・都会において女性が置かれている状況と課題

(1) 大学等への進学検討時に周囲の人から言われたことと自分の意見(Q32、Q33)

【対象】全員 【分析軸】Q32周囲の人から「言われた」「言われなかった」別

- 親や周囲の人からの声掛けは、本人の意識にも強い影響を与えられられる。そこで、進学に関する各項目について、周囲の人から「言われた」と感じている人と「言われなかった」と感じている人で、自分の意見にどのような違いがあるかを分析した。
- 男女ともに、全ての項目で、周囲の人から「言われなかった」と感じている人よりも、「言われた」と感じている人の方が自分の意見でも「そう思う」割合が高い。
- 周囲の人から「言われた」と感じている人と「言われなかった」と感じている人と比較して、自分も「そう思う」割合が男女とも40%ポイント以上の差がある項目は、「学歴が高すぎると就職しにくくなる」「できるだけ偏差値が高い学校を目指した方がよい」「都会の学校に進学した方がよい」「国公立の学校に進学した方がよい」「希望する学校と違って、現役で進学した方がよい」。
- 女性では「女性は理系に向いていない」「女性は偏差値の高い学校を目指す必要はない」「学歴が高すぎると結婚しにくくなる」、男性では「地域を問わず、希望する学校に進学した方がよい」も40%ポイント以上の差がある。

※各項目について、周囲の人から「よく言われた」「時々言われた」と回答した人を「言われた」人、※言われた人－言われなかった人が「言われなかった」「あまり言われなかった」と回答した人を「言われなかった」人に分け、40%ポイントを超えるセルに薄黄色色掛け自分の意見として「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合を示している。



※※女性のみ提示
※対象数については126ページに記載

※選択肢の「都会」は回答者の主観による。

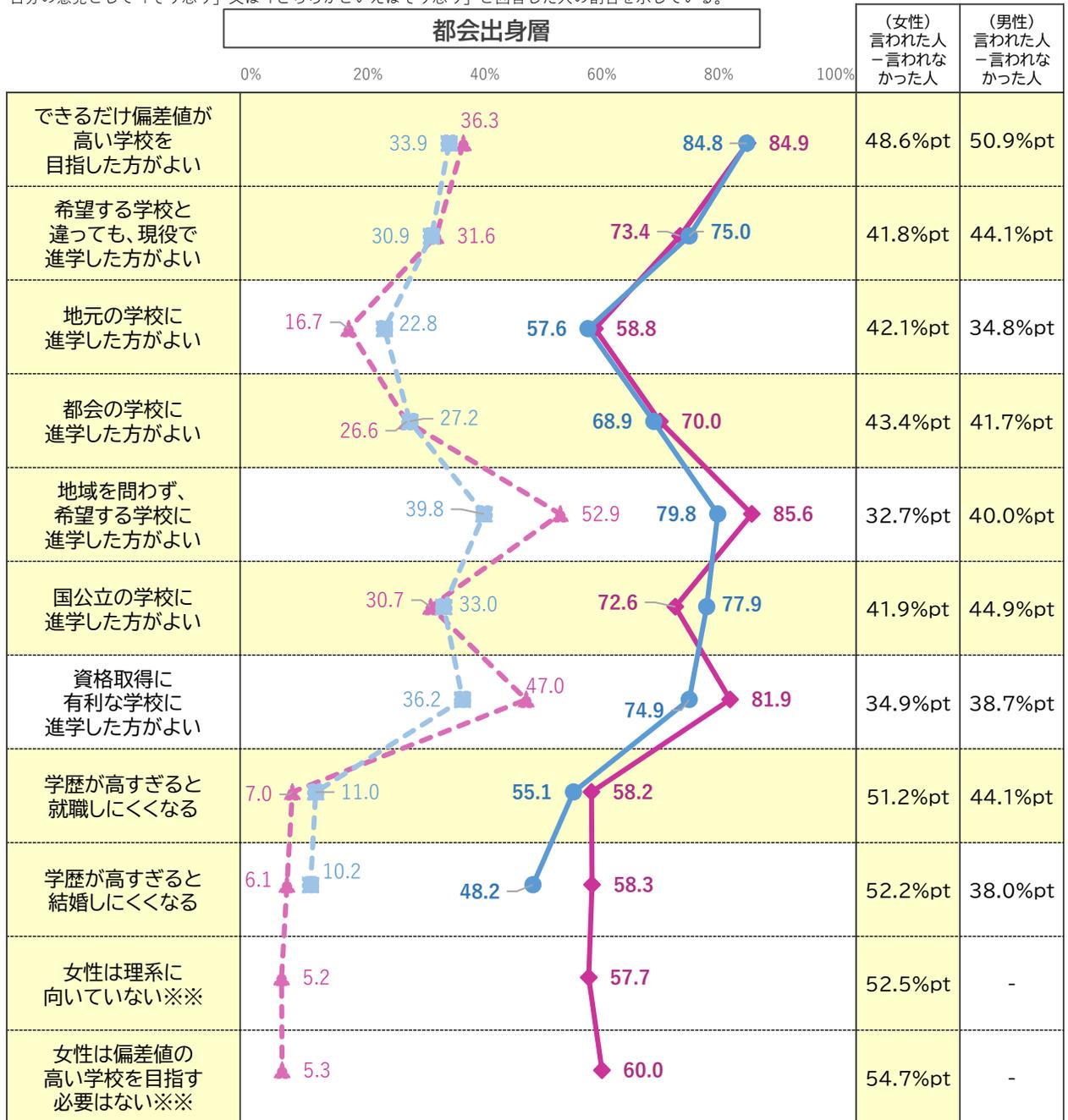
1. 地方・都会において女性が置かれている状況と課題

(1) 大学等への進学検討時に周囲の人から言われたことと自分の意見(Q32、Q33)

【対象】都会出身層 【分析軸】Q32周囲の人から「言われた」「言われなかった」別

- 都会出身者についてみても、男女ともに、全ての項目で、周囲の人から「言われなかった」と感じている人よりも、「言われた」と感じている人のほうが、自分の意見でも「そう思う」割合が高い。
- 周囲の人から「言われた」と感じている人と「言われなかった」と感じている人と比較して、自分でも「そう思う」割合が男女とも40%ポイント以上の差がある項目は、「学歴が高すぎると就職しにくくなる」「できるだけ偏差値が高い学校を目指した方がよい」「都会の学校に進学した方がよい」「国公立の学校に進学した方がよい」「希望する学校と違って、現役で進学した方がよい」。
- 女性では「女性は偏差値の高い学校を目指す必要はない」「女性は理系に向いていない」「学歴が高すぎると結婚しにくくなる」「地元の学校に進学した方がよい」、男性では「地域を問わず、希望する学校に進学した方がよい」も40ポイント以上の差がある。

※各項目について、周囲の人から「よく言われた」「時々言われた」と回答した人を「言われた」人、「言われなかった」「あまり言われなかった」と回答した人を「言われなかった」人に分け、
 ※言われた人－言われなかった人が40%ポイントを超えるセルに薄黄色色掛け
 自分の意見として「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合を示している。



※※女性のみ提示
 ※対象数については126ページに記載
 ※選択肢の「都会」は回答者の主観による。

1. 地方・都会において女性が置かれている状況と課題

(1) 大学等への進学検討時に周囲の人から言われたことと自分の意見(Q32、Q33)

【対象】地方出身層 【分析軸】Q32周囲の人から「言われた」「言われなかった」別

- 地方出身者についてみても、男女ともに、全ての項目で、周囲の人から「言われなかった」と感じている人よりも、「言われた」と感じている人のほうが、自分の意見でも「そう思う」割合が高い。
- 周囲の人から「言われた」と感じている人と「言われなかった」と感じている人と比較して、自分でも「そう思う」割合が男女とも40%ポイント以上の差がある項目は、「学歴が高すぎると就職しにくくなる」「できるだけ偏差値が高い学校を目指した方がよい」「都会の学校に進学した方がよい」「国公立の学校に進学した方がよい」。
- 女性では「女性は理系に向いていない」「女性は偏差値の高い学校を目指す必要はない」「学歴が高すぎると結婚しにくくなる」「資格取得に有利な学校に進学した方がよい」、男性では「地域を問わず、希望する学校に進学した方がよい」「希望する学校と違って現役で進学した方がよい」も40%ポイント以上の差がある。

※各項目について、周囲の人から「よく言われた」「時々言われた」と回答した人を「言われた」人、「言われなかった」「あまり言われなかった」と回答した人を「言われなかった」人に分け、
 ※言われた人-言われなかった人が40%ポイントを超えるセルに薄黄色色掛け
 ※選択肢の「都会」は回答者の主観による。



※※女性のみ提示
 ※対象数については126ページに記載
 ※選択肢の「都会」は回答者の主観による。

1. 地方・都会において女性が置かれている状況と課題

(1) 大学等への進学検討時に周囲の人から言われたことと自分の意見(Q32、Q33)

P123～125 大学等への進学検討時に周囲の人から「言われた」「言われなかった」別の対象数

	全体(P123)				都会出身層(P124)				地方出身層(P125)			
	女性		男性		女性		男性		女性		男性	
	周囲の人から言われた	周囲の人から言われなかった	周囲の人から言われた	周囲の人から言われなかった	周囲の人から言われた	周囲の人から言われなかった	周囲の人から言われた	周囲の人から言われなかった	周囲の人から言われた	周囲の人から言われなかった	周囲の人から言われた	周囲の人から言われなかった
できるだけ偏差値が高い学校を目指した方がよい	1,493	3,397	1,674	3,436	517	950	559	980	971	2,441	1,108	2,451
希望する学校と違って、現役で進学した方がよい	1,451	3,439	1,597	3,513	458	1,009	515	1,024	989	2,423	1,077	2,482
地元の学校に進学した方がよい	1,107	3,783	970	4,140	335	1,132	288	1,251	770	2,642	679	2,880
都会の学校に進学した方がよい	684	4,206	797	4,313	243	1,224	273	1,266	439	2,973	519	3,040
地域を問わず、希望する学校に進学した方がよい	1,897	2,993	1,668	3,442	599	868	515	1,024	1,294	2,118	1,147	2,412
国公立の学校に進学した方がよい	1,487	3,403	1,539	3,571	470	997	453	1,086	1,015	2,397	1,080	2,479
資格取得に有利な学校に進学した方がよい	1,616	3,274	1,201	3,909	487	980	359	1,180	1,126	2,286	839	2,720
学歴が高すぎると就職しにくくなる	465	4,425	351	4,759	158	1,309	107	1,432	307	3,105	242	3,317
学歴が高すぎると結婚しにくくなる	445	4,445	287	4,823	144	1,323	83	1,456	300	3,112	203	3,356
女性は理系に向いていない※※	421	4,469	—	—	142	1,325	—	—	278	3,134	—	—
女性は偏差値の高い学校を目指す必要はない※※	452	4,438	—	—	145	1,322	—	—	306	3,106	—	—

※※女性のみ提示

※選択肢の「都会」は回答者の主観による。

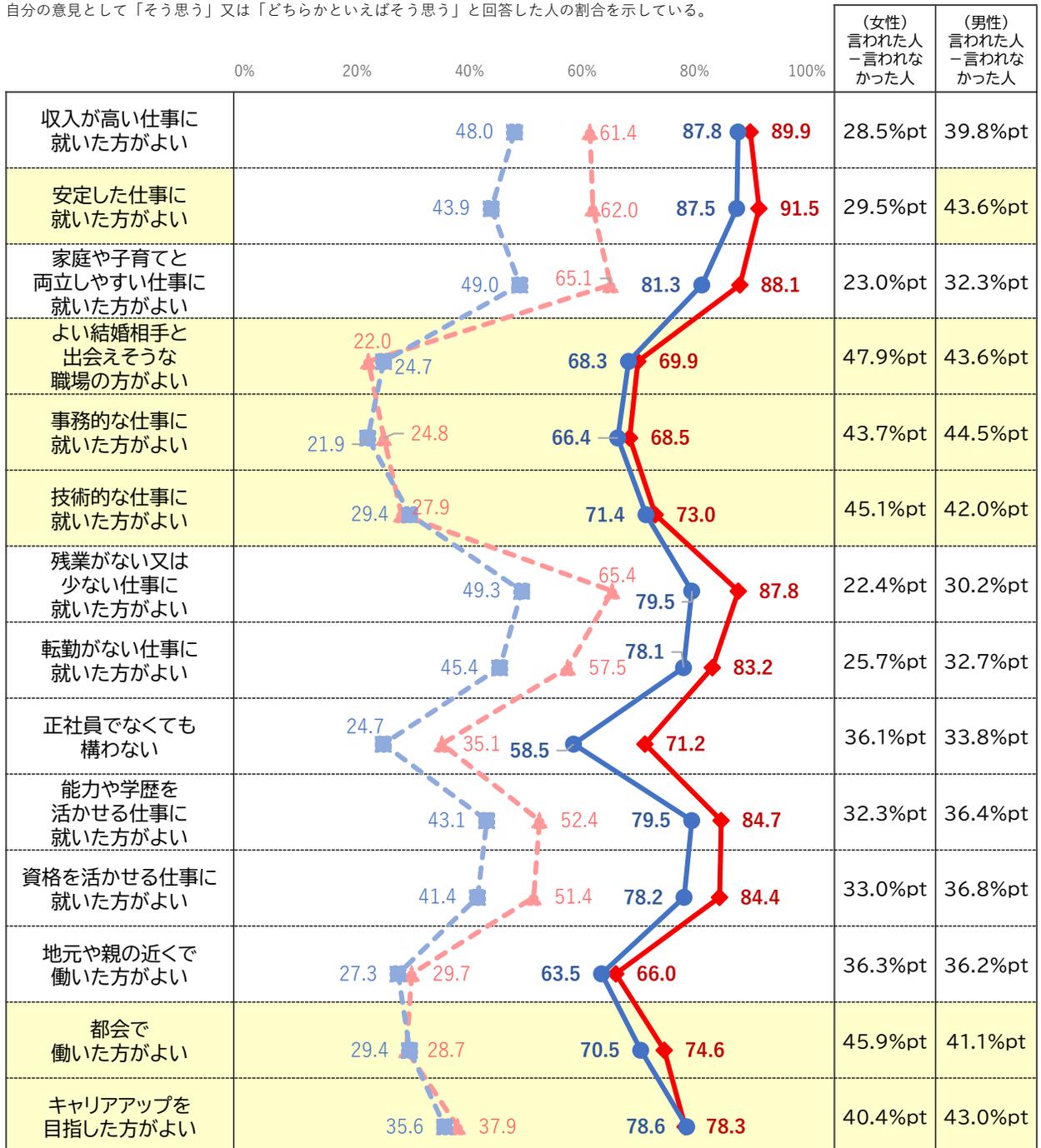
1. 地方・都会において女性が置かれている状況と課題

(2) 仕事や就職先の検討について周囲の人から言われたことと自分の意見(Q36、Q37)

【対象】全員 【分析軸】Q36周囲の人から「言われた」「言われなかった」別

- 男女ともに、全ての項目で、周囲の人から「言われなかった」と感じている人よりも、「言われた」と感じている人の方が自分の意見でも「そう思う」割合が高い。
- 周囲の人から「言われた」と感じている人と「言われなかった」と感じている人と比較して、自分も「そう思う」割合が男女とも40%ポイント以上の差がある項目は、「よい結婚相手と出会えそうな職場の方がよい」「都会で働いた方がよい」「技術的な仕事に就いた方がよい」「事務的な仕事に就いた方がよい」「キャリアアップを目指した方がよい」。
- 男性では、「安定した仕事に就いた方がよい」も40%ポイント以上の差がある。

※各項目について、周囲の人から「よく言われた」「時々言われた」と回答した人を「言われた」人、「言われなかった」「あまり言われなかった」と回答した人を「言われなかった」人に分け、
 ※言われた人－言われなかった人が40%ポイントを超えるセルに薄黄色色掛け
 自分の意見として「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合を示している。



※対象数については 130ページに記載
 ● 女性/周囲の人から言われた ● 男性/周囲の人から言われた
 ○ 女性/周囲の人から言われなかった ○ 男性/周囲の人から言われなかった

※選択肢の「都会」は回答者の主観による。

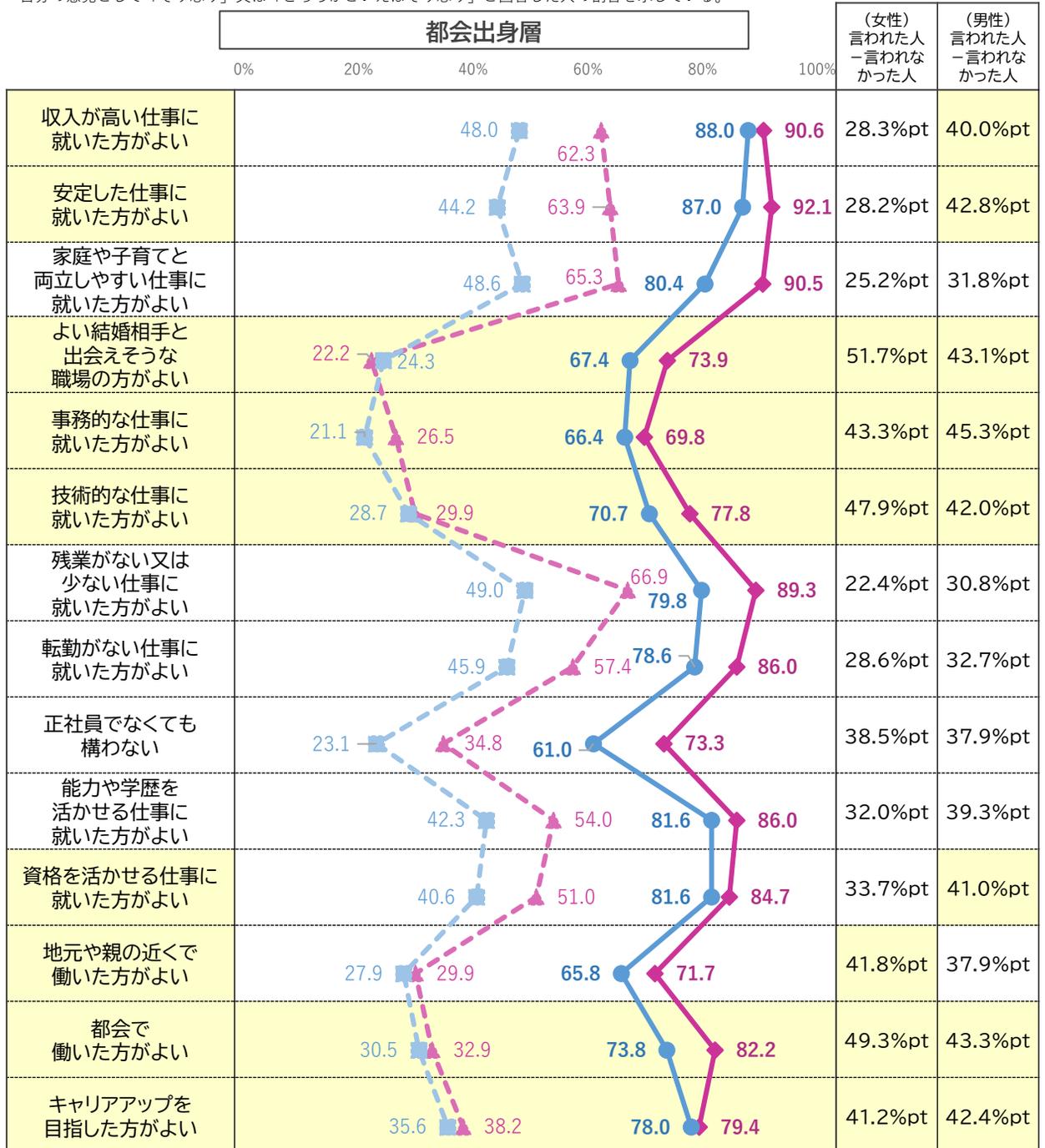
1. 地方・都会において女性が置かれている状況と課題

(2) 仕事や就職先の検討について周囲の人から言われたことと自分の意見(Q36、Q37)

【対象】都会出身層 【分析軸】Q36周囲の人から「言われた」「言われなかった」別

- 都会出身者についてみても、男女ともに、全ての項目で、周囲の人から「言われなかった」と感じている人よりも、「言われた」と感じている人の方が自分の意見でも「そう思う」割合が高い。
- 周囲の人から「言われた」と感じている人と「言われなかった」と感じている人と比較して、自分でも「そう思う」割合が男女とも40%ポイント以上の差がある項目は、「よい結婚相手と出会えそうな職場の方がよい」「都会で働いた方がよい」「技術的な仕事に就いた方がよい」「事務的な仕事に就いた方がよい」「キャリアアップを目指した方がよい」。
- 女性では「地元や親の近くで働いた方がよい」、男性では「安定した仕事に就いた方がよい」「資格を活かせる仕事に就いた方がよい」「収入が高い仕事に就いた方がよい」も40%ポイント以上の差がある。

※各項目について、周囲の人から「よく言われた」「時々言われた」と回答した人を「言われた」人、「言われなかった」「あまり言われなかった」と回答した人を「言われなかった」人に分け、
 ※言われた人－言われなかった人が40%ポイントを超えるセルに薄黄色色掛け
 自分の意見として「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合を示している。



※対象数については 130ページに記載
 ● 女性/周囲の人から言われた ● 男性/周囲の人から言われた
 ▲ 女性/周囲の人から言われなかった ▲ 男性/周囲の人から言われなかった

※選択肢の「都会」は回答者の主観による。

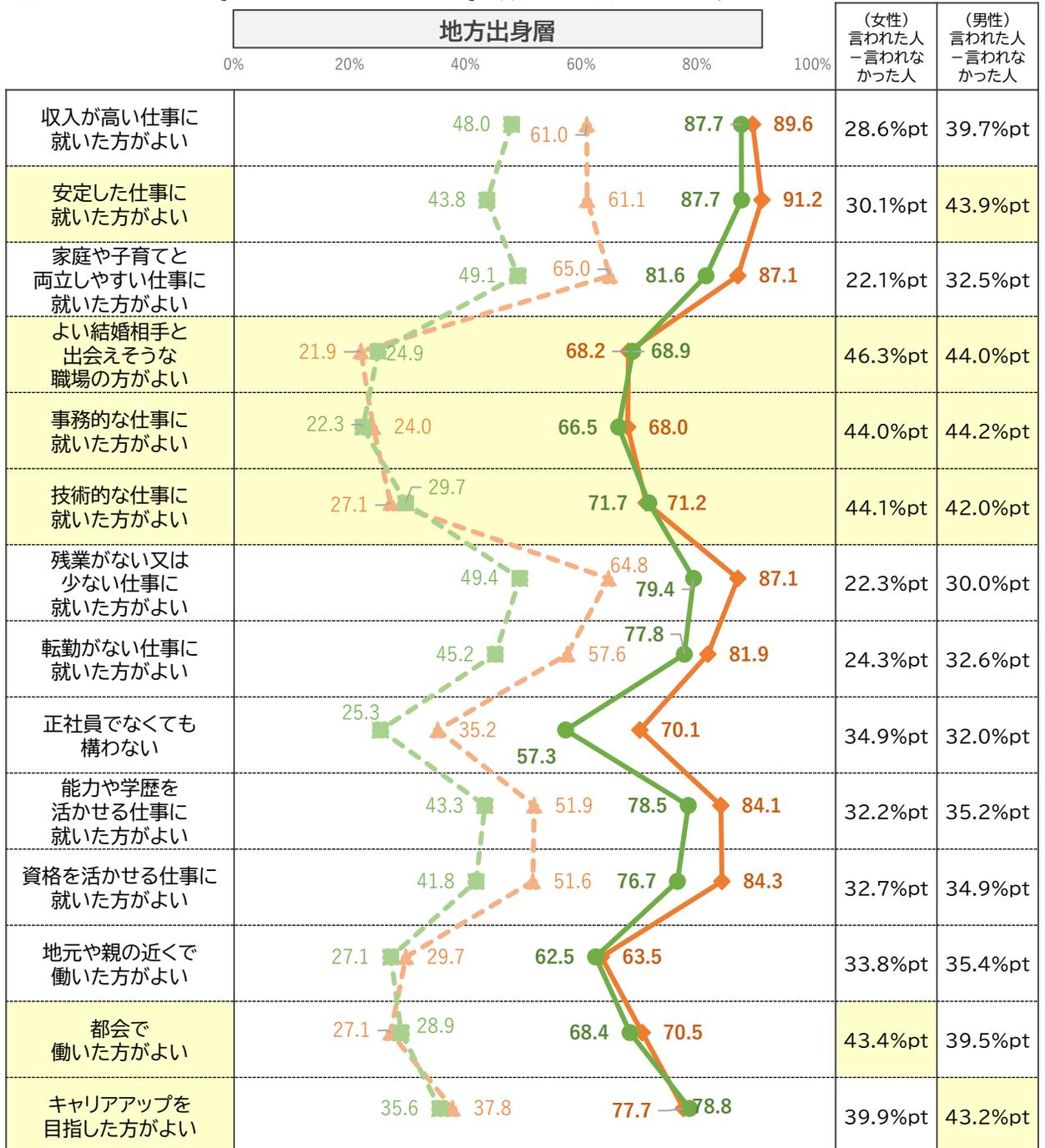
1. 地方・都会において女性が置かれている状況と課題

(2) 仕事や就職先の検討について周囲の人から言われたことと自分の意見(Q36、Q37)

【対象】地方出身層 【分析軸】Q36周囲の人から「言われた」「言われなかった」別

- 地方出身者についてみても、男女ともに、全ての項目で、周囲の人から「言われなかった」と感じている人よりも、「言われた」と感じている人の方が自分の意見でも「そう思う」割合が高い。
- 周囲の人から「言われた」と感じている人と「言われなかった」と感じている人と比較して、自分でも「そう思う」割合が男女とも40%ポイント以上の差がある項目は、「よい結婚相手と出会えそうな職場の方がよい」「技術的な仕事に就いた方がよい」「事務的な仕事に就いた方がよい」。
- 女性では「都会で働いた方がよい」、男性では「安定した仕事に就いた方がよい」「キャリアアップを目指した方がよい」も40%ポイント以上の差がある。

※各項目について、周囲の人から「よく言われた」「時々言われた」と回答した人を「言われた」人、※言われた人－言われなかった人が「言われなかった」「あまり言われなかった」と回答した人を「言われなかった」人に分け、40%ポイントを超えるセルに薄黄色色掛け
自分の意見として「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した人の割合を示している。



※対象数については130ページに記載
—▲— 女性/周囲の人から言われなかった
—■— 男性/周囲の人から言われなかった
—●— 女性/周囲の人から言われた
—■— 男性/周囲の人から言われた

※選択肢の「都会」は回答者の主観による。

1. 地方・都会において女性が置かれている状況と課題

(2) 仕事や就職先の検討について周囲の人から言われたことと自分の意見(Q36、Q37)

P127～129 仕事の検討について、周囲の人から「言われた」「言われなかった」別の対象数

	全体(P127)				都会出身層(P128)				地方出身層(P129)			
	女性		男性		女性		男性		女性		男性	
	周囲の人から言われた	周囲の人から言われなかった	周囲の人から言われた	周囲の人から言われなかった	周囲の人から言われた	周囲の人から言われなかった	周囲の人から言われた	周囲の人から言われなかった	周囲の人から言われた	周囲の人から言われなかった	周囲の人から言われた	周囲の人から言われなかった
収入が高い仕事に就いた方がよい	1,659	3,231	1,829	3,281	501	966	565	974	1,156	2,256	1,257	2,302
安定した仕事に就いた方がよい	2,890	2,000	2,645	2,465	858	609	799	740	2,028	1,384	1,838	1,721
家庭や子育てと両立しやすい仕事に就いた方がよい	1,452	3,438	1,305	3,805	431	1,036	398	1,141	1,020	2,392	902	2,657
よい結婚相手と出会えそうな職場の方がよい	712	4,178	914	4,196	222	1,245	285	1,254	490	2,922	624	2,935
事務的な仕事に就いた方がよい	1,075	3,815	1,005	4,105	305	1,162	304	1,235	766	2,646	698	2,861
技術的な仕事に就いた方がよい	893	3,997	1,185	3,925	261	1,206	355	1,184	629	2,783	830	2,729
残業がない又は少ない仕事に就いた方がよい	1,686	3,204	1,461	3,649	514	953	466	1,073	1,168	2,244	991	2,568
転勤がない仕事に就いた方がよい	1,569	3,321	1,413	3,697	484	983	440	1,099	1,084	2,328	970	2,589
正社員でなくても構わない	1,062	3,828	836	4,274	329	1,138	269	1,270	730	2,682	565	2,994
能力や学歴を活かせる仕事に就いた方がよい	1,663	3,227	1,515	3,595	513	954	489	1,050	1,147	2,265	1,019	2,540
資格を活かせる仕事に就いた方がよい	1,735	3,155	1,456	3,654	516	951	440	1,099	1,214	2,198	1,011	2,548
地元や親の近くで働いた方がよい	1,250	3,640	1,202	3,908	378	1,089	360	1,179	871	2,541	840	2,719
都会で働いた方がよい	855	4,035	1,053	4,057	292	1,175	389	1,150	560	2,852	659	2,900
キャリアアップを目指した方がよい	1,030	3,860	1,262	3,848	350	1,117	423	1,116	677	2,735	833	2,726

※選択肢の「都会」は回答者の主観による。

1. 地方・都会において女性が置かれている状況と課題

(3) 出身地域と現住地域における固定的な性別役割分担意識等の有無(Q44、Q43)・地方出身の女性

【対象】地方出身の女性 【分析軸】出身地域・現住地域別

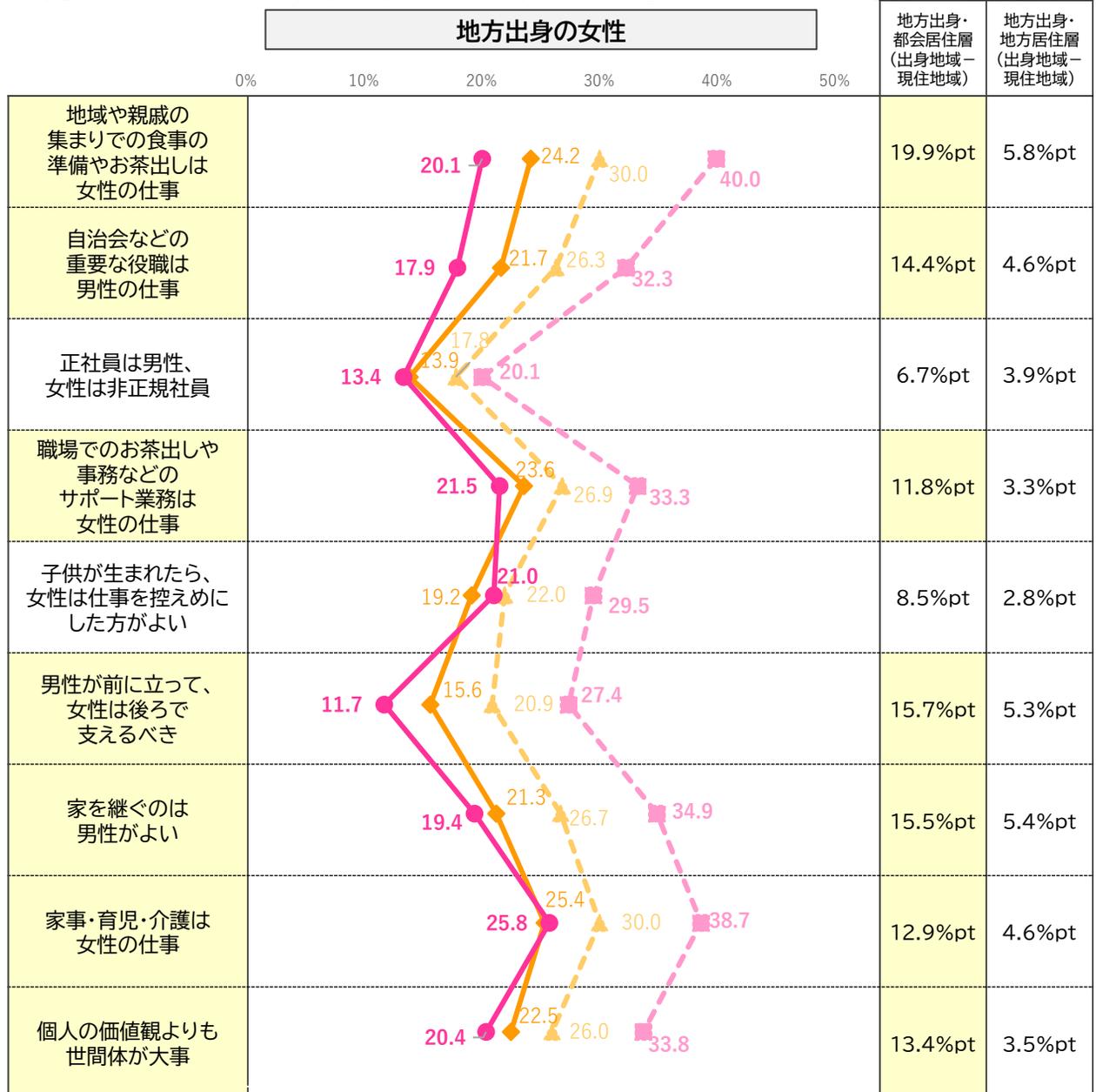
- 下図は、地方出身の女性について、出身地域(中学校卒業時点での居住地域)と、現住地域における固定的な性別役割分担意識等の有無に関する意識の関係を示している。
- 地方出身・都会居住層、地方出身・地方居住層ともに全ての項目で、現住地域にあると感じている割合(実線)に比べて、出身地域にあったと感じている割合(破線)の方が高い。
- 地方出身・都会居住層の女性では、「地域や親戚の集まりでの食事の準備やお茶出しは女性の仕事」「男性が前に立って、女性は後ろで支えるべき」「家を継ぐのは男性がよい」「自治会などの重要な役職は男性の仕事」「個人の価値観よりも世間体が大事」「家事・育児・介護は女性の仕事」「職場でのお茶出しや事務などのサポート業務は女性の仕事」は、出身地域にあったと感じている割合の方が10%ポイント以上高い。
- 一方、地方出身・地方居住層の女性では、地方出身・都会居住層の女性に比べて差は小さい。

※現住地域にあるかは「ある(計)」の数値を掲載(「よくある」+「時々ある」の計)

※出身地域-現住地域が

※出身地域にあったかは「あった(計)」の数値を掲載(「よくあった」+「時々あった」の計)

10%ポイントを超えるセルに薄黄色色掛け



—●— 女性/地方出身・地方居住層/現住地域にあるか(n=2,799)

-▲- 女性/地方出身・地方居住層/出身地域にあったか(n=2,799)

—●— 女性/地方出身・都会居住層/現住地域にあるか(n=613)

-▲- 女性/地方出身・都会居住層/出身地域にあったか(n=613)

1. 地方・都会において女性が置かれている状況と課題

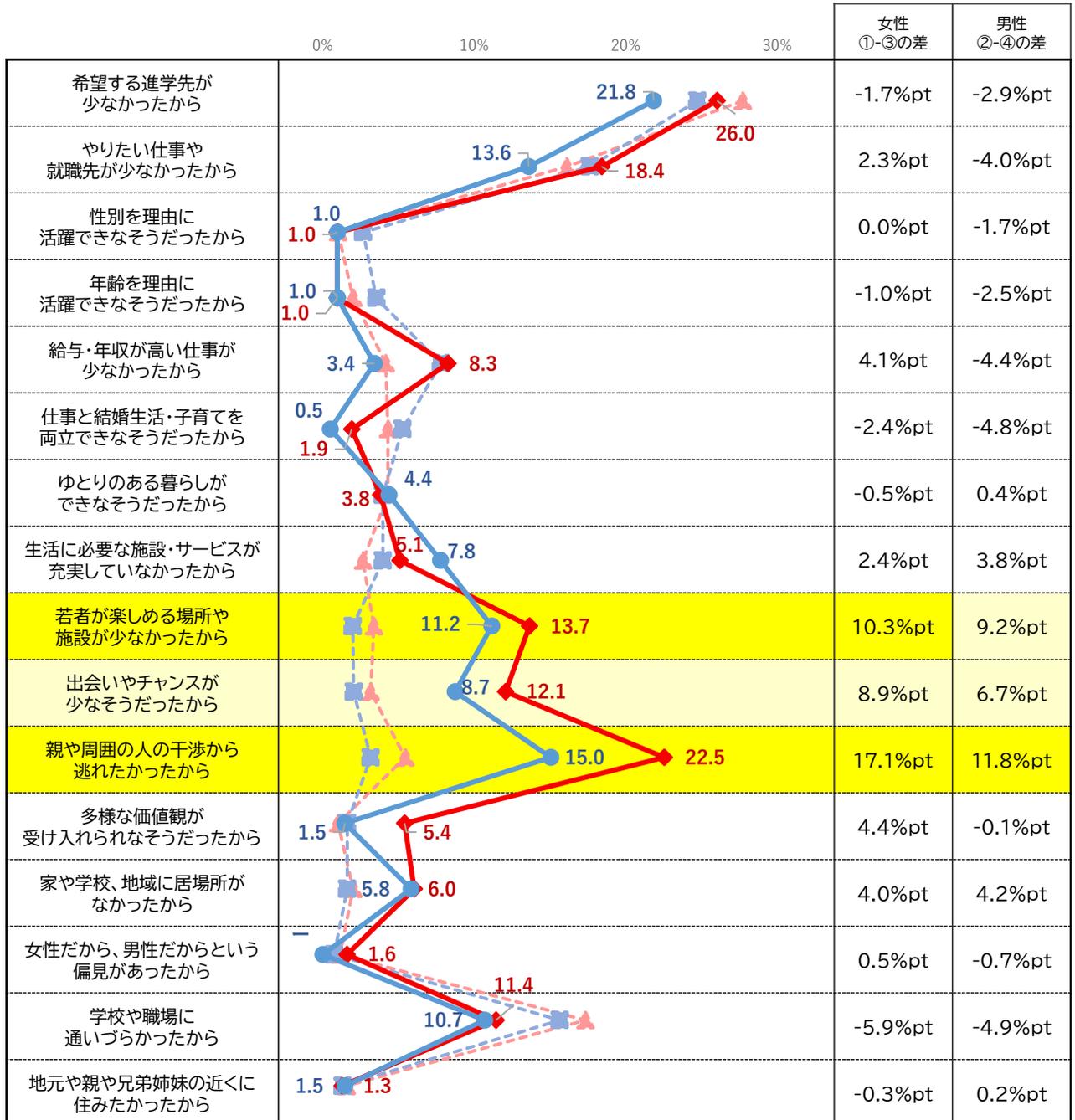
(4) 地元から離れたかった×出身地域を離れた理由(複数回答・Q27)

【対象】自分の都合で出身地域を離れた人 【分析軸】Q27で「地元から離れたかったから」を選んだか否か

- 下図は、自分の都合で出身地域を離れた人について、「地元から離れたかったから」を理由に選んだ人と、選ばなかった人に分けて、それ以外の理由を選択した割合を比較したものである。
- 男女ともに「地元から離れたかったから」を選ばなかった人に比べて、選んだ人の方が5%ポイント以上高い項目は、「親や周囲の人の干渉から逃れたかったから」「若者が楽しめる場所や施設が少なかったから」「出会いやチャンスが少なそうだったから」。
- 特に女性では、「親や周囲の人の干渉から逃れたかったから」(17.1%ポイント差)、「若者が楽しめる場所や施設が少なかったから」(10.3%ポイント差)で差が大きい。

※「地元から離れたかったから」「その他」「この中に当てはまる理由はない」の結果は割合

※「①-③」「②-④」が10%ポイントを超えるセルに黄色色掛け、5%ポイントを超えるセルに薄黄色色掛け



- ▲- ③女性/「地元から離れたかったから」を選択していない人(n=1,396)
- ④男性/「地元から離れたかったから」を選択していない人(n=1,617)
- ◆- ①女性/「地元から離れたかったから」を選択した人(n=315)
- ②男性/「地元から離れたかったから」を選択した人(n=206)

1. 地方・都会において女性が置かれている状況と課題

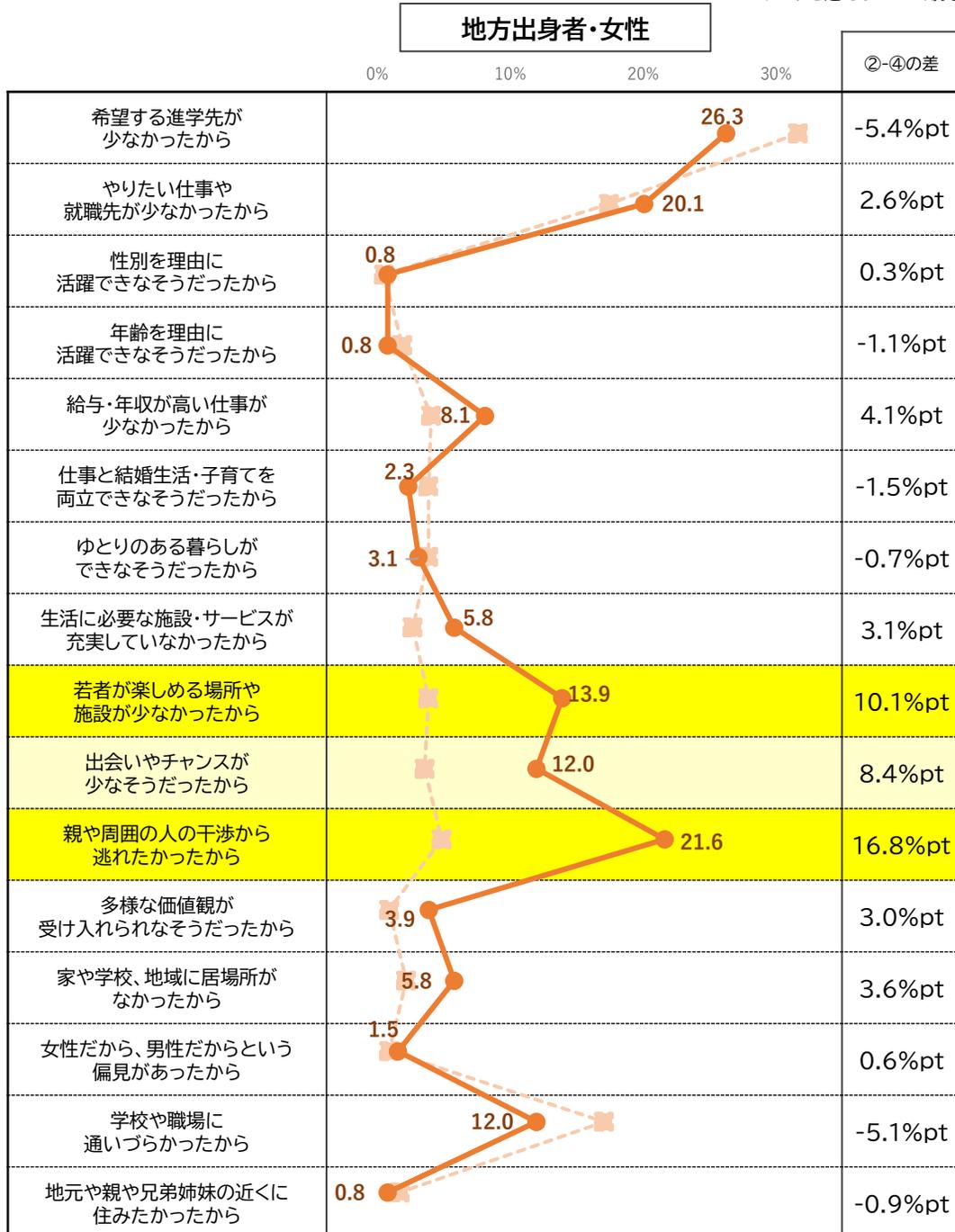
(4) 地元から離れたかった×出身地域を離れた理由(複数回答・Q27)・女性

【対象】自分の都合で出身地域を離れた地方出身の女性 【分析軸】Q27で「地元から離れたかったから」を選んだか否か

- 下図は、自分の都合で出身地域を離れた地方出身の女性について、「地元から離れたかったから」を理由に選んだ人と、選ばなかった人に分けて、それ以外の理由を選択した割合を比較したものである。
- 「地元から離れたかったから」を選ばなかった人に比べて、選んだ人の方が5%ポイント以上高い項目は、「親や周囲の人の干渉から逃れたかったから」「若者が楽しめる場所や施設が少なかったから」「出会いやチャンスが少なそうだったから」。

※「地元から離れたかったから」「その他」「この中に当てはまる理由はない」の結果は割愛

※「②-④」が10%ポイントを超えるセルに黄色色掛け、5%ポイントを超えるセルに薄黄色色掛け



---④女性/「地元から離れたかったから」を選挙していない人(n=1,014)

—②女性/「地元から離れたかったから」を選挙した人(n=259)

1. 地方・都会において女性が置かれている状況と課題

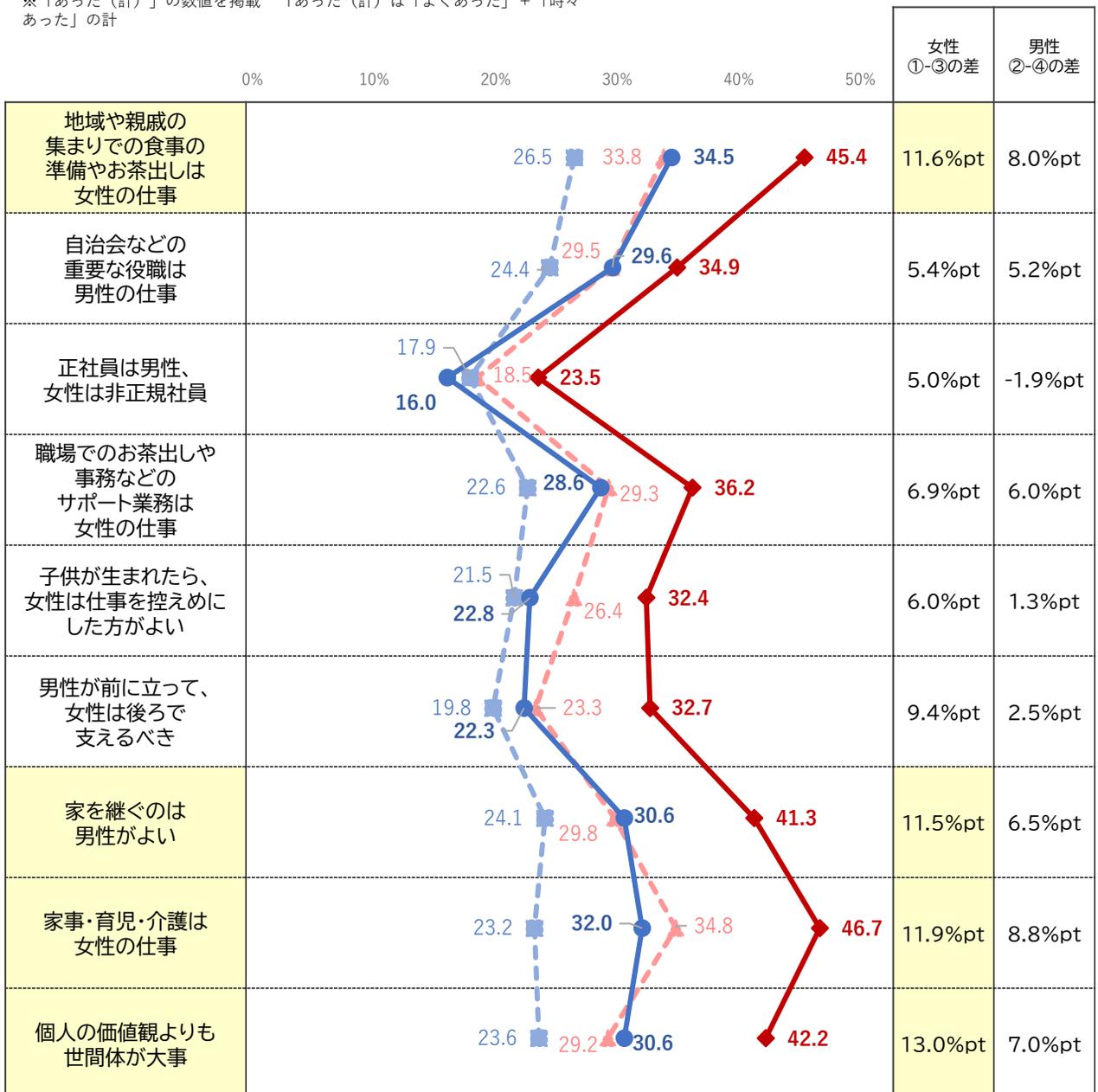
(5) 地元を離れたかった×出身地域における固定的な性別役割分担意識等の有無(Q27×Q44)

【対象】自分の都合で出身地域を離れた人 【分析軸】Q27で「地元から離れたかったから」を選んだか否か

- ・下図は、自分の都合で出身地域を離れた人について、「地元から離れたかったから」を理由に選んだ人と、選ばなかった人に分けて、出身地域で下記の項目のような意識が「あった」と感じているかどうかをみたものである。
- ・女性は全ての項目で、「地元から離れたかったから」を選んだ人の方が、出身地域で「あった」と感じている割合が高い。
- ・女性についてみると、「地元から離れたかったから」を選んだ人の方が、選ばなかった人より10%ポイント以上高い項目は、「個人の価値観よりも世間体が大事」「家事・育児・介護は女性の仕事」「地域や親戚の集まりでの食事の準備やお茶出しは女性の仕事」「家を継ぐのは男性がよい」。

※「あった(計)」の数値を掲載 「あった(計)」は「よくあった」+「時々あった」の計

※「①-③」が10%ポイントを超えるセルに薄黄色色掛け



-▲- ③女性/「地元から離れたかったから」を選ばなかった人(n=1,396)
 -■- ④男性/「地元から離れたかったから」を選ばなかった人(n=1,617)
 -◆- ①女性/「地元から離れたかったから」を選んだ人(n=315)
 -●- ②男性/「地元から離れたかったから」を選んだ人(n=206)

1. 地方・都会において女性が置かれている状況と課題

(6) 自分の都合による出身地域からの転居経験の有無と転居先 ×大学等への進学を検討した際に重視したこと(Q26×Q29)・女性

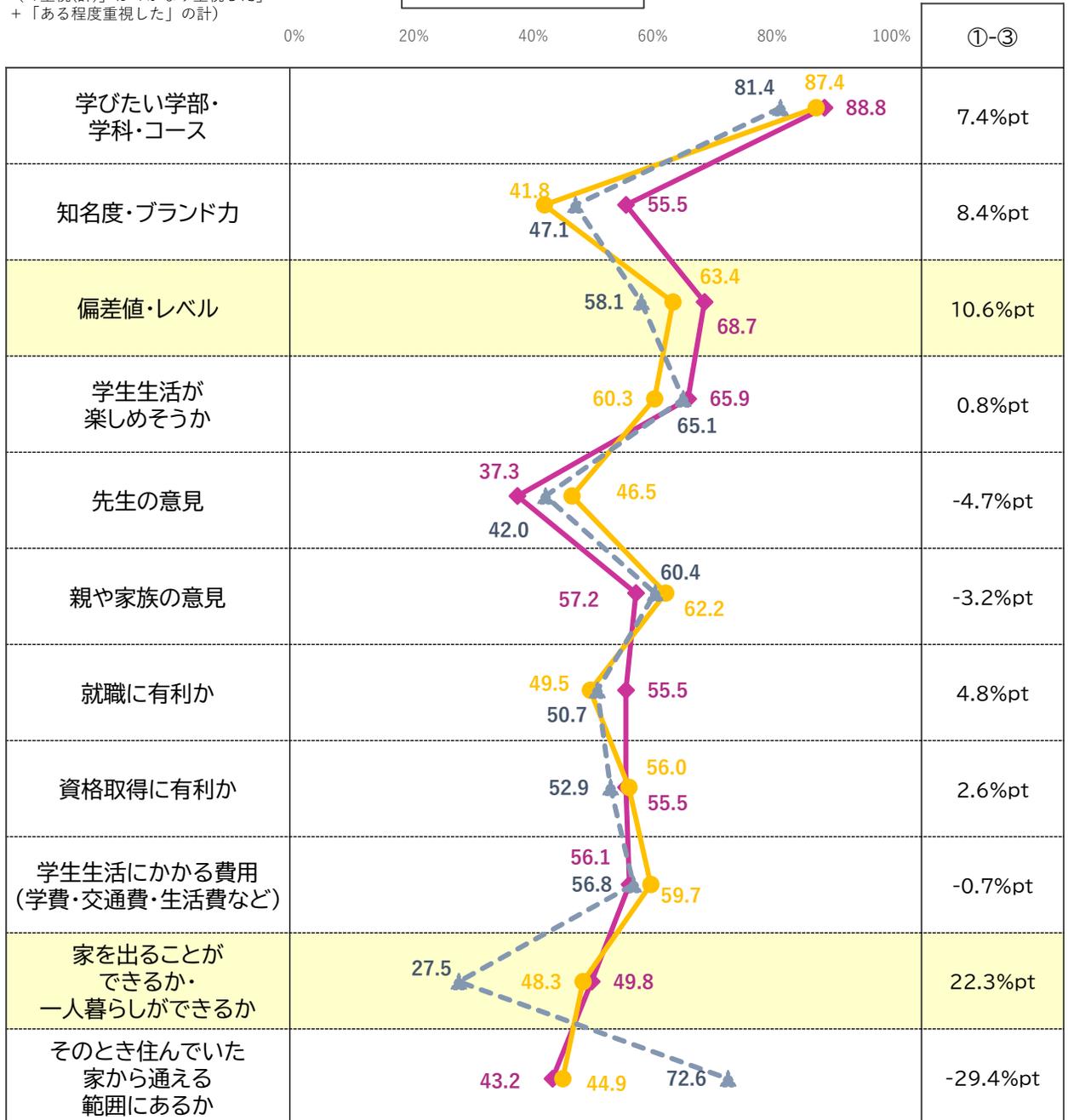
【対象】最終学歴が大学・短大・専門学校等の女性 【分析軸】Q26(自分の都合による転居経験の有無と転居先)回答別

- 「自分の都合で都会へ転居した」女性は、「中学校卒業時点と同じ地域に住み続けている」女性に比べて、「家を出ることができるか・一人暮らしができるか」「偏差値・レベル」が10%ポイント以上高い。
- 「中学校卒業時点と同じ地域に住み続けている」女性は、「そのとき住んでいた家から通える範囲にあるか」が「学びたい学部・学科・コース」の次に高く、「自分の都合で都会へ転居した」女性よりも29.4%ポイント高い。

※「重視(計)」の数値を掲載
(「重視(計)」は「かなり重視した」
+「ある程度重視した」の計)

女性

※「①-③」が10%ポイントを超えるセルに薄黄色色掛け



- ◆ ①自分の都合で都会へ転居した(n=731)
- ②自分の都合で地方へ転居した(n=325)
- ▲ ③中学校卒業時点と同じ地域に住み続けている(n=1,275)

※Q26選択肢の「都会」「地方」は回答者の主観による。

1. 地方・都会において女性が置かれている状況と課題

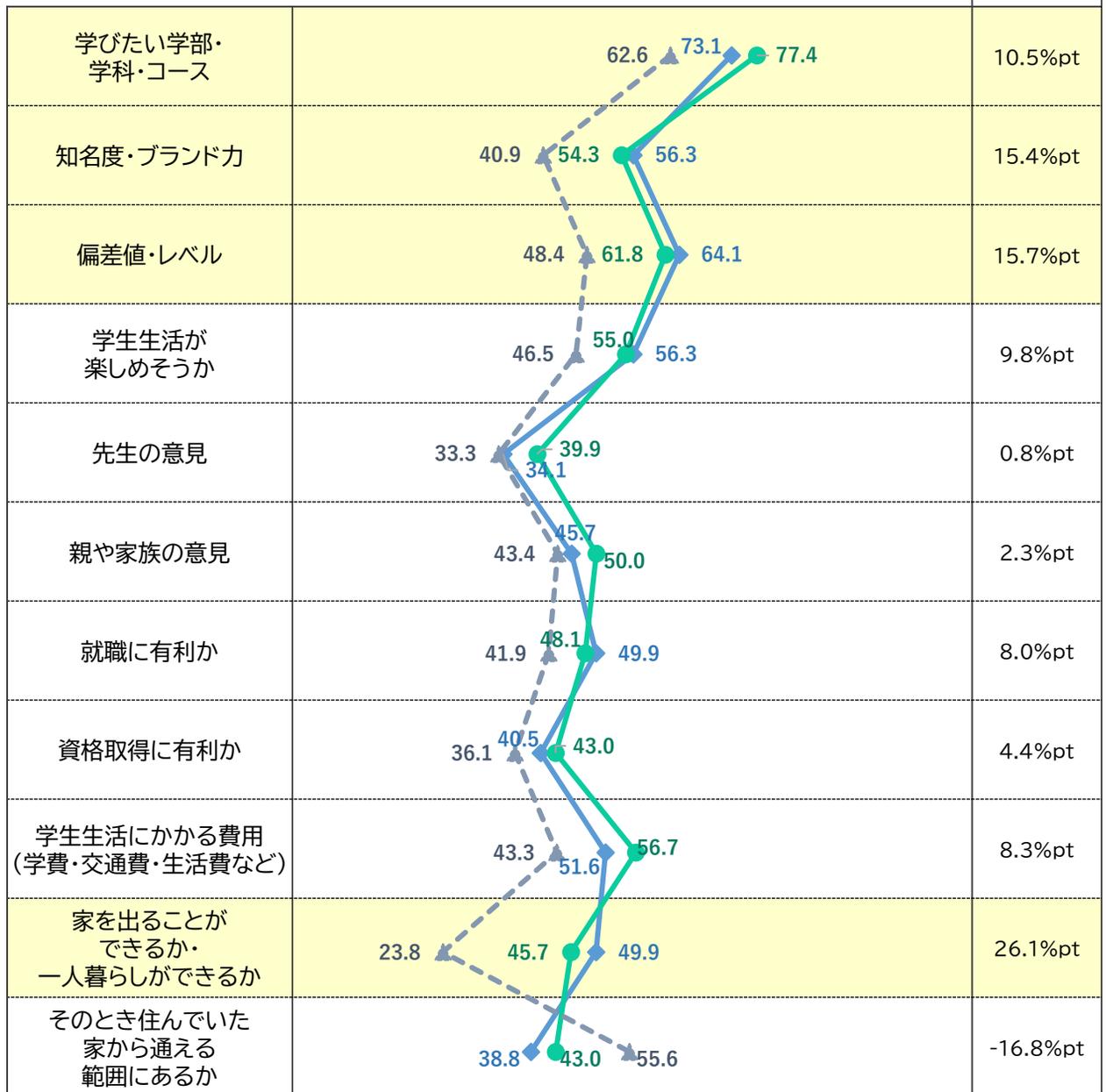
(6) 自分の都合による出身地域からの転居経験の有無と転居先 ×大学等への進学を検討した際に重視したこと(Q26×Q29)・男性

【対象】最終学歴が大学・短大・専門学校等の男性 【分析軸】Q26(自分の都合による転居経験の有無と転居先)回答別

- 「自分の都合で都会へ転居した」男性は、「中学校卒業時点と同じ地域に住み続けている」男性に比べて、「家を出ることができるか・一人暮らしができるか」「偏差値・レベル」「知名度・ブランド力」「学びたい学部・学科・コース」が10%ポイント以上高い。
- 「中学校卒業時点と同じ地域に住み続けている」男性は、女性同様に、「そのとき住んでいた家から通える範囲にあるか」が「学びたい学部・学科・コース」の次に高く、「自分の都合で都会へ転居した」男性も16.8%ポイント高い。

※「重視(計)」の数値を掲載
(「重視(計)」は「かなり重視した」
+「ある程度重視した」の計)

男性 ※「①-③」が10%ポイントを超えるセルに薄黄色色掛け



◆ ①自分の都合で都会へ転居した(n = 739)
● ②自分の都合で地方へ転居した(n = 416)
▲ ③中学校卒業時点と同じ地域に住み続けている(n = 1,526)

※Q26選択肢の「都会」「地方」は回答者の主観による。

1. 地方・都会において女性が置かれている状況と課題

(7) 自分の都合による出身地域からの転居経験の有無と転居先×仕事に就くに当たって重視したこと (Q26×Q35)・女性

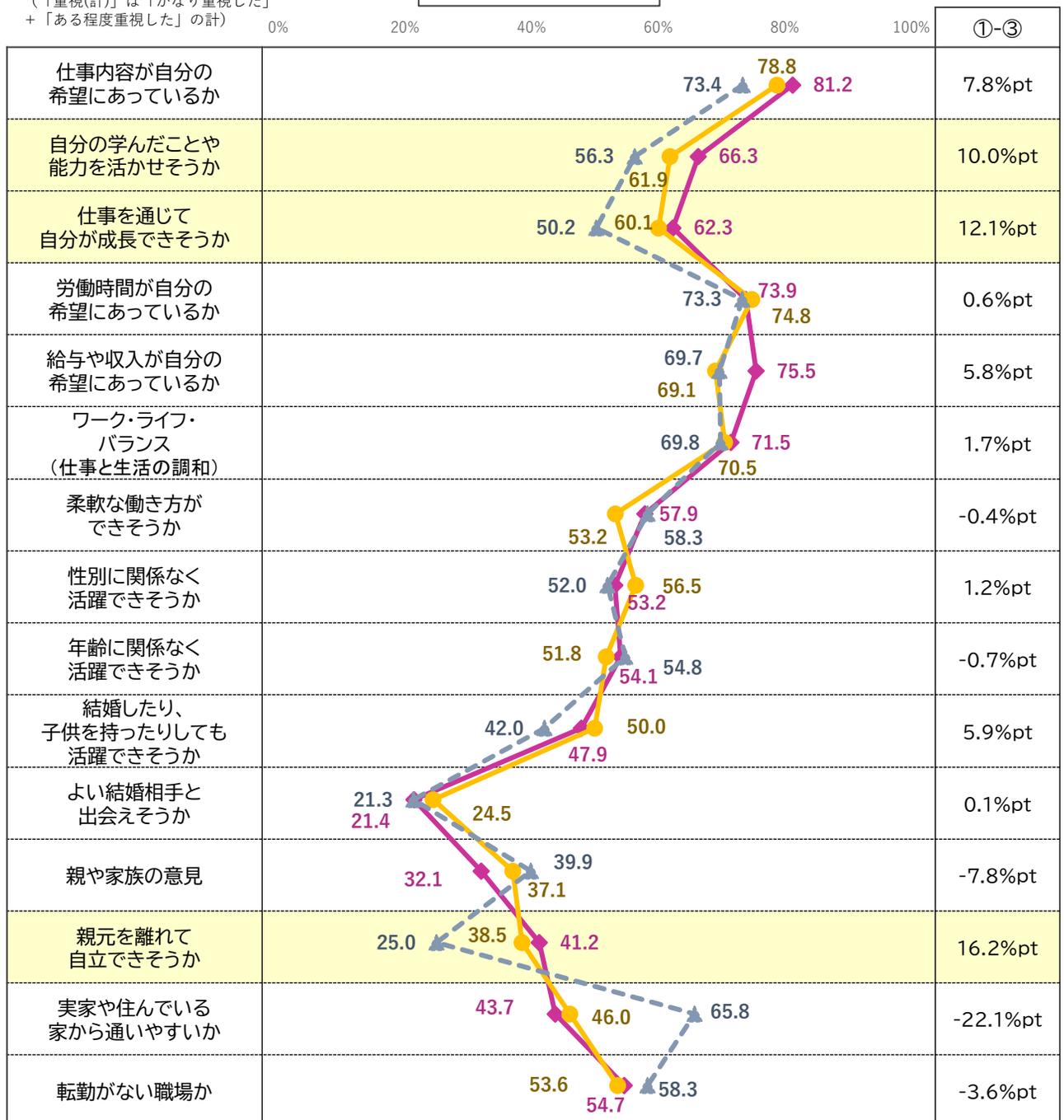
【対象】有業の女性 【分析軸】Q26(自分の都合による転居経験の有無と転居先)回答別

- 「自分の都合で都会へ転居した」女性は、「中学校卒業時点と同じ地域に住み続けている」女性に比べて、「親元を離れて自立できそうか」「仕事を通じて自分が成長できそうか」「自分の学んだことや能力を活かせそうか」が10%ポイント以上高い。
- 「中学校卒業時点と同じ地域に住み続けている」女性は、「自分の都合で都会へ転居した」女性に比べて、「実家や住んでいる家から通いやすいか」が22.1%ポイント高い。

※「重視(計)」の数値を掲載
 (「重視(計)」は「かなり重視した」
 +「ある程度重視した」の計)

有業者・女性

※「①-③」が10%ポイントを超えるセルに薄黄色色掛け



※Q26選択肢の「都会」「地方」は回答者の主観による。

◆ ①自分の都合で都会へ転居した (n=677)
 ● ②自分の都合で地方へ転居した (n=278)
 ▲ ③中学校卒業時点と同じ地域に住み続けている (n=1,396)

1. 地方・都会において女性が置かれている状況と課題

(7) 自分の都合による出身地域からの転居経験の有無と転居先×仕事に就くに当たって重視したこと (Q26×Q35)・男性

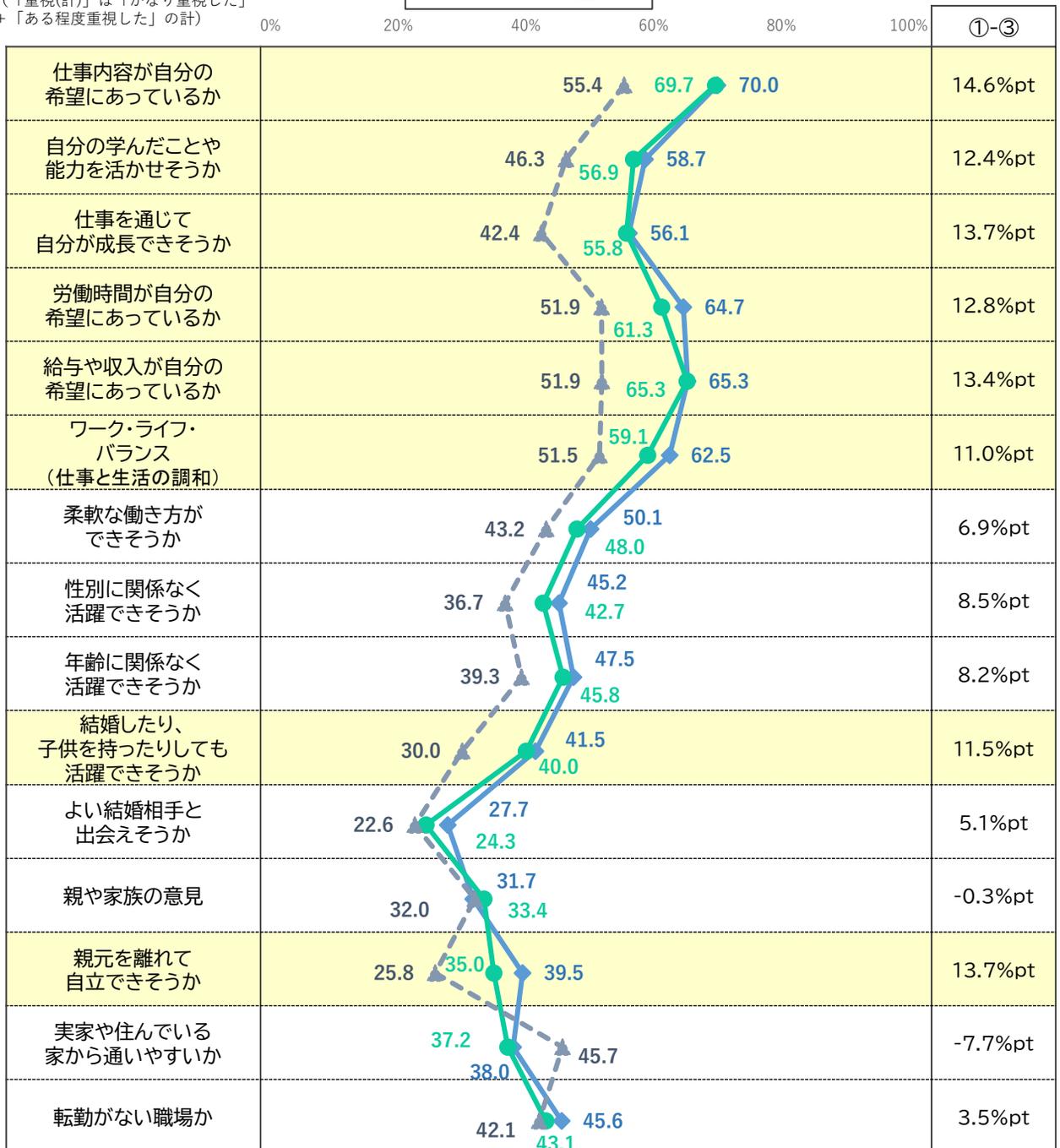
【対象】有業の男性 【分析軸】Q26(自分の都合による転居経験の有無と転居先)回答別

- ・「自分の都合で都会へ転居した」男性は、「中学校卒業時点と同じ地域に住み続けている」男性に比べて、「仕事内容が自分の希望にあっているか」「仕事を通じて自分が成長できそうか」「親元を離れて自立できそうか」「給与や収入が自分の希望にあっているか」「労働時間が自分の希望にあっているか」「自分の学んだことや能力を活かせそうか」「結婚したり、子供を持ったりしても活躍できそうか」「ワーク・ライフ・バランス」が10%ポイント以上高い。
- ・「中学校卒業時点と同じ地域に住み続けている」男性は、「自分の都合で都会へ転居した」男性に比べて、「実家や住んでいる家から通いやすいか」が7.7%ポイント高い。

※「重視(計)」の数値を掲載
 (「重視(計)」は「かなり重視した」
 + 「ある程度重視した」の計)

有業者・男性

※「①-③」が10%ポイントを超えるセルに薄黄色色掛け



※Q26選択肢の「都会」「地方」は回答者の主観による。

①自分の都合で都会へ転居した (n=750)
 ②自分の都合で地方へ転居した (n=452)
 ③中学校卒業時点と同じ地域に住み続けている (n=1,726)

1. 地方・都会において女性が置かれている状況と課題

(8) 自分の都合による出身地域からの転居経験の有無と転居先 ×初職検討時の希望業種(Q26×Q34)

【対象】有業者 【分析軸】Q26(自分の都合による転居経験の有無と転居先)回答別

- 「自分の都合で都会へ転居した」人では、「情報通信業」が(女性10.2%、男性14.4%)と、他の区分に比べて高い。
- 「中学校卒業時点と同じ地域に住み続けている」人では、「特に希望はなかった・まだ考えられない」が男女とも3割と、他の区分に比べて高い。
- 「自分の都合で地方へ転居した」男性では、「製造業」が20.6%と、他の区分に比べて高い。

※10%を超えるセルに 薄黄色色掛け	女性			男性		
	自分の都合で 都会へ転居した (n=677)	自分の都合で 地方へ転居した (n=278)	中学校卒業時点 と同じ地域に 住み続けている (n=1,396)	自分の都合で 都会へ転居した (n=750)	自分の都合で 地方へ転居した (n=452)	中学校卒業時点 と同じ地域に 住み続けている (n=1,726)
農業、林業、漁業	1.0%	0.7%	0.4%	1.1%	3.3%	2.4%
鉱業、採石業、 砂利採取業	0.6%	0.4%	—	1.7%	0.9%	0.4%
建設業	2.5%	1.8%	1.7%	5.3%	6.9%	4.2%
製造業	8.4%	9.7%	9.0%	14.7%	20.6%	15.6%
電気・ガス・熱供給・ 水道業	1.0%	—	0.9%	3.3%	3.1%	2.0%
情報通信業	10.2%	4.3%	2.7%	14.4%	8.0%	6.8%
運輸業、郵便業	2.7%	1.4%	1.9%	4.0%	5.3%	6.1%
卸売業、小売業	9.2%	7.2%	11.2%	3.7%	6.6%	7.5%
金融業、保険業	4.6%	2.9%	3.6%	4.3%	3.8%	2.2%
不動産業、物品賃貸業	1.8%	0.4%	1.4%	3.1%	2.2%	1.3%
学術研究、専門・ 技術サービス業	1.9%	1.4%	2.0%	5.2%	3.3%	1.8%
宿泊業、 飲食サービス業	9.2%	10.4%	8.2%	3.9%	2.0%	3.7%
生活関連サービス業、 娯楽業	6.5%	4.3%	4.4%	2.3%	1.3%	2.6%
教育、学習支援業	5.6%	6.8%	4.3%	4.8%	7.5%	2.9%
医療、福祉	23.6%	27.7%	18.6%	6.0%	8.6%	7.4%
複合サービス事業	2.1%	1.4%	1.4%	1.1%	—	1.4%
その他のサービス業	2.5%	2.2%	2.9%	2.3%	2.7%	4.2%
国家公務員、 地方公務員	4.9%	4.3%	4.6%	11.5%	9.1%	5.9%
その他	6.5%	5.4%	7.8%	6.8%	6.2%	4.6%
特に希望はなかった・ まだ考えられない	20.2%	19.1%	29.9%	18.5%	15.7%	31.6%

※Q26選択肢の「都会」「地方」は回答者の主観による。Q34の希望業種は複数回答。

1. 地方・都会において女性が置かれている状況と課題

※本ページは、調査検討委員会 高見 具広委員(独立行政法人労働政策研究・研修機構(JILPT)主任研究員)の協力を得て作成した。

(1) 現住地域の総合満足度に特に影響を与えている項目(単数回答・Q23)

【対象】全員【分析軸】現住地域別

- ・現住地域の総合満足度に何が関係するのか。項目別満足度と地域総合満足度との関係が現住地域や性別で異なる可能性について、回帰分析で確認した。

<方法>

- ・項目別満足度は、項目間の相関が強いため、多重共線性の影響を考慮し、地域の総合満足度と各項目との関係を回帰分析により推定する¹。なお、地域満足度には、年齢、未既婚、子供有無、就業形態が関係しうるため、そうした個人属性をコントロールした(未既婚の設問に無回答のサンプルは分析対象から除外した)。
- ¹ ただし、回帰分析は因果関係を直接示すものではなく、統計的な関連性を示すものである点に留意する必要がある。
- ・標準化回帰係数(β)を用いることで、同一モデル内で各説明変数の影響の大きさを比較できる。ここでは、男女・現住地域別の4つの回帰モデルを推定し、それぞれのモデル内で標準化回帰係数(β)の大きさや統計的有意性に基づき、影響の大きい説明変数を抽出した。抽出した説明変数の違いをもとに、地域の総合満足度に関係する項目が居住地域や性別によって異なる傾向があるかを考察する。
- ・満足度の変数については、調査票Q23の15項目を、それぞれ、等間隔の間隔尺度になるよう、「満足」=1.5点、「どちらかといえば満足」=0.5点、「どちらかといえば不満」=-0.5点、「不満」=-1.5点と点数化して用いる。「わからない」という回答は0点とした。

<結果>

- ・回帰分析の結果を表1に示す。性別や現住地域によらず、地域総合満足度に関係する個別項目は多いことがわかる。様々な要素が地域総合満足度に寄与することが示唆される。
- ・性別・現住地域別の4つの回帰モデルそれぞれについて、標準化回帰係数に基づき、地域総合満足度との関係が強い説明変数の上位5項目を抽出し、表2に示す。性別や現住地域によって、地域総合満足度に強く関係する項目はやや異なることがわかる。
- ・まず、性別・現住地域によらず、「買い物や娯楽施設の利便性」は、地域総合満足度との関係が最も強い項目となっている。
- ・「自然環境の豊かさ」は、女性/都会居住層において5番目、女性/地方居住層において2番目、男性/都会居住層において5番目、男性/地方居住層において3番目に、地域総合満足度との関係が強い項目となっている。
- ・「公共交通機関などの利便性」は、男性/都会居住層において2番目に、地域総合満足度との関係が強い項目となっている。
- ・「地域の活気や賑わい」は、女性/都会居住層において2番目、女性/地方居住層において4番目に、地域総合満足度への関係が強い項目となっている。
- ・「多様な生き方・価値観の尊重」は、女性/地方居住層において5番目、男性/地方居住層において4番目に、地域総合満足度への関係が強い項目となっている。
- ・「生活費などの妥当性」は、女性/都会居住層において3番目、男性/地方居住層において2番目に、地域総合満足度への関係が強い項目となっている。
- ・「新しい出会いやつながり・交友関係の広がり」は、女性/都会居住層において4番目、女性/地方居住層において3番目、男性/都会居住層において3番目に、地域総合満足度への関係が強い項目となっている。
- ・このほか、6番目以降では、「性別・年齢にかかわらず活躍できる環境」が、女性/都会居住層において7番目、女性/地方居住層において6番目に、地域総合満足度との関係が強い項目となっている。
- ・地域総合満足度に関係する要素として、男女・現住地域で共通する点は多くあるものの、地方に居住する者では、性別によらず「多様な生き方・価値観の尊重」が上位に挙げられることが特徴である。あわせて、女性では、居住地域によらず「性別・年齢にかかわらず活躍できる環境」がやや上位に挙げられるという特徴がある。

1. 地方・都会において女性が置かれている状況と課題

※本ページは、調査検討委員会 高見 具広委員(独立行政法人労働政策研究・研修機構(JILPT)主任研究員)の協力を得て作成した。

(1) 現住地域の総合満足度に特に影響を与えている項目(単数回答・Q23)

【対象】全員【分析軸】現住地域別

・現住地域の総合満足度に何に関係するのか。項目別満足度と地域総合満足度との関係が現住地域や性別で異なる可能性について、回帰分析で確認した。

表1. 地域の総合満足度の規定要因(OLS)

分析対象	女性／都会居住層		女性／地方居住層		男性／都会居住層		男性／地方居住層	
	標準化係数	標準誤差	標準化係数	標準誤差	標準化係数	標準誤差	標準化係数	標準誤差
年齢	-.017	.002	-.019	.002	-.039 *	.002	.024	.002
既婚(ref.未婚)	.063 *	.036	.024	.030	-.014	.040	.015	.035
子どもあり(ref.子どもなし)	.010	.038	-.006	.031	-.042	.045	-.007	.038
就業形態(ref.正規雇用)								
非正規雇用	-.034	.028	-.002	.024	-.023	.034	-.011	.026
自営業等	-.050 **	.058	-.014	.049	-.014	.049	.001	.037
学生	-.022	.042	-.012	.035	-.006	.044	.020	.035
無職	-.053 **	.033	-.042 **	.027	-.024	.040	-.007	.029
仕事の選択肢の豊富さ	.098 ***	.020	.063 ***	.015	.084 ***	.020	.082 ***	.016
仕事による収入の妥当性	.024	.019	.061 ***	.016	.076 ***	.020	.059 ***	.016
生活費などの妥当性	.103 ***	.017	.079 ***	.015	.059 **	.019	.119 ***	.015
公共交通機関などの利便性	.085 ***	.017	.068 ***	.014	.128 ***	.018	.077 ***	.014
買い物や娯楽施設の利便性	.177 ***	.019	.163 ***	.015	.170 ***	.020	.123 ***	.015
自然環境の豊かさ	.101 ***	.015	.148 ***	.013	.083 ***	.017	.108 ***	.012
子育て環境・サービスの充実度	.026	.023	.020	.019	.058 **	.025	.029	.019
医療・福祉サービスの充実度	.025	.023	.062 **	.019	.028	.024	.088 ***	.018
教育・文化サービスの充実度	.036	.026	.000	.021	.016	.025	.033	.019
地域の活気や賑わい	.114 ***	.023	.114 ***	.019	.062 **	.024	.061 ***	.018
地域に根ざした活動	.039	.023	.016	.020	.081 ***	.023	.080 ***	.018
性別・年齢にかかわらず活躍できる環境	.087 ***	.025	.081 ***	.022	.069 **	.024	.054 **	.019
多様な生き方・価値観の尊重	.066 **	.026	.088 ***	.022	.049 *	.025	.095 ***	.019
新しい出会いやつながり・交友関係の広がり	.102 ***	.022	.125 ***	.019	.100 ***	.024	.081 ***	.018
F値		108.700		203.200		131.800		222.600
R ²		0.553		0.592		0.599		0.603
N		1871		2962		1872		3106

注:***p<.001 **p<.01; *p<.05.

表2. 地域総合満足度に強く関係する要素(各モデルの標準化回帰係数に基づく上位5項目)

	女性／都会居住層	女性／地方居住層	男性／都会居住層	男性／地方居住層
1位	買い物や娯楽施設の利便性	買い物や娯楽施設の利便性	買い物や娯楽施設の利便性	買い物や娯楽施設の利便性
2位	地域の活気や賑わい	自然環境の豊かさ	公共交通機関などの利便性	生活費などの妥当性
3位	生活費などの妥当性	新しい出会いやつながり・交友関係の広がり	新しい出会いやつながり・交友関係の広がり	自然環境の豊かさ
4位	新しい出会いやつながり・交友関係の広がり	地域の活気や賑わい	仕事の選択肢の豊富さ	多様な生き方・価値観の尊重
5位	自然環境の豊かさ	多様な生き方・価値観の尊重	自然環境の豊かさ	医療・福祉サービスの充実度

2. 地域ブロック別にみた特徴

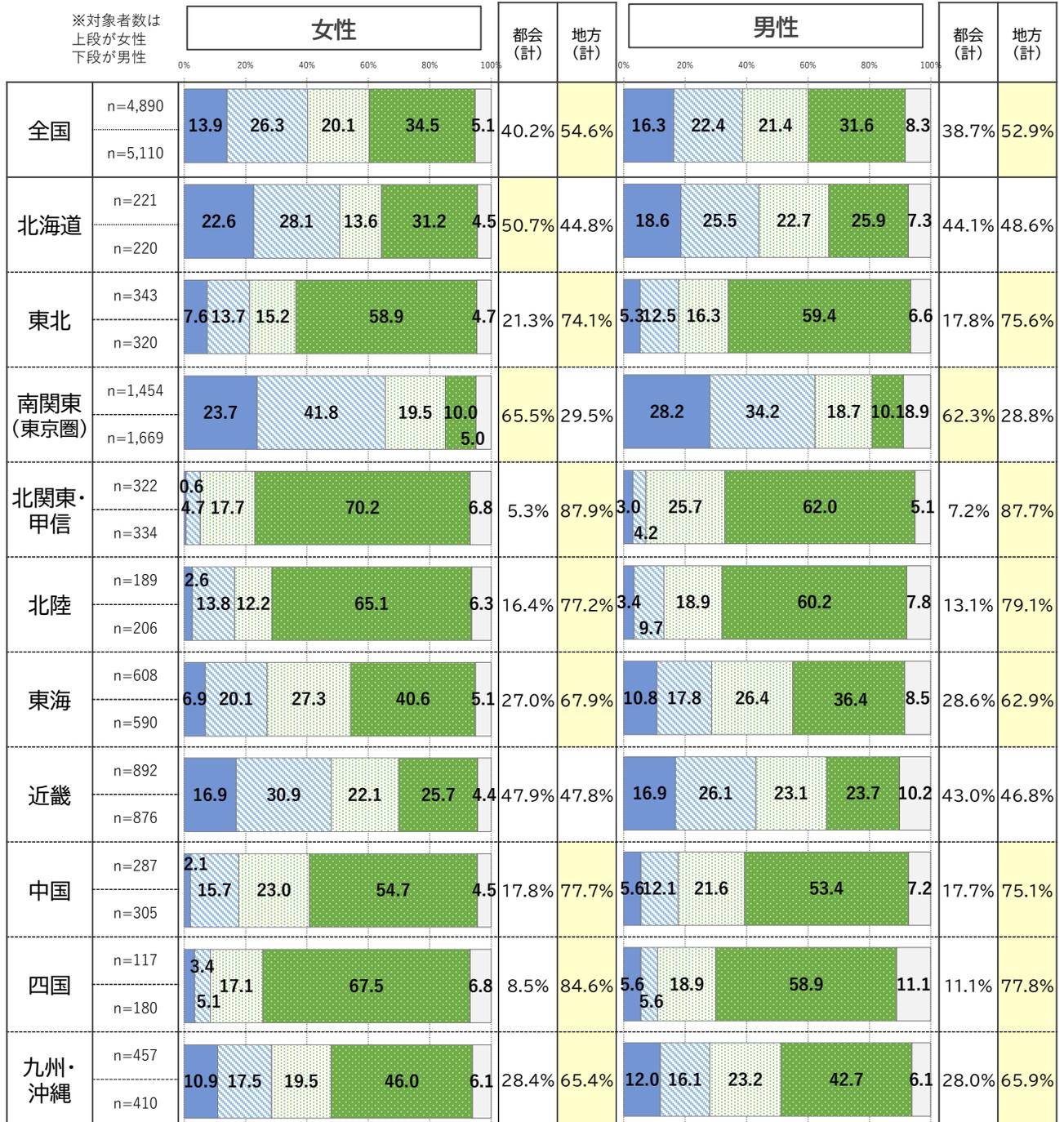
(1) 現住地域は「都会」だと思うか「地方」だと思うか(単数回答・Q21)

【対象】全員 【分析軸】現住地域(地域ブロック10区分)別

- ・現住地域が都会だと思うか地方だと思うかに関する本人の認識を聞いた結果を掲載。なお、本調査の「都会」「地方」区分定義に基づくものではなく、回答者の主観による。
- ・地域ブロック別にみると、女性で「都会(計)」が最も高いのは、南関東(東京圏)65.5%、次いで、北海道50.7%。近畿は「都会(計)」「地方(計)」がいずれも5割弱で同程度。「地方(計)」が最も高いのは「北関東・甲信」で87.9%。
- ・男性では、「都会(計)」が最も高いのは、南関東(東京圏)62.3%。北海道及び近畿は「都会(計)」が4割、「地方(計)」が5割。「地方(計)」が最も高いのは「北関東・甲信」で87.7%。

※50%を超えるセルに薄黄色色掛け

※「都会(計)」は「都会だと思う」+「どちらかといえば都会だと思う」の計
 ※「地方(計)」は「地方だと思う」+「どちらかといえば地方だと思う」の計



■ 都会だと思う
 ■ どちらかといえば都会だと思う
 ■ どちらかといえば地方だと思う
■ 地方だと思う
 □ わからない・考えられない

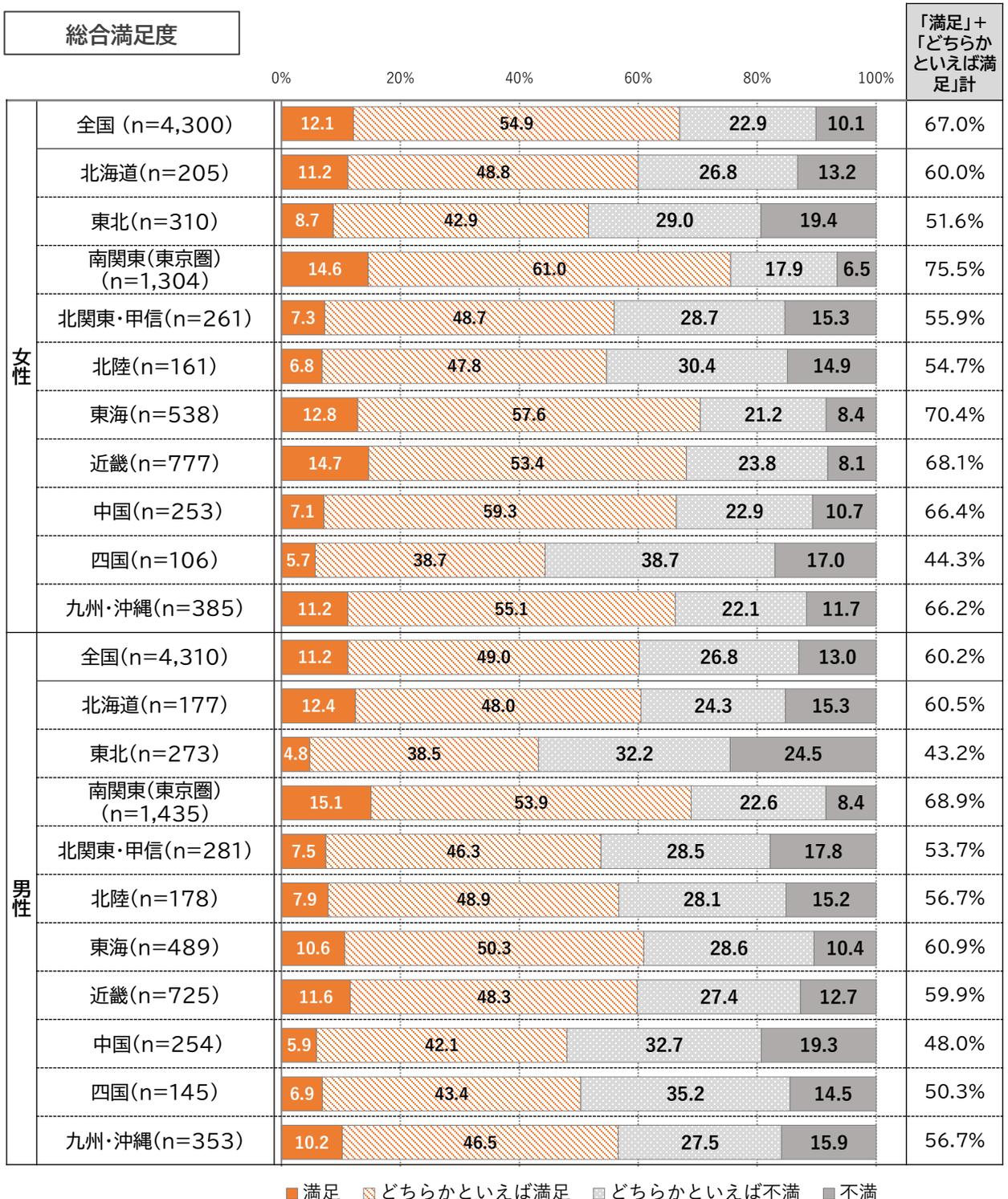
2. 地域ブロック別にみた特徴

(2) 現住地域に満足しているか(単数回答・Q23)

【対象】全員 【分析軸】現住地域(地域ブロック10区分)別

- ・「満足」+「どちらかといえば満足」計を、「全国」で見ると、女性67.0%、男性60.2%で女性の方が高い。
- ・地域ブロック別にみると、女性は「南関東(東京圏)」で最も高く、「四国」で最も低い。男性は「南関東(東京圏)」で最も高く、「東北」で最も低い。

※分母から「わからない」と答えた人を除いて算出した割合を掲載



2. 地域ブロック別にみた特徴

(2) 現住地域に満足しているか(単数回答・Q23)・女性

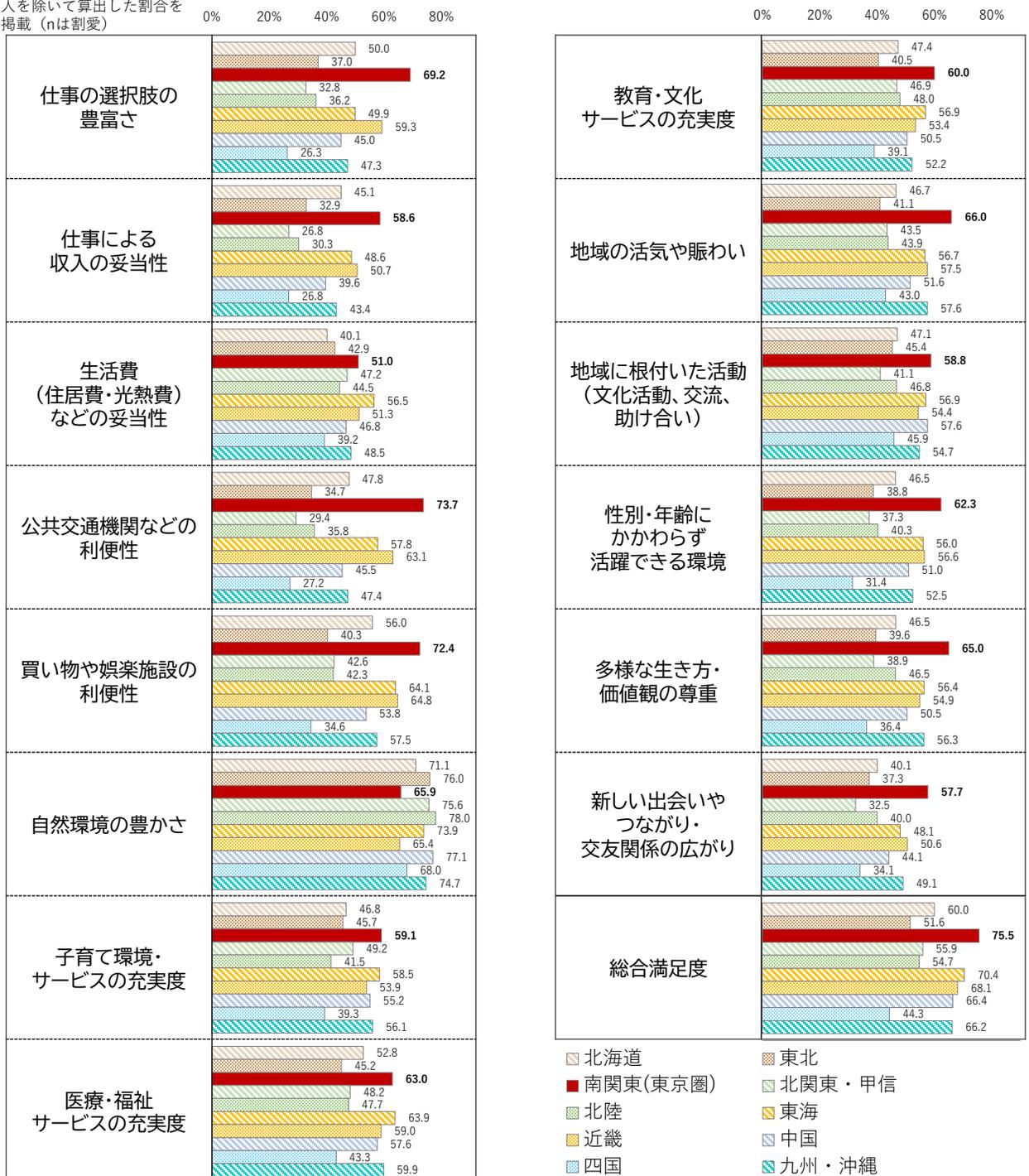
【対象】全員 【分析軸】現住地域(地域ブロック10区分)別

- ・「南関東(東京圏)」「東海」「近畿」で「満足(計)」が項目が多く、「南関東(東京圏)」と「近畿」では全ての項目で50%を超える。
- ・「四国」で「満足(計)」の割合が最も低い項目が多い。「公共交通機関などの利便性」「仕事による収入の妥当性」「仕事の選択肢の豊富さ」は特に低い。

※「満足(計)」の数値を掲載
(「満足」+「どちらかといえば満足」の計)

※各項目について、分母から「わからない」と答えた人を除いて算出した割合を掲載 (nは割愛)

女性



2. 地域ブロック別にみた特徴

(2) 現住地域に満足しているか(単数回答・Q23)・男性

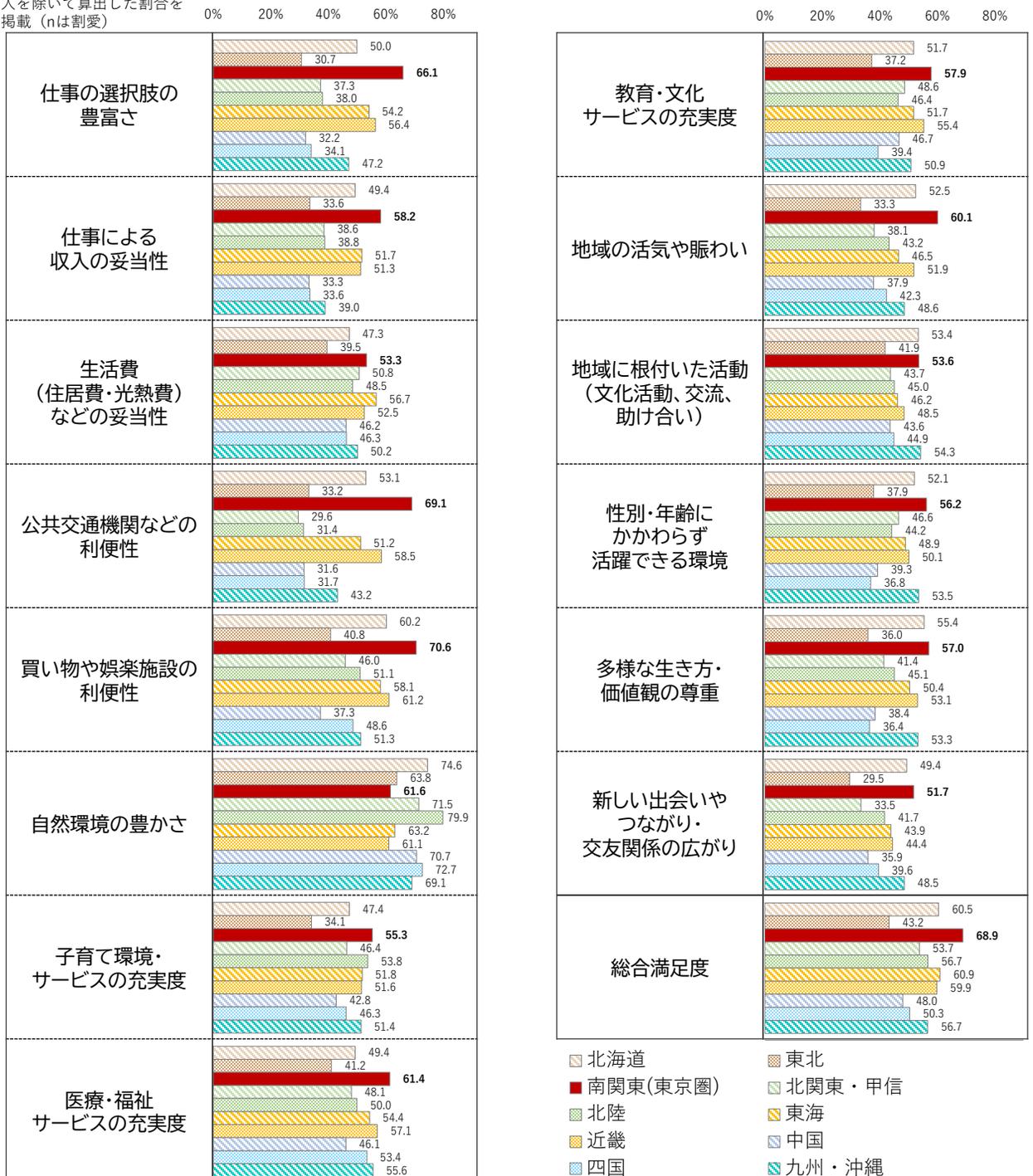
【対象】全員 【分析軸】現住地域(地域ブロック10区分)別

- ほとんどの項目で、「南関東(東京圏)」で「満足(計)」の割合が最も高く、全ての項目で50%を超える。
- 「東北」で「満足(計)」の割合が最も低い項目が多い。「新しい出会いやつながり・交友関係の広がり」は特に低い。

※「満足(計)」の数値を掲載
(「満足」+「どちらかといえば満足」の計)

男性

※各項目について、分母から「わからない」と答えた人を除いて算出した割合を掲載 (nは割愛)



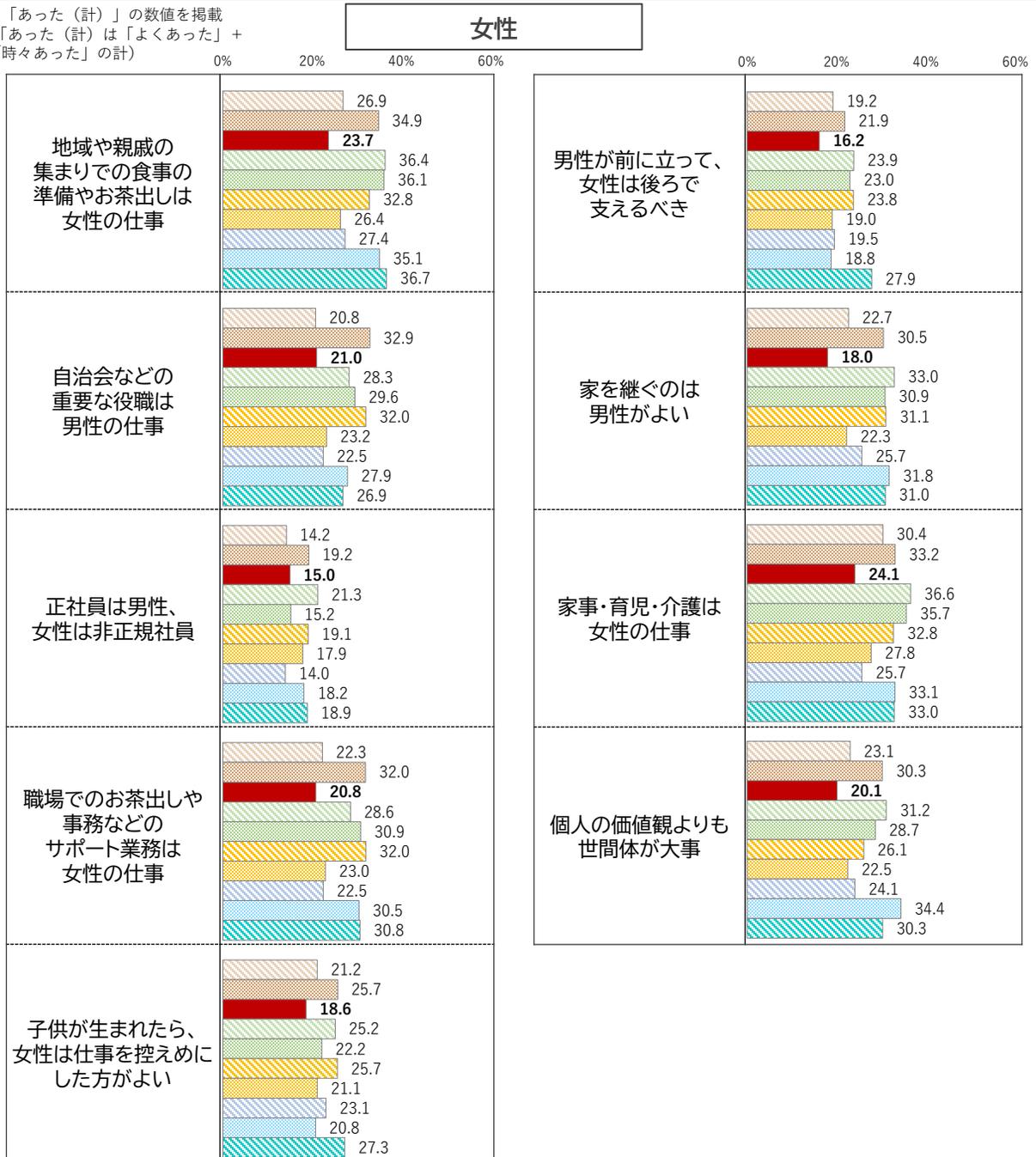
2. 地域ブロック別にみた特徴

(3) 出身地域における固定的な性別役割分担意識等の有無(単数回答・Q44)・女性

【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域(地域ブロック10区分)別

- 出身地域で「あった(計)」と感じている人の割合は、多くの項目で、「南関東(東京圏)」出身で最も低い。
- 「家事・育児・介護は女性の仕事」は、「南関東(東京圏)」「中国」「近畿」を除くすべての出身地域で3割を超える。
- 「地域や親戚の集まりでの食事の準備やお茶出しは女性の仕事」は、「東北」「北関東・甲信」「北陸」「東海」「四国」「九州・沖縄」出身、「職場でのお茶出しや事務などのサポート業務は女性の仕事」は、「東北」「北陸」「東海」「四国」「九州・沖縄」出身で3割を超える。
- 「男性が前に立って、女性は後ろで支えるべき」は、「九州・沖縄」出身で27.9%と最も高い。

※「あった(計)」の数値を掲載
(「あった(計)」は「よくあった」+
「時々あった」の計)



北海道(n=260)

東北(n=416)

南関東(東京圏)(n=1,132)

北関東・甲信(n=385)

北陸(n=230)

東海(n=643)

近畿(n=861)

中国(n=307)

四国(n=154)

九州・沖縄(n=491)

2. 地域ブロック別にみた特徴

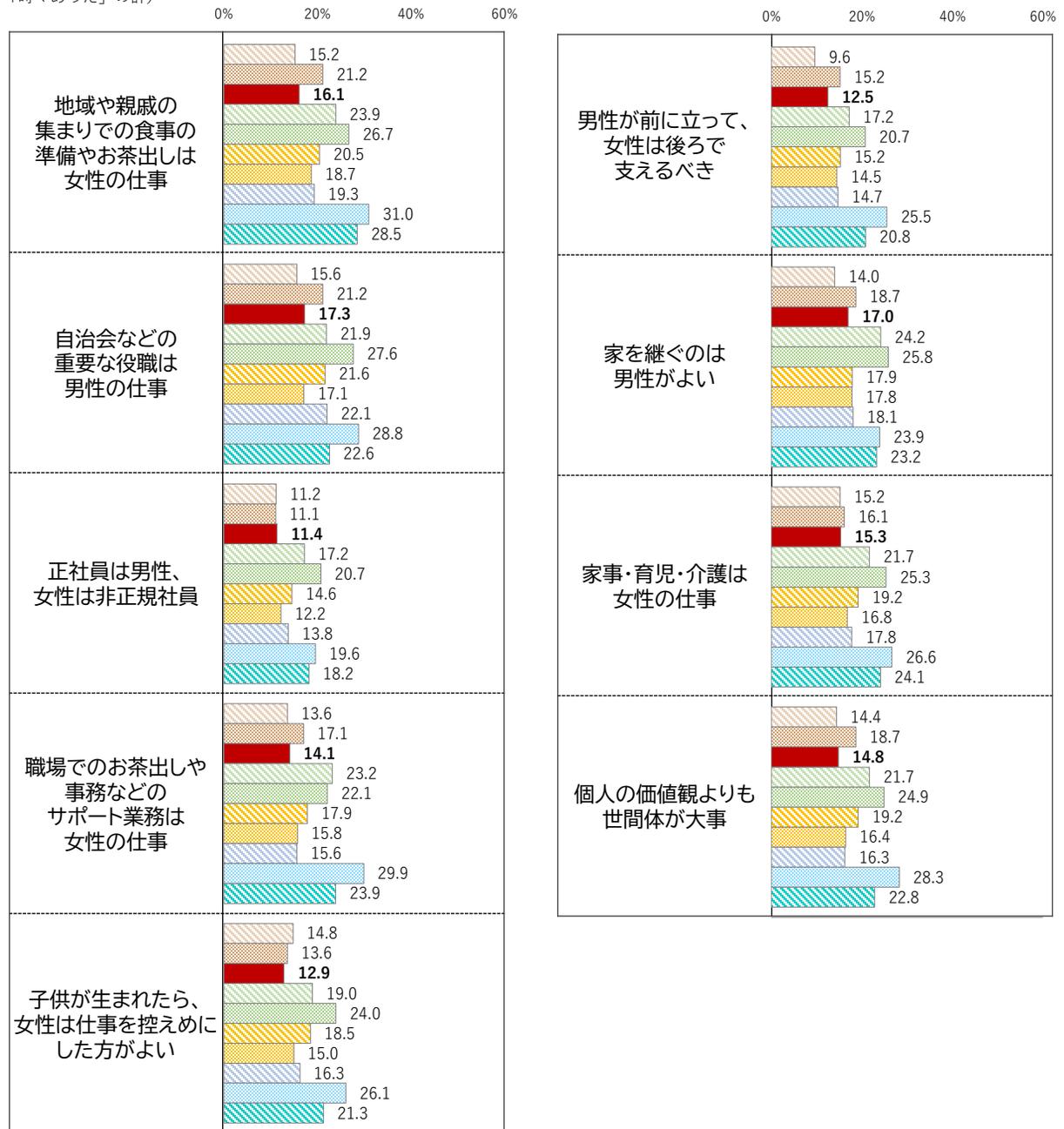
(3) 出身地域における固定的な性別役割分担意識等の有無(単数回答・Q44)・男性

【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域(地域ブロック10区分)別

- ・出身地域で「あった(計)」と感じている人の割合は、多くの項目で「四国」「北陸」出身で高く、「北海道」「南関東(東京圏)」出身で低い。
- ・「地域や親戚の集まりでの食事の準備やお茶出しは女性の仕事」「職場でのお茶出しや事務などのサポート業務は女性の仕事」は、「四国」出身ではいずれも3割。

※「あった(計)」の数値を掲載
(「あった(計)」は「よくあった」+
「時々あった」の計)

男性



北海道(n=250)

東北(n=434)

南関東(東京圏)(n=1,344)

北関東・甲信(n=401)

北陸(n=217)

東海(n=610)

近畿(n=876)

中国(n=326)

四国(n=184)

九州・沖縄(n=456)

2. 地域ブロック別にみた特徴

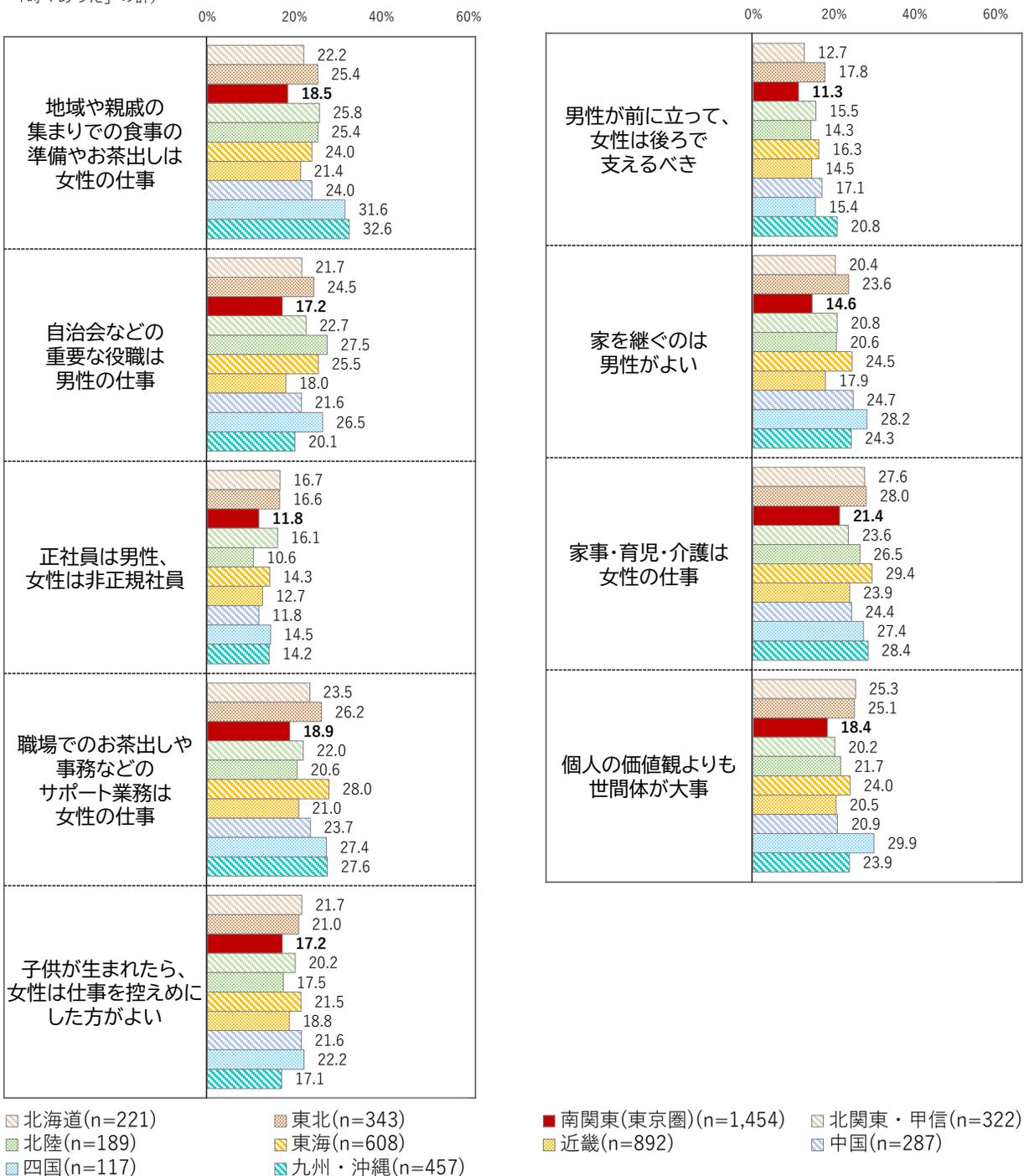
(4) 現住地域や勤務先における固定的な性別役割分担意識等の有無(単数回答・Q43)・女性

【対象】全員 【分析軸】現住地域(地域ブロック10区分)別

- ・現住地域に「ある(計)」と感じている女性の割合は、多くの項目で「四国」で高く、「南関東(東京圏)」「近畿」で低い。
- ・「地域や親戚の集まりでの食事の準備やお茶出しは女性の仕事」は、「四国」「九州・沖縄」では3割を超える。
- ・「個人の価値観よりも世間体が大事」「家を継ぐのは男性がよい」は、「四国」で3割と最も高い。

※「あった(計)」の数値を掲載
(「あった(計)」は「よくあった」+
「時々あった」の計)

女性



2. 地域ブロック別にみた特徴

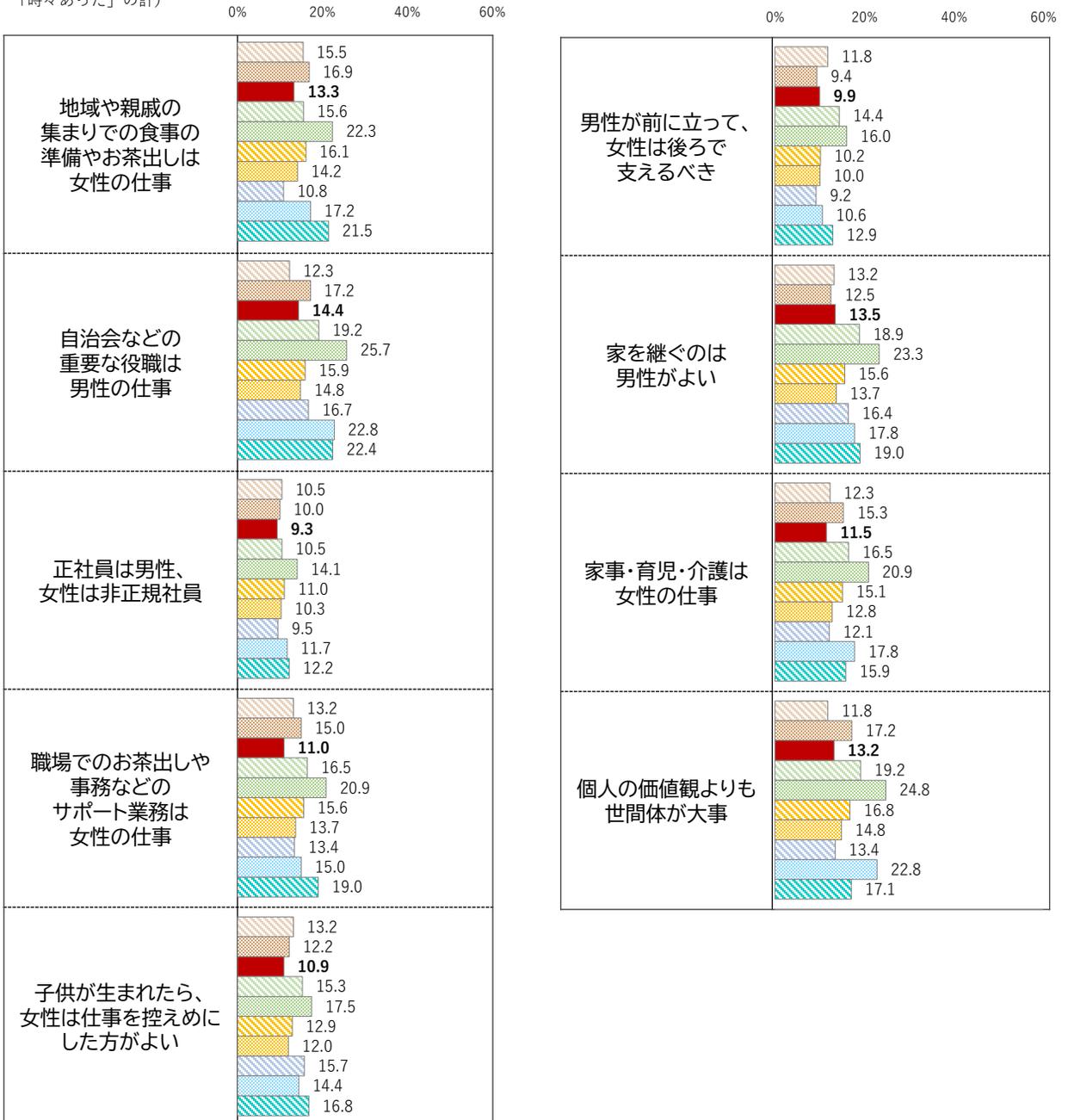
(4) 現住地域や勤務先における固定的な性別役割分担意識等の有無(単数回答・Q43)・男性

【対象】全員 【分析軸】現住地域(地域ブロック10区分)別

- 現住地域に「ある(計)」と感じている男性の割合は、女性に比べて地域差が小さいが、全ての項目で「北陸」が最も高い。
- 「地域や親戚の集まりでの食事の準備やお茶出しは女性の仕事」は、「北陸」「九州・沖縄」では2割を超える。

※「あった(計)」の数値を掲載
(「あった(計)」は「よくあった」+
「時々あった」の計)

男性



■ 北海道(n=220) ■ 東北(n=320) ■ 南関東(東京圏)(n=1,669) ■ 北関東・甲信(n=334)
■ 北陸(n=206) ■ 東海(n=590) ■ 近畿(n=876) ■ 中国(n=305)
■ 四国(n=180) ■ 九州・沖縄(n=410)

2. 地域ブロック別にみた特徴

(5) 出身地域への愛着度(単数回答・Q5②)・女性

【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域(地域ブロック10区分)別

- ・女性について出身地域別に出身地域への愛着度をみると、7-10点の割合が最も高いのは、「近畿」で61.3%。次いで、「南関東(東京圏)」及び「東海」で59.9%。7-10点の割合が最も低いのは「北関東・甲信」で49.1%。
- ・0-3点の割合が最も高いのは、「四国」で16.9%。次いで、「北関東・甲信」16.1%。

女性

※50%を超えるセルに薄黄色色掛け

	愛着度の分布											平均点	0-3点	4-6点	7-10点
	[0]	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]	[10]				
全国 (n=4,879)	6.2	1.7 2.3 1.5	2.5	21.6	6.3	10.1	14.4	7.0	26.5	6.8	11.7%	30.4%	58.0%		
北海道 (n=260)	6.5	2.3 2.3	3.1	18.8	5.8	10.4	16.2	5.4	26.2	6.7	14.2%	27.7%	58.1%		
東北 (n=416)	6.7	1.4 2.2	2.6	22.6	5.3	14.2	10.3	8.7	23.8	6.6	12.5%	30.5%	57.0%		
南関東 (東京圏) (n=1,132)	6.0	1.8 2.5 0.9	2.7	19.3	7.0	11.5	15.6	7.2	25.5	6.9	11.1%	29.0%	59.9%		
北関東・甲信 (n=385)	7.3	2.6 2.3	3.9	23.1	8.3	9.9	13.5	5.2	20.5	6.3	16.1%	34.8%	49.1%		
北陸 (n=230)	5.2	0.9 0.9	0.9	29.6	6.1	9.6	16.1	5.7	24.3	6.8	7.8%	36.5%	55.7%		
東海 (n=643)	4.8	1.7 1.9	2.3	23.0	5.0	9.0	15.7	7.0	28.1	7.0	9.8%	30.3%	59.9%		
近畿 (n=861)	6.5	0.9 1.6 1.3	2.2	20.2	5.9	8.6	15.4	7.5	29.7	7.0	10.3%	28.3%	61.3%		
中国 (n=307)	5.5	2.0 2.0	3.3	20.8	6.5	10.4	13.7	7.2	26.7	6.8	12.7%	29.3%	58.0%		
四国 (n=154)	9.7	1.3 3.2 2.6	3.2	22.7	7.1	6.5	6.5	8.4	28.6	6.4	16.9%	33.1%	50.0%		
九州・沖縄 (n=491)	6.5	2.6 1.6	2.9	23.0	5.9	8.4	13.6	6.1	28.3	6.8	11.8%	31.8%	56.4%		

2. 地域ブロック別にみた特徴

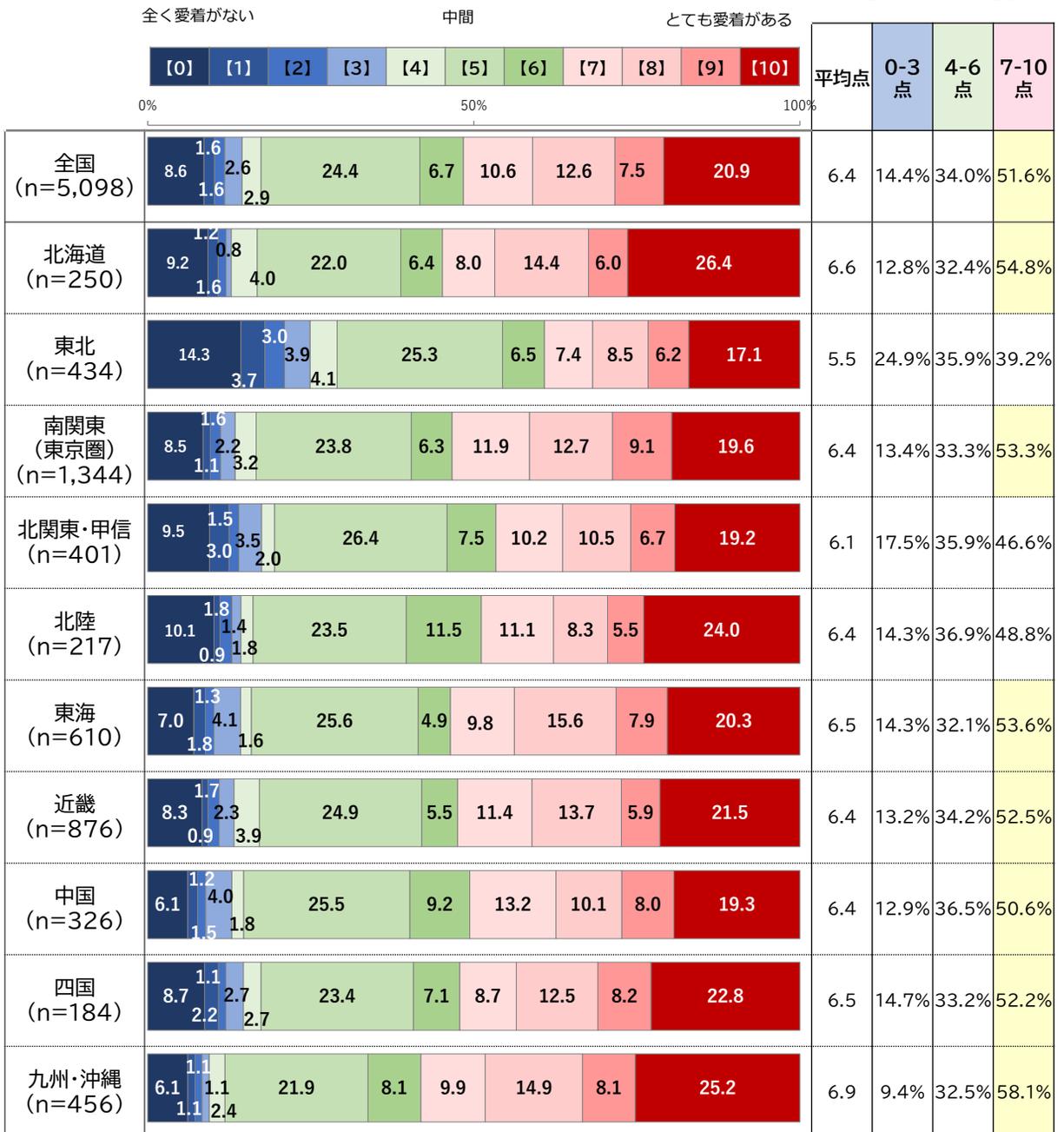
(5) 出身地域への愛着度(単数回答・Q5②)・男性

【対象】全員(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域(地域ブロック10区分)別

- ・男性について出身地域別に出身地域への愛着度をみると、7-10点の割合が最も高いのは、「九州・沖縄」で58.1%。次いで、「北海道」で54.8%。7-10点の割合が最も低いのは「東北」で39.2%。
- ・0-3点の割合が最も高いのは、「東北」で24.9%。

男性

※50%を超えるセルに薄黄色色掛け



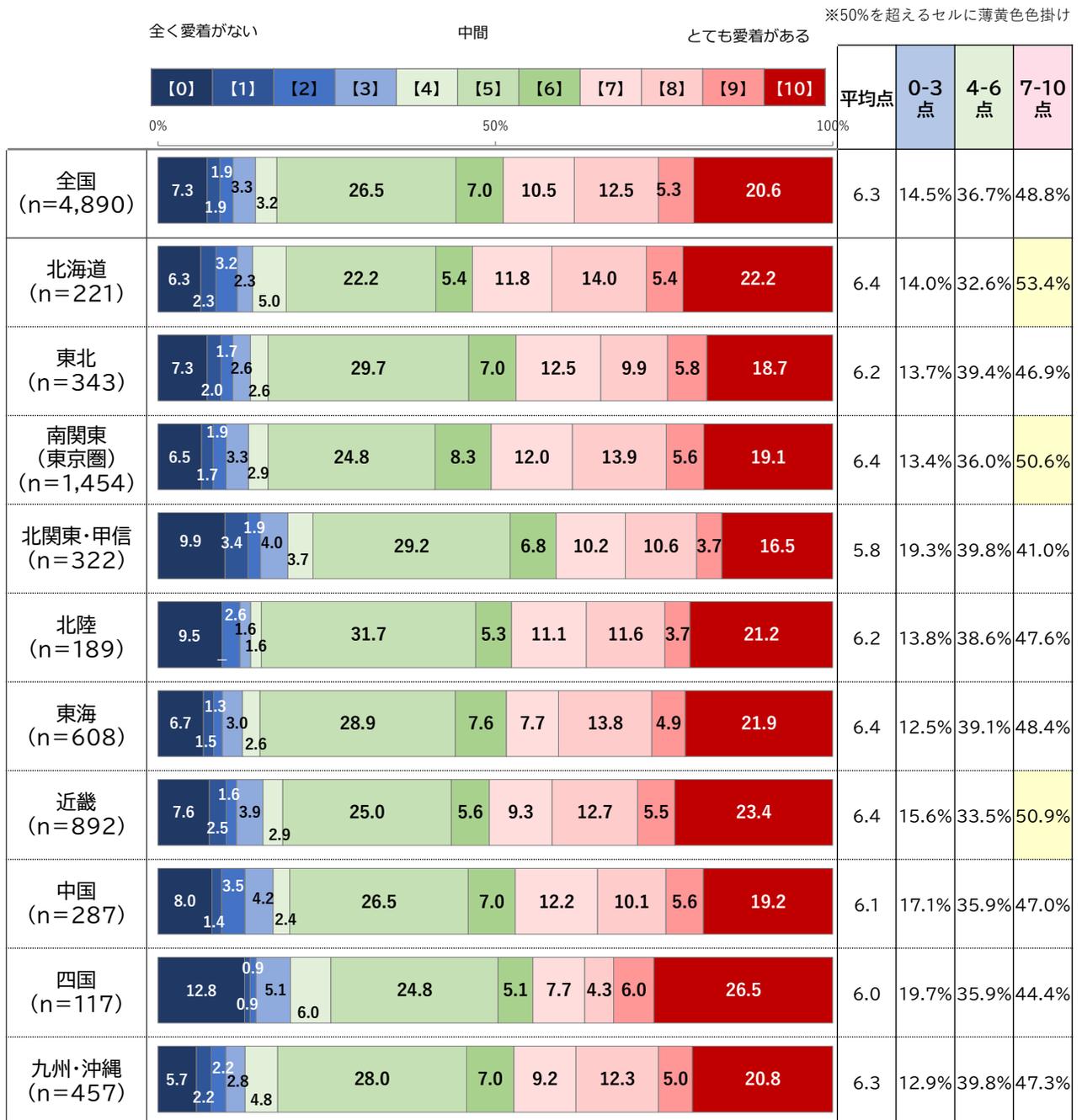
2. 地域ブロック別にみた特徴

(6) 現住地域への愛着度(単数回答・Q5①)・女性

【対象】全員 【分析軸】現住地域(地域ブロック10区分)別

- 女性について現住地域別に現住地域への愛着度をみると、7-10点の割合が最も高いのは、「北海道」で53.4%。次いで、「近畿」で50.9%、「南関東(東京圏)」で50.6%。7-10点の割合が最も低いのは「北関東・甲信」で41.0%。
- 0-3点の割合が最も高いのは、「四国」で19.7%。次いで「北関東・甲信」で19.3%。

女性



2. 地域ブロック別にみた特徴

(6) 現住地域への愛着度(単数回答・Q5①)・男性

【対象】全員 【分析軸】現住地域(地域ブロック10区分)別

- 男性について現住地域別に現住地域への愛着度をみると、7-10点の割合が最も高いのは、「北海道」で51.4%。次いで、「九州・沖縄」で50.2%、「四国」50.0%。7-10点の割合が最も低いのは、「東北」で38.8%、次いで、「北関東・甲信」38.9%。
- 0-3点の割合が最も高いのは、「東北」で22.8%。

男性

※50%を超えるセルに薄黄色色掛け

	全く愛着がない											中間				とても愛着がある				平均点	0-3点	4-6点	7-10点		
	[0]	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]	[10]	[0]	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]					[8]	[9]
全国 (n=5,110)	10.1	2.1	3.2	3.3	27.3	7.0	10.2	11.4	6.3	17.6												6.0	16.9%	37.6%	45.5%
北海道 (n=220)	7.3	2.3	3.6	1.8	25.0	6.8	8.6	13.6	6.4	22.7												6.4	15.0%	33.6%	51.4%
東北 (n=320)	14.1	2.2	4.1	4.1	28.8	5.6	8.1	10.3	4.1	16.3												5.5	22.8%	38.4%	38.8%
南関東 (東京圏) (n=1,669)	10.3	1.9	3.1	3.7	26.7	7.7	10.6	12.8	6.3	15.7												6.0	16.7%	38.0%	45.4%
北関東・甲信 (n=334)	12.6	1.5	2.4	3.0	32.9	6.3	9.9	8.1	6.9	14.1												5.6	18.9%	42.2%	38.9%
北陸 (n=206)	12.6	3.4	1.9	2.4	23.3	10.2	10.2	6.8	6.3	22.8												6.1	18.0%	35.9%	46.1%
東海 (n=590)	8.0	2.7	3.6	2.5	29.0	5.8	9.3	12.0	6.1	18.6												6.1	16.6%	37.3%	46.1%
近畿 (n=876)	9.9	2.3	3.1	3.9	28.0	7.3	10.7	11.6	5.0	17.0												6.0	16.4%	39.2%	44.4%
中国 (n=305)	8.9	2.0	3.9	2.6	26.2	5.9	13.8	8.9	7.5	18.0												6.1	17.0%	34.8%	48.2%
四国 (n=180)	11.1	1.7	2.8	1.7	25.0	5.6	9.4	12.2	7.8	20.6												6.2	17.8%	32.2%	50.0%
九州・沖縄 (n=410)	8.5	1.2	2.7	3.7	25.1	7.3	9.5	10.0	8.5	22.2												6.4	13.7%	36.1%	50.2%

2. 地域ブロック別にみた特徴

(7) 出身地域への愛着度と現住地域への愛着度(単数回答・Q5②①)

【対象】全員(出身地域別は出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域別、現住地域別(地域ブロック10区分)

- 出身地域別出身地域への愛着度をみると、7-10点の割合は、男性と比べて女性の方が高い地域が多く、特に「東北」でその差は大きい。
- 現住地域別現住地域への愛着度をみると、7-10点の割合は、男性と比べて女性の方が高い地域が多いが、その差は出身地域別出身地域への愛着度よりも小さい傾向。

出身地域別出身地域への愛着度

※50%を超えるセルに薄黄色色掛け

			平均点		0-3点		4-6点		7-10点	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性
全国	n=4,879	n=5,098	6.8	6.4	11.7%	14.4%	30.4%	34.0%	58.0%	51.6%
北海道	n=260	n=250	6.7	6.6	14.2%	12.8%	27.7%	32.4%	58.1%	54.8%
東北	n=416	n=434	6.6	5.5	12.5%	24.9%	30.5%	35.9%	57.0%	39.2%
南関東(東京圏)	n=1,132	n=1,344	6.9	6.4	11.1%	13.4%	29.0%	33.3%	59.9%	53.3%
北関東・甲信	n=385	n=401	6.3	6.1	16.1%	17.5%	34.8%	35.9%	49.1%	46.6%
北陸	n=230	n=217	6.8	6.4	7.8%	14.3%	36.5%	36.9%	55.7%	48.8%
東海	n=643	n=610	7.0	6.5	9.8%	14.3%	30.3%	32.1%	59.9%	53.6%
近畿	n=861	n=876	7.0	6.4	10.3%	13.2%	28.3%	34.2%	61.3%	52.5%
中国	n=307	n=326	6.8	6.4	12.7%	12.9%	29.3%	36.5%	58.0%	50.6%
四国	n=154	n=184	6.4	6.5	16.9%	14.7%	33.1%	33.2%	50.0%	52.2%
九州・沖縄	n=491	n=456	6.8	6.9	11.8%	9.4%	31.8%	32.5%	56.4%	58.1%

現住地域別現住地域への愛着度

※50%を超えるセルに薄黄色色掛け

			平均点		0-3点		4-6点		7-10点	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性
全国	n=4,890	n=5,110	6.3	6.0	14.5%	16.9%	36.7%	37.6%	48.8%	45.5%
北海道	n=221	n=220	6.4	6.4	14.0%	15.0%	32.6%	33.6%	53.4%	51.4%
東北	n=343	n=320	6.2	5.5	13.7%	22.8%	39.4%	38.4%	46.9%	38.8%
南関東(東京圏)	n=1,454	n=1,669	6.4	6.0	13.4%	16.7%	36.0%	38.0%	50.6%	45.4%
北関東・甲信	n=322	n=334	5.8	5.6	19.3%	18.9%	39.8%	42.2%	41.0%	38.9%
北陸	n=189	n=206	6.2	6.1	13.8%	18.0%	38.6%	35.9%	47.6%	46.1%
東海	n=608	n=590	6.4	6.1	12.5%	16.6%	39.1%	37.3%	48.4%	46.1%
近畿	n=892	n=876	6.4	6.0	15.6%	16.4%	33.5%	39.2%	50.9%	44.4%
中国	n=287	n=305	6.1	6.1	17.1%	17.0%	35.9%	34.8%	47.0%	48.2%
四国	n=117	n=180	6.0	6.2	19.7%	17.8%	35.9%	32.2%	44.4%	50.0%
九州・沖縄	n=457	n=410	6.3	6.4	12.9%	13.7%	39.8%	36.1%	47.3%	50.2%

2. 地域ブロック別にみた特徴

(8) 初職検討時の希望業種(複数回答・Q34)・女性

【対象】有業者(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域(地域ブロック10区分)別

- 全ての地域で、「医療、福祉」が最も高い。
- 「南関東(東京圏)」でも「医療、福祉」が15.8%と最も高いが、他の地域に比べるとやや低い。次いで、「卸売業、小売業」11.8%、「宿泊業、飲食サービス業」8.9%。

女性

出身地域(10区分)×希望していた業種(有業者)

※最も高い項目(その他以外)に黄色色掛け、2番目、3番目に高い項目に薄黄色色掛け
(その他、その他のサービス業、特に希望はなかったを除く)

(%)

	農業、林業、漁業	鉱業、採石業、砂利採取業	建設業	製造業	電気、ガス、熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	金融業、保険業	不動産業、物品賃貸業	学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	教育、学習支援業	医療、福祉	複合サービス事業	その他のサービス業	国家公務員・地方公務員	その他	特に希望はなかった
全国 (n=3,199)	0.6	0.3	2.1	8.8	0.9	4.5	2.0	9.9	4.0	1.3	2.1	8.8	5.4	5.0	21.8	1.7	2.5	4.8	7.2	26.1
北海道 (n=170)	1.8	0.6	1.2	7.1	0.6	7.1	4.1	11.8	2.9	2.4	2.4	9.4	5.9	2.9	21.8	1.2	5.9	5.9	6.5	25.3
東北 (n=265)	0.4	0.4	3.0	8.3	1.1	2.3	2.6	7.5	2.6	0.4	1.1	10.2	4.9	4.9	24.5	3.4	1.1	5.7	7.9	25.3
南関東 (東京圏) (n=728)	0.3	0.5	1.9	6.2	1.1	5.1	1.9	11.8	3.8	1.8	2.7	8.9	4.5	5.9	15.8	1.4	2.7	4.9	9.2	28.0
北関東・甲信 (n=248)	1.2	-	1.6	13.7	1.2	4.0	0.8	10.9	3.6	1.2	3.2	7.3	8.5	8.1	23.0	0.8	-	4.0	4.4	19.4
北陸 (n=140)	-	-	0.7	10.0	1.4	3.6	5.0	7.1	3.6	0.7	2.9	8.6	5.7	5.7	19.3	2.9	2.9	7.1	8.6	28.6
東海 (n=432)	0.5	0.5	1.4	12.0	0.5	5.8	1.2	9.7	5.6	1.9	1.6	7.9	6.0	6.0	21.5	3.5	3.7	5.6	9.3	21.8
近畿 (n=594)	0.3	-	2.5	8.2	0.5	4.0	2.4	9.9	5.7	1.5	2.4	8.9	5.6	4.0	22.7	1.3	1.7	4.7	5.4	27.8
中国 (n=207)	0.5	0.5	3.4	10.1	1.4	3.9	1.4	8.7	3.9	0.5	2.4	7.7	6.8	3.4	28.5	1.0	2.4	3.9	5.3	21.7
四国 (n=103)	1.0	-	1.0	12.6	-	4.9	-	3.9	1.9	1.0	1.0	4.9	2.9	2.9	29.1	-	1.9	1.9	4.9	30.1
九州・沖縄 (n=312)	1.0	0.3	2.6	6.4	1.0	4.2	1.3	9.9	1.6	0.6	0.6	11.5	4.2	3.8	25.3	0.6	2.9	3.2	6.7	31.1

2. 地域ブロック別にみた特徴

(8) 初職検討時の希望業種(複数回答・Q34)・男性

【対象】有業者(出身地域が海外の人を除く) 【分析軸】出身地域別(地域ブロック10区分)別

- 全ての地域で、「製造業」が最も高い。
- 女性と比べて男性の方が「情報通信業」「国家公務員・地方公務員」の割合が高い。

男性

出身地域(10区分)×希望していた業種(有業者)

※最も高い項目(その他以外) に黄色色掛け、2番目、3番目に高い項目に薄黄色色掛け
(その他、その他のサービス業、特に希望はなかったを除く)

(%)

	農業、林業、漁業	鉱業、採石業、砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	金融業、保険業	不動産業、物品賃貸業	技術サービス業	学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	教育、学習支援業	医療、福祉	複合サービス事業	その他のサービス業	国家公務員・地方公務員	その他	特に希望はなかった
全国 (n=3,944)	2.2	1.0	5.2	16.8	3.0	9.5	5.3	6.7	3.3	2.0	3.0	3.5	2.5	3.9	7.4	1.1	3.5	8.1	5.2	24.7	
北海道 (n=187)	3.2	0.5	7.0	12.3	4.8	9.6	1.1	5.3	1.1	1.6	2.7	4.3	3.2	4.8	10.7	1.1	4.3	7.0	4.8	26.7	
東北 (n=322)	2.5	2.2	5.9	16.8	3.7	9.3	6.2	7.5	2.8	1.6	3.4	1.9	3.4	2.8	3.7	0.6	3.7	8.7	5.6	24.2	
南関東 (東京圏) (n=1,033)	1.7	0.5	4.5	13.9	1.9	12.6	7.3	6.2	4.5	3.1	3.4	4.3	2.8	4.9	6.4	1.2	3.7	7.9	4.6	25.3	
北関東・甲信 (n=313)	3.8	1.6	5.1	19.5	1.3	8.6	5.1	4.8	2.9	1.0	2.9	3.2	1.3	3.2	6.4	1.6	3.2	7.7	4.8	23.3	
北陸 (n=173)	0.6	0.6	9.2	17.3	3.5	13.3	5.2	7.5	3.5	2.3	1.2	1.2	1.2	2.9	6.4	-	1.7	9.2	4.6	22.5	
東海 (n=481)	1.9	1.0	4.2	19.5	2.9	7.7	3.3	5.6	3.1	2.1	2.9	3.1	2.1	3.5	6.9	0.6	4.6	8.9	6.0	23.9	
近畿 (n=671)	1.9	1.2	4.3	19.1	3.3	8.2	5.7	7.6	3.4	1.5	3.9	4.2	3.3	4.5	7.9	1.5	3.6	6.3	6.6	25.6	
中国 (n=249)	1.6	0.8	4.4	19.7	4.0	7.2	3.6	8.4	2.8	0.4	0.4	2.8	1.6	4.8	8.4	0.4	2.8	8.4	5.2	25.7	
四国 (n=150)	2.0	0.7	5.3	14.7	6.7	4.7	4.7	7.3	2.0	2.0	3.3	3.3	2.0	3.3	9.3	1.3	3.3	8.0	4.0	28.7	
九州・沖縄 (n=365)	3.3	1.6	7.1	15.6	3.0	7.7	4.9	7.4	2.7	1.6	2.5	3.6	1.6	1.9	11.5	1.6	2.2	10.1	4.1	22.2	

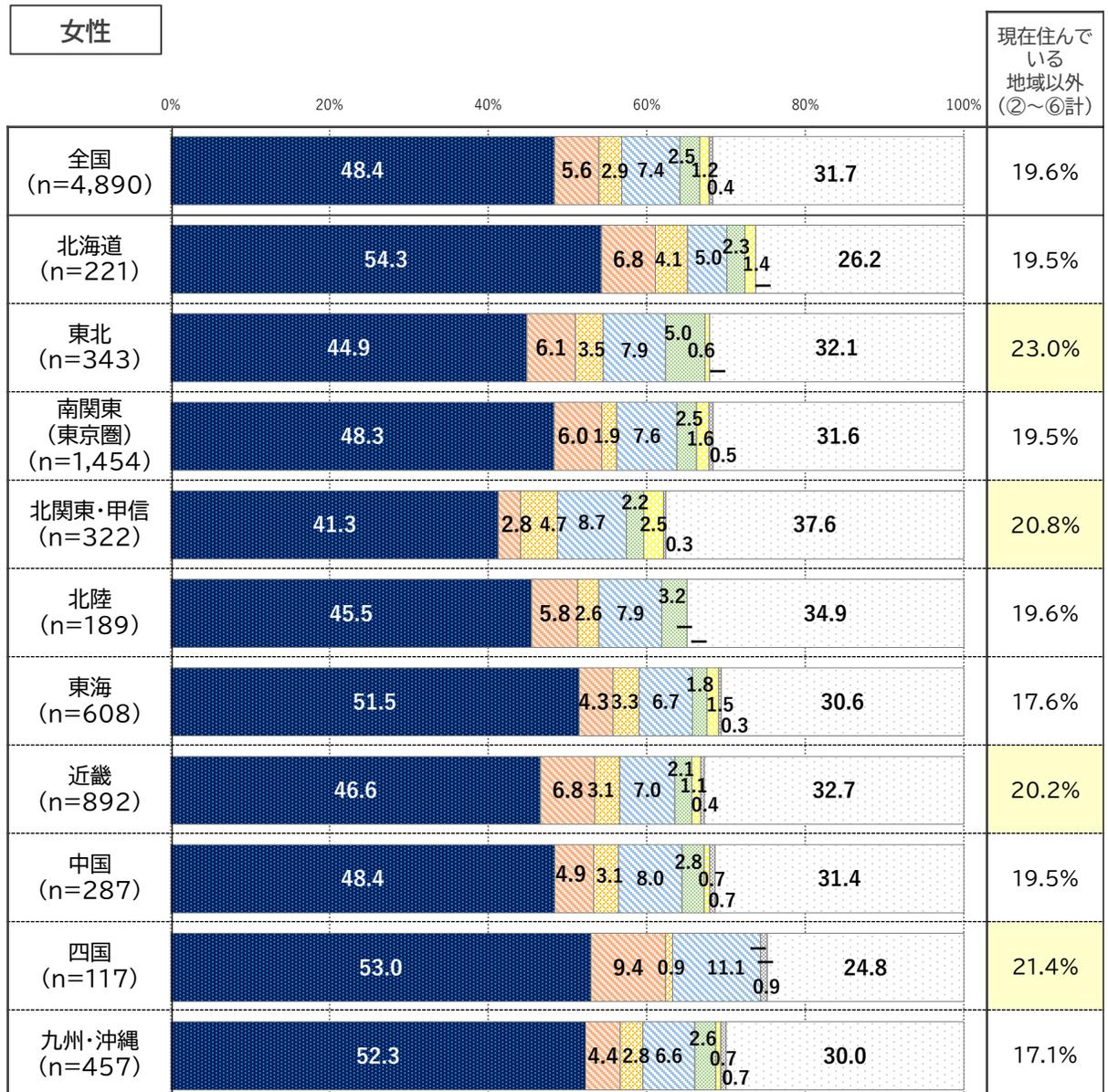
2. 地域ブロック別にみた特徴

(9) 将来、住みたい地域(単数回答・Q46)・女性

【対象】全員 【分析軸】現住地域(地域ブロック10区分)別

- 女性についてみると、「北海道」「四国」「九州・沖縄」「東海」では、「現在住んでいる地域に住み続けたい」が5割を超える。
- 「東北」「四国」「北関東・甲信」「近畿」では、「現在住んでいる地域以外(計)」が2割を超える。「現在住んでいる地域以外(計)」が最も低いのは「九州・沖縄」で17.1%。

※20%を超えるセルに薄黄色色掛け



- ①現在住んでいる地域に住み続けたい
- ②中学校卒業時点で住んでいた地域
- ③過去に住んだことのある地域
- ④過去に住んだことのない地域 (国内/都会)
- ⑤過去に住んだことのない地域 (国内/地方)
- ⑥海外
- ⑦その他
- ⑧特に考えていない・わからない

※Q46選択肢の「都会」「地方」は回答者の主観による。

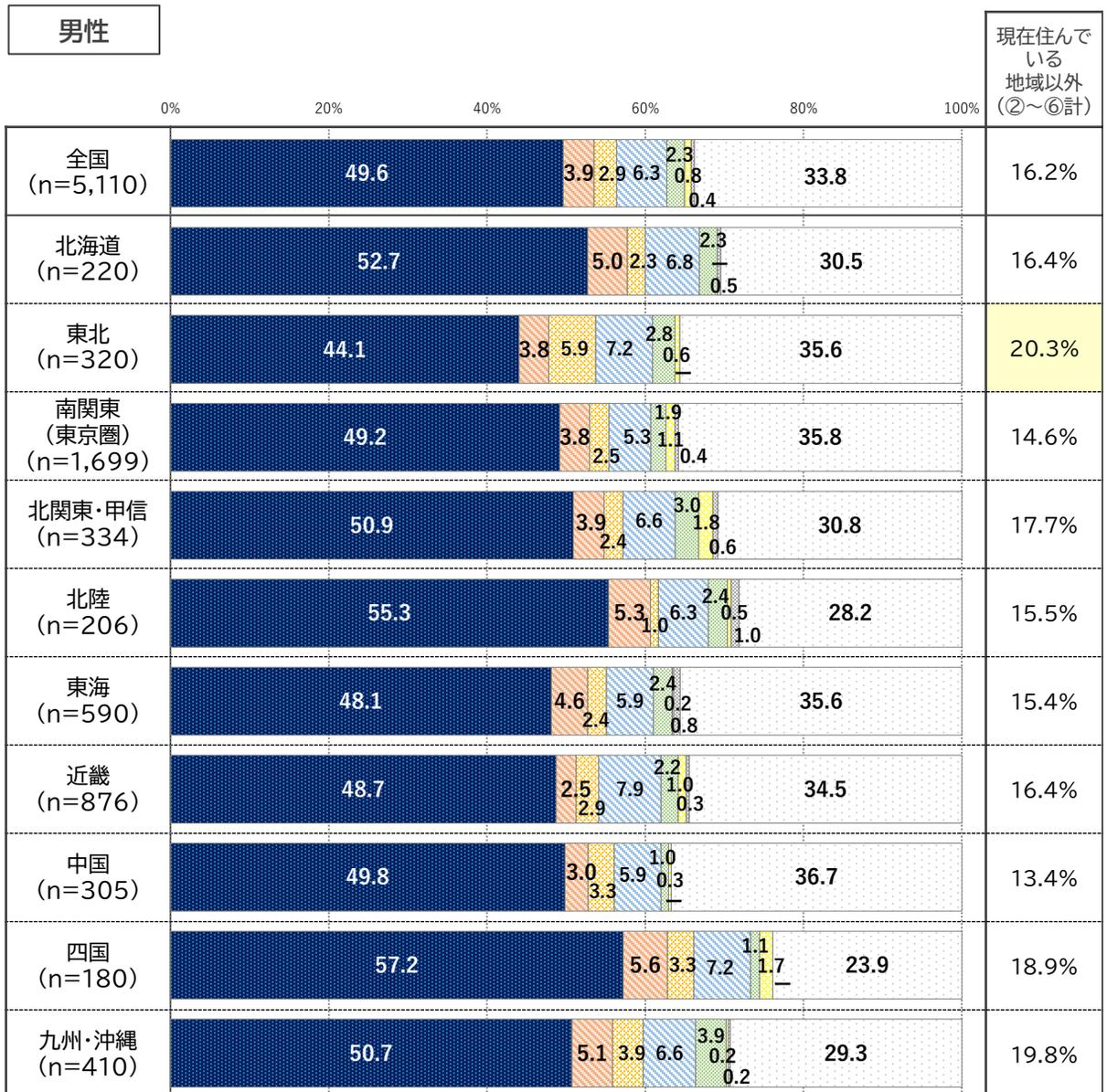
2. 地域ブロック別にみた特徴

(9) 将来、住みたい地域(単数回答・Q46)・男性

【対象】全員 【分析軸】現住地域(地域ブロック10区分)別

- ・男性についてみると、「現在住んでいる地域に住み続けたい」が最も高いのは「四国」で57.2%。
- ・「現在住んでいる地域以外(計)」が2割を超えるのは、「東北」のみ。「現在住んでいる地域以外(計)」が最も低いのは「中国」13.4%。

※20%を超えるセルに薄黄色色掛け



- ①現在住んでいる地域に住み続けたい
- ②中学校卒業時点で住んでいた地域
- ③過去に住んだことのある地域
- ④過去に住んだことのない地域 (国内/都会)
- ⑤過去に住んだことのない地域 (国内/地方)
- ⑥海外
- ⑦その他
- ⑧特に考えていない・わからない

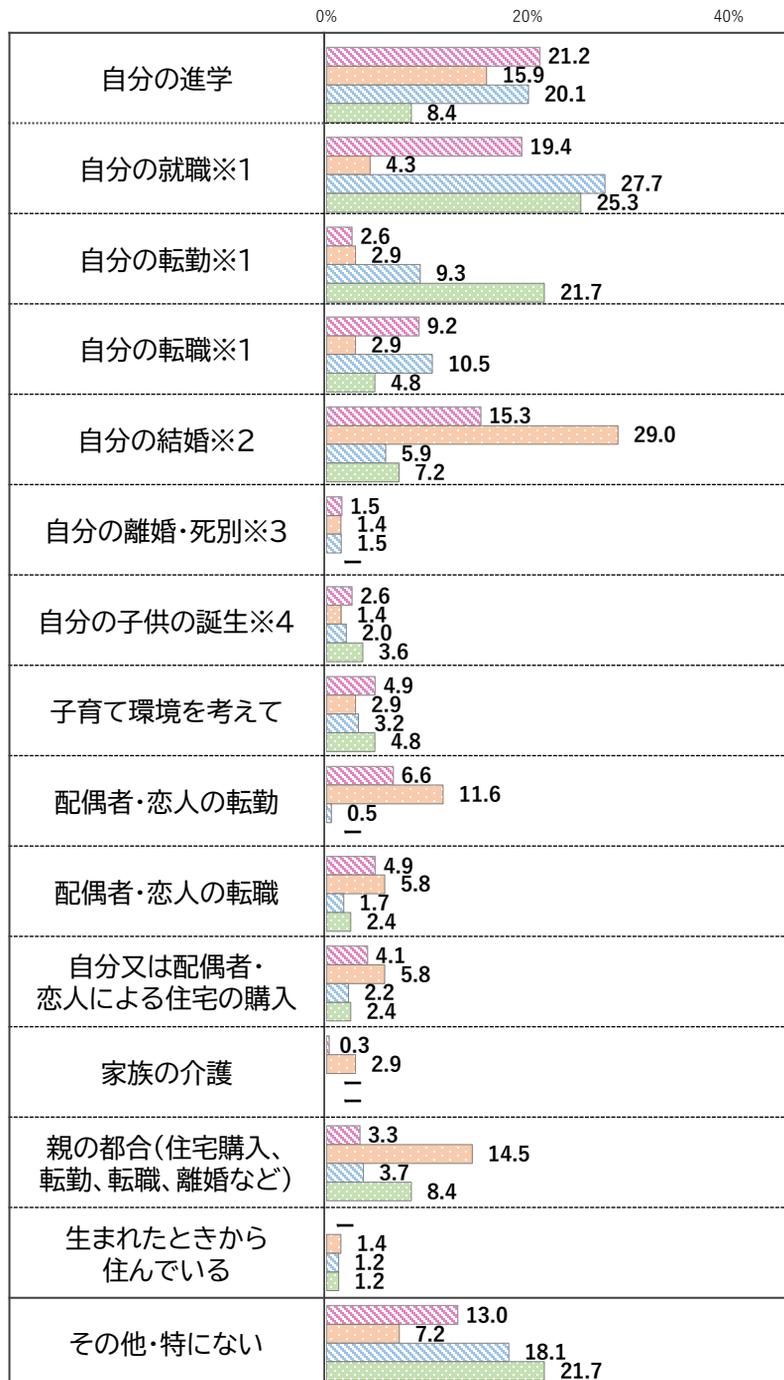
※Q46選択肢の「都会」「地方」は回答者の主観による。

3. 東京圏への転出者の特徴

(1) 現住地域に住むようになったきっかけ(複数回答・Q22)

【対象】出身地域と現住地域が異なる人 【分析軸】出身地域・現住地域別(東京圏・東京圏以外)

- 東京圏以外出身・東京圏居住層の女性では、「自分の進学」21.2%が最も高く、次いで、「自分の就職」19.4%、「自分の結婚」15.3%。東京圏出身・東京圏以外居住層の女性では、「自分の結婚」29.0%が最も高い。
- 東京圏以外出身・東京圏居住層の男性では、「自分の就職」27.7%が最も高く、次いで、「自分の進学」20.1%。東京圏出身・東京圏以外居住層の男性では、「自分の就職」25.3%が最も高く、次いで、「自分の転勤」21.7%。



※1:働いたことがある人のみ提示

※2:結婚の経験がある人のみ提示

※3:離婚・死別の経験がある人のみ提示

※4:子供がいる人のみ提示

■ 女性/東京圏以外出身・東京圏居住層(n=391)

■ 女性/東京圏出身・東京圏以外居住層(n=69)

■ 男性/東京圏以外出身・東京圏居住層(n=408)

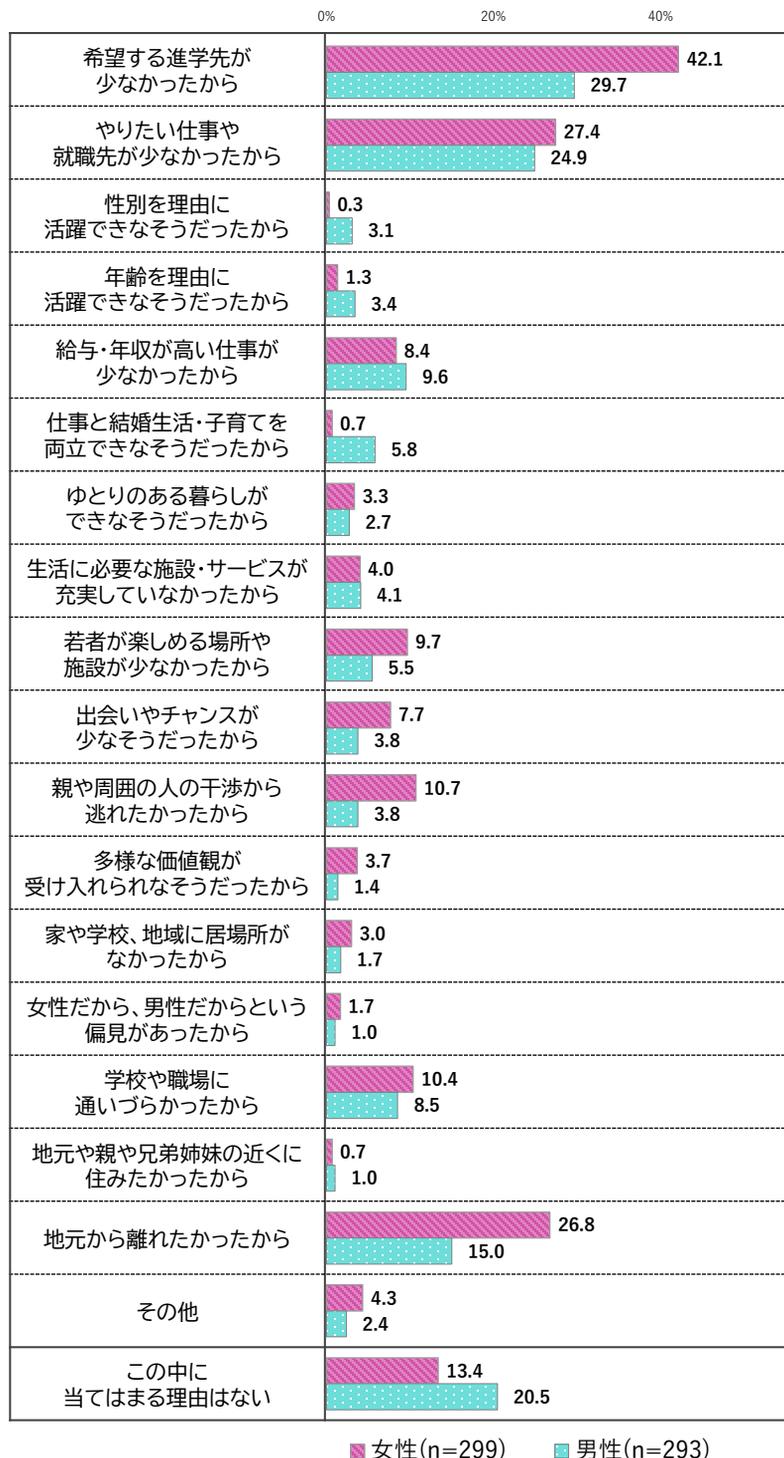
■ 男性/東京圏出身・東京圏以外居住層(n=83)

3. 東京圏への転出者の特徴

(2) 自分の都合で出身地域を離れた理由(複数回答・Q27)

【対象】東京圏以外出身・東京圏居住層のうち、自分の都合で出身地域を離れた人

- 東京圏以外出身・東京圏居住層のうち、自分の都合で出身地域を離れた人について、出身地域を離れた理由をみると、女性では「希望する進学先が少なかったから」が42.1%で最も高く、次いで、「やりたい仕事や就職先が少なかったから」27.4%、「地元から離れたかったから」26.8%。男性も同様の項目が高い。
- 女性は、男性に比べて、「希望する進学先が少なかったから」「地元から離れたかったから」「親や周囲の人の干渉から逃れたかったから」等が高い。



■ 女性(n=299) ■ 男性(n=293)

3. 東京圏への転出者の特徴

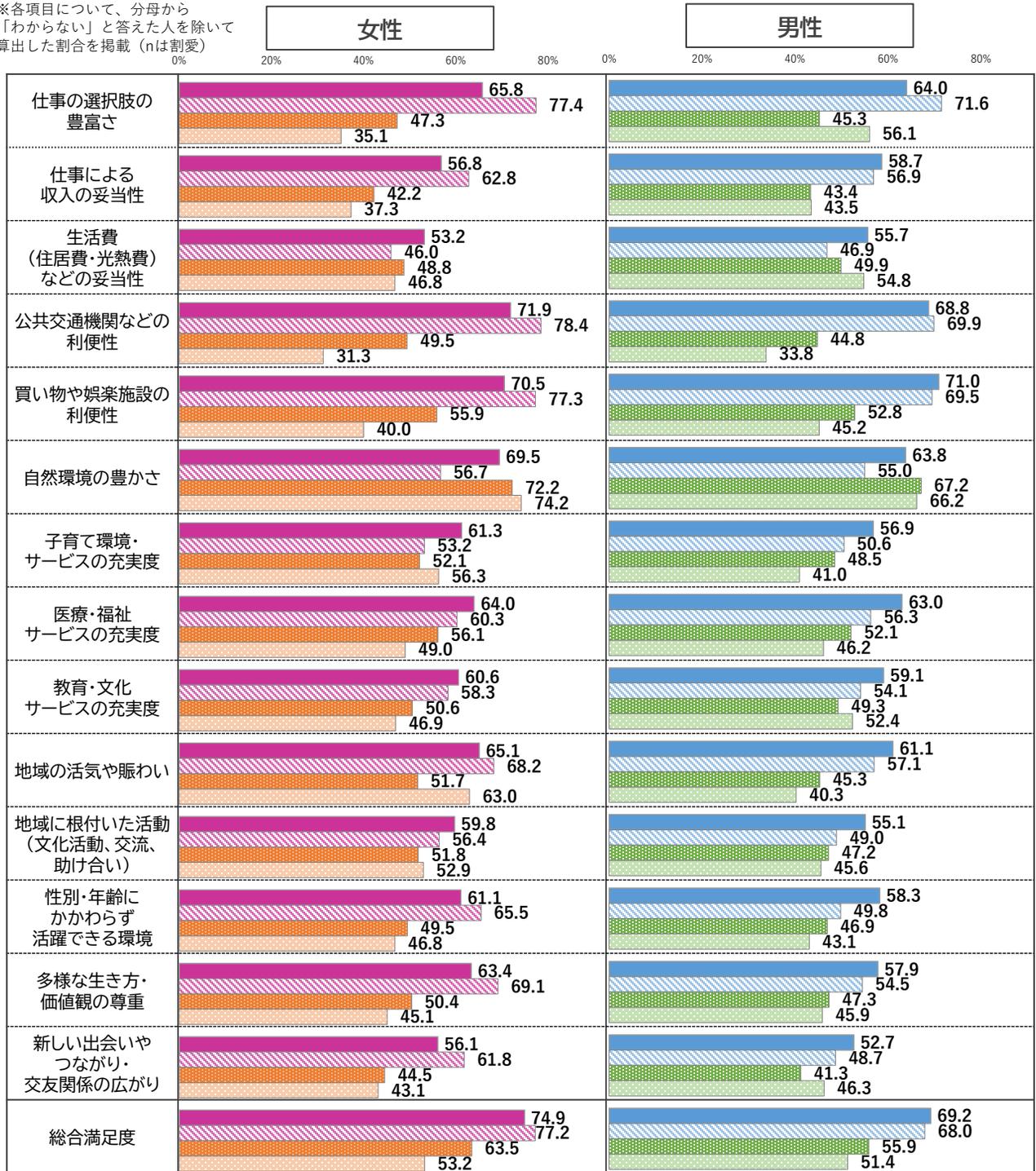
(3) 現住地域に満足しているか(単数回答・Q23)

【対象】全員 【分析軸】出身地域・現住地域別(東京圏・東京圏以外)

- 東京圏以外出身者についてみると、東京圏居住層は、東京圏以外居住層に比べて、男女ともに「仕事の選択肢の豊富さ」「公共交通機関などの利便性」「買い物や娯楽施設の利便性」「仕事による収入の妥当性」「地域の活気や賑わい」等が高い。
- 加えて、東京圏居住層の女性は、「多様な生き方・価値観の尊重」「新しい出会いやつながり・交友関係の広がり」「性別・年齢にかかわらず活躍できる環境」等も高い。
- 一方、「自然環境の豊かさ」は、男女ともに、東京圏以外居住層の方が高い。

※「満足(計)」の数値を掲載(「満足」+「どちらかといえば満足」の計)

※各項目について、分母から「わからない」と答えた人を除いて算出した割合を掲載(nは割合)



■ 女性/東京圏出身・東京圏居住層
 ■ 女性/東京圏以外出身・東京圏居住層
 ■ 女性/東京圏以外出身・東京圏以外居住層
 ■ 女性/東京圏出身・東京圏以外居住層
 ■ 男性/東京圏出身・東京圏居住層
 ■ 男性/東京圏以外出身・東京圏居住層
 ■ 男性/東京圏以外出身・東京圏以外居住層
 ■ 男性/東京圏出身・東京圏以外居住層

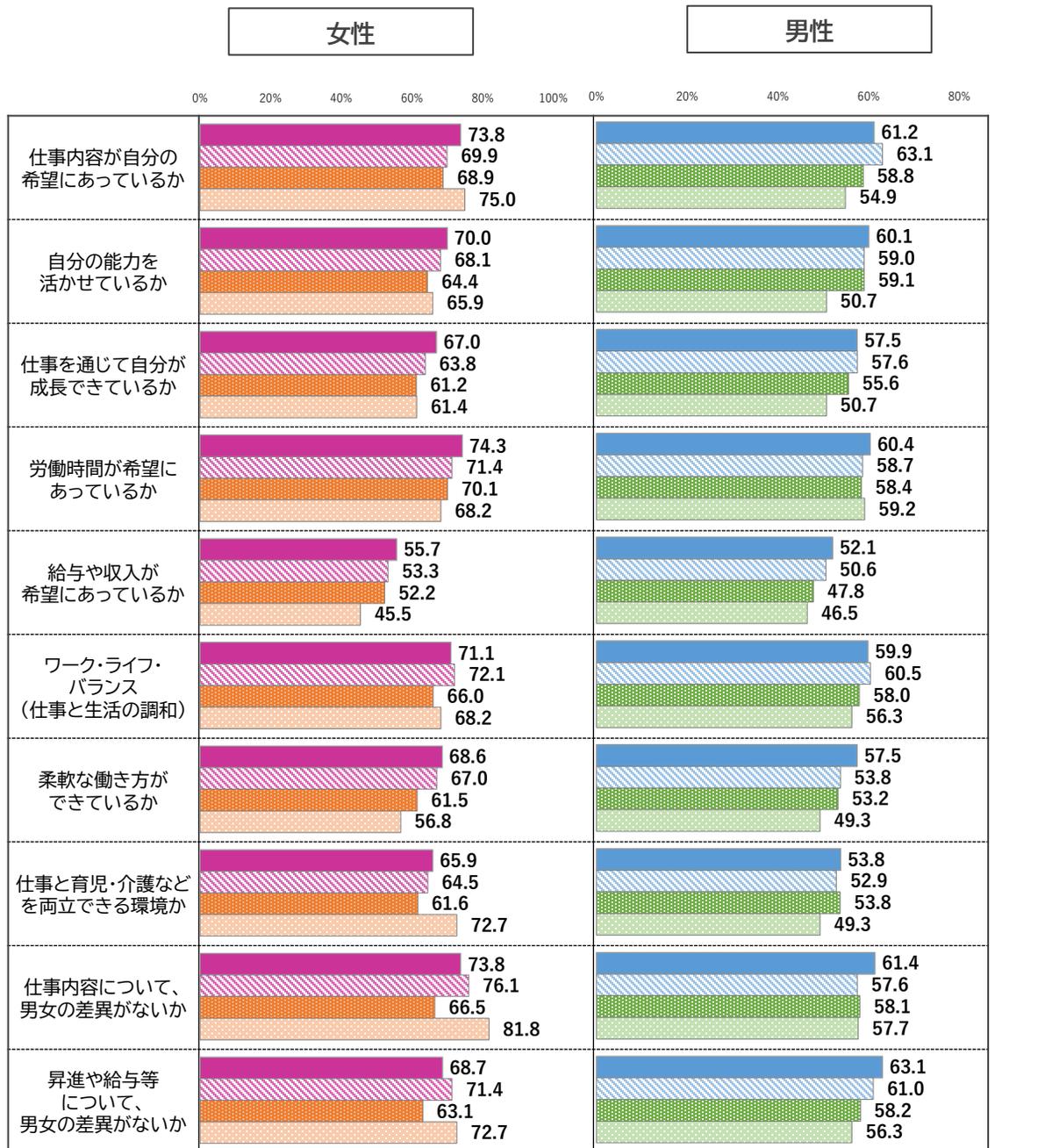
3. 東京圏への転出者の特徴

(4) 現在の仕事に満足しているか(単数回答・Q38)

【対象】有業者【分析軸】出身地域・現住地域別(東京圏・東京圏以外)

・東京圏以外出身者についてみると、東京圏居住層は、東京圏以外居住層に比べて、女性では「仕事内容について、男女の差異がないか」「昇進や給与等について、男女の差異がないか」「ワーク・ライフ・バランス」等が高い。

※「満足(計)」の数値を掲載
(「満足」+「どちらかといえば満足」の計)



■ 女性/東京圏出身・東京圏居住層(n=684) ■ 男性/東京圏出身・東京圏居住層(n=962)
 ▨ 女性/東京圏以外出身・東京圏居住層(n=276) ▨ 男性/東京圏以外出身・東京圏居住層(n=344)
 ■ 女性/東京圏以外出身・東京圏以外居住層(n=2,203) ■ 男性/東京圏以外出身・東京圏以外居住層(n=2,574)
 ▨ 女性/東京圏出身・東京圏以外居住層(n=44) ▨ 男性/東京圏出身・東京圏以外居住層(n=71)

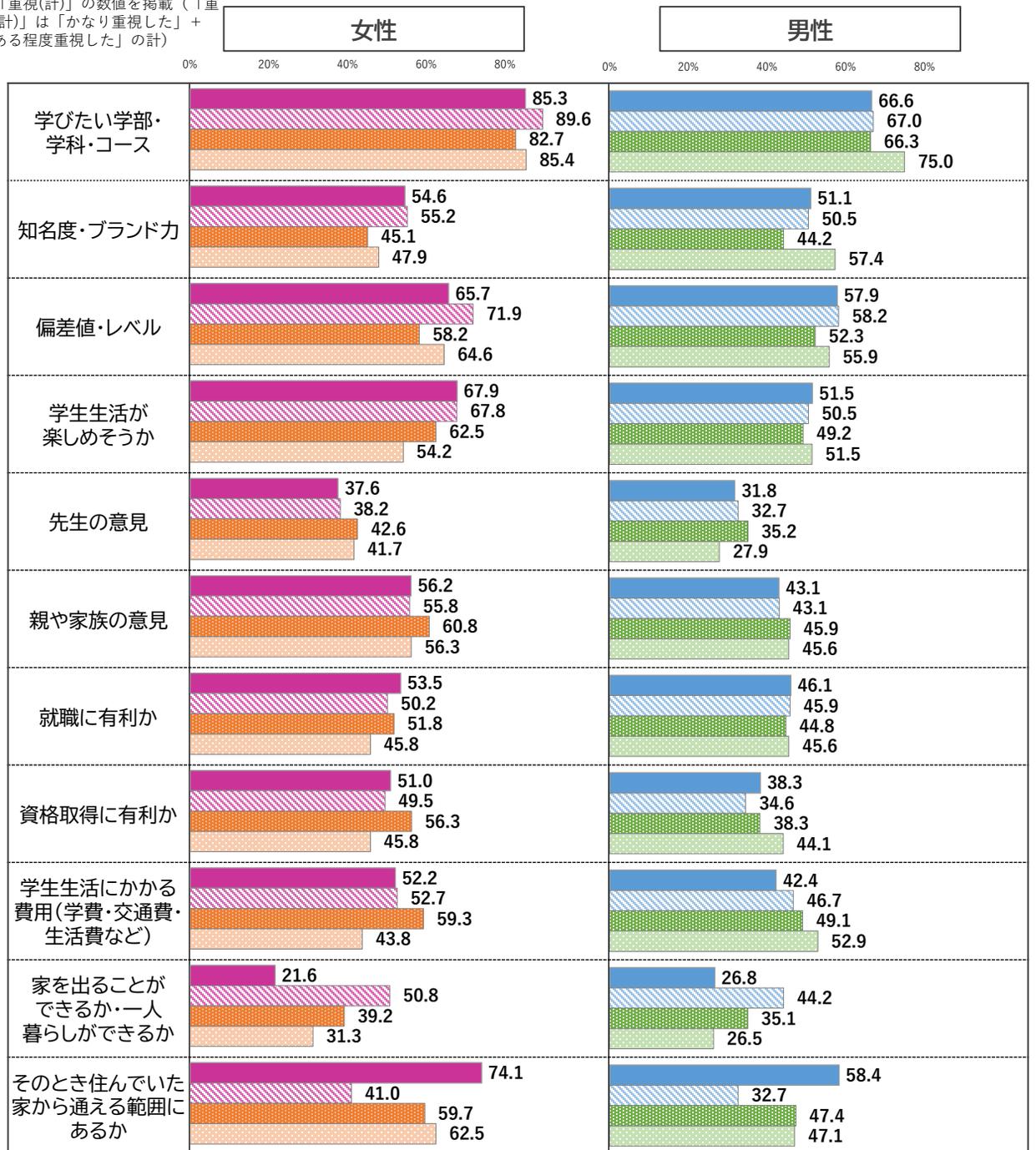
3. 東京圏への転出者の特徴

(5) 大学等への進学を検討した際に重視したこと(単数回答・Q29)

【対象】最終学歴が大学・短大・専門学校等の人 【分析軸】出身地域・現住地域別(東京圏・東京圏以外)

- 東京圏以外出身者の女性についてみると、東京圏居住層の女性は、東京圏以外居住層の女性に比べて、「偏差値・レベル」「家を出ることができるか・一人暮らしができるか」「学びたい学部・学科・コース」等が高く、東京圏以外居住層の女性は、東京圏居住層の女性に比べて、「そのとき住んでいた家から通える範囲にあるか」「資格取得に有利か」等が高い。
- 東京圏以外出身者の男性についてみると、東京圏居住層の男性は、東京圏以外居住層の男性に比べて、「家を出ることができるか・一人暮らしができるか」「知名度・ブランド力」「偏差値・レベル」が高く、東京圏以外居住層の男性は、「そのとき住んでいた家から通える範囲にあるか」等が高い。

※「重視(計)」の数値を掲載(「重視(計)」は「かなり重視した」+「ある程度重視した」の計)



■ 女性/東京圏出身・東京圏居住層(n=753) ■ 男性/東京圏出身・東京圏居住層(n=968)
 ▨ 女性/東京圏以外出身・東京圏居住層(n=317) ▨ 男性/東京圏以外出身・東京圏居住層(n=364)
 ■ 女性/東京圏以外出身・東京圏以外居住層(n=2,067) ■ 男性/東京圏以外出身・東京圏以外居住層(n=2,154)
 ▨ 女性/東京圏出身・東京圏以外居住層(n=48) ▨ 男性/東京圏出身・東京圏以外居住層(n=68)

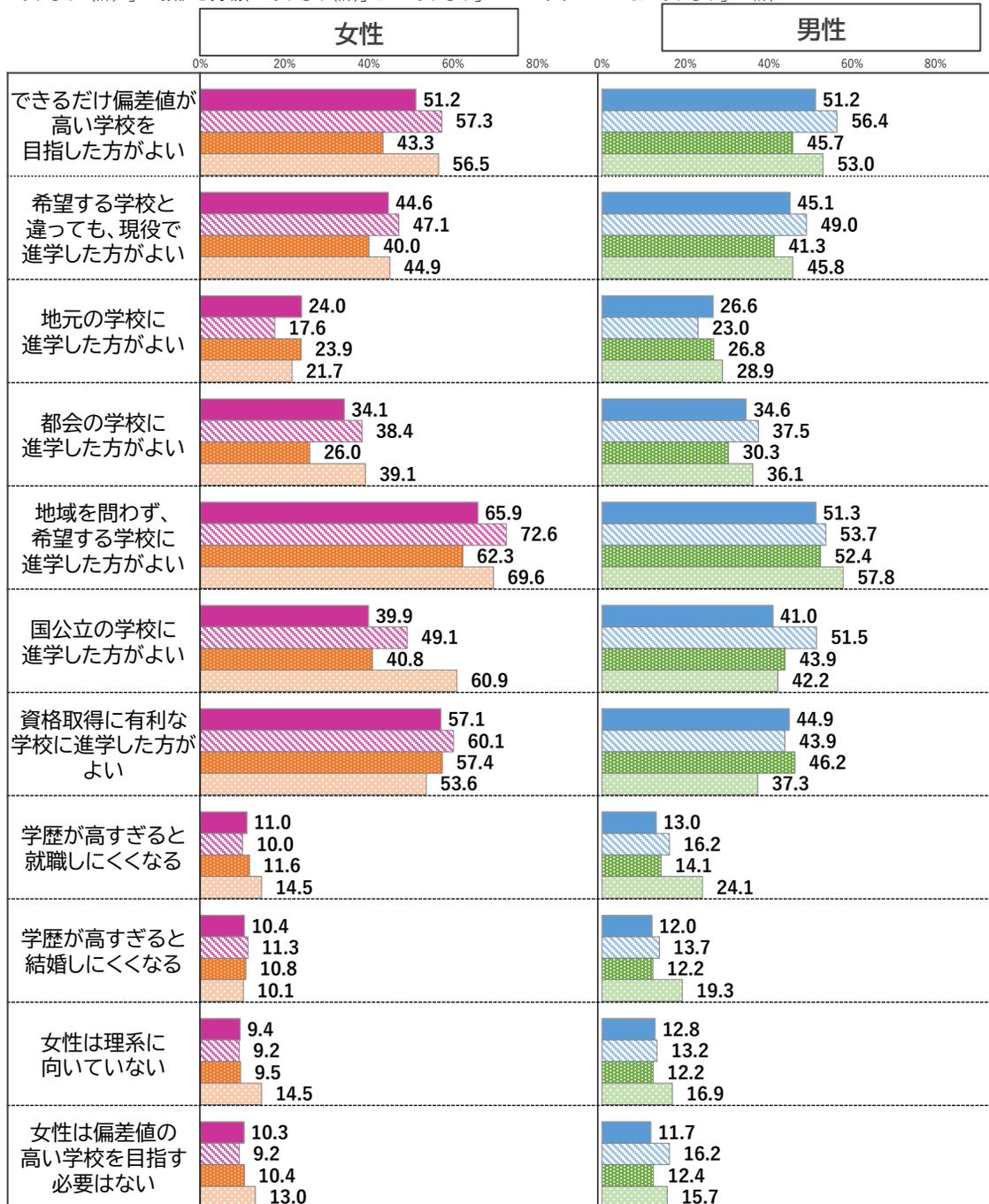
3. 東京圏への転出者の特徴

(6) 大学等への進路の検討に関する自分の意見(単数回答・Q33)

【対象】全員 【分析軸】出身地域・現住地域別(東京圏・東京圏以外)

- 東京圏以外出身者の女性についてみると、東京圏居住層の女性は、東京圏以外居住層の女性に比べて、「できるだけ偏差値が高い学校を目指した方がよい」「都会の学校に進学した方がよい」「地域を問わず希望する学校に進学した方がよい」「国公立の学校に進学した方がよい」「希望する学校と違って、現役で進学した方がよい」等が高い。
- 東京圏以外出身者の男性についてみると、東京圏居住層の男性は、東京圏以外居住層の男性に比べて、「できるだけ偏差値が高い学校を目指した方がよい」「希望する学校と違って、現役で進学した方がよい」「国公立の学校に進学した方がよい」「都会の学校に進学した方がよい」等が高い。

※「そう思う(計)」の数値を掲載(「そう思う(計)」は「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の計)



■ 女性/東京圏出身・東京圏居住層(n=1,063) ■ 男性/東京圏出身・東京圏居住層(n=1,261)
 ▨ 女性/東京圏以外出身・東京圏居住層(n=391) ▨ 男性/東京圏以外出身・東京圏居住層(n=408)
 ■ 女性/東京圏以外出身・東京圏以外居住層(n=3,367) ■ 男性/東京圏以外出身・東京圏以外居住層(n=3,358)
 ■ 女性/東京圏出身・東京圏以外居住層(n=69) ■ 男性/東京圏出身・東京圏以外居住層(n=83)

※Q33選択肢の「都会」は回答者の主観による。

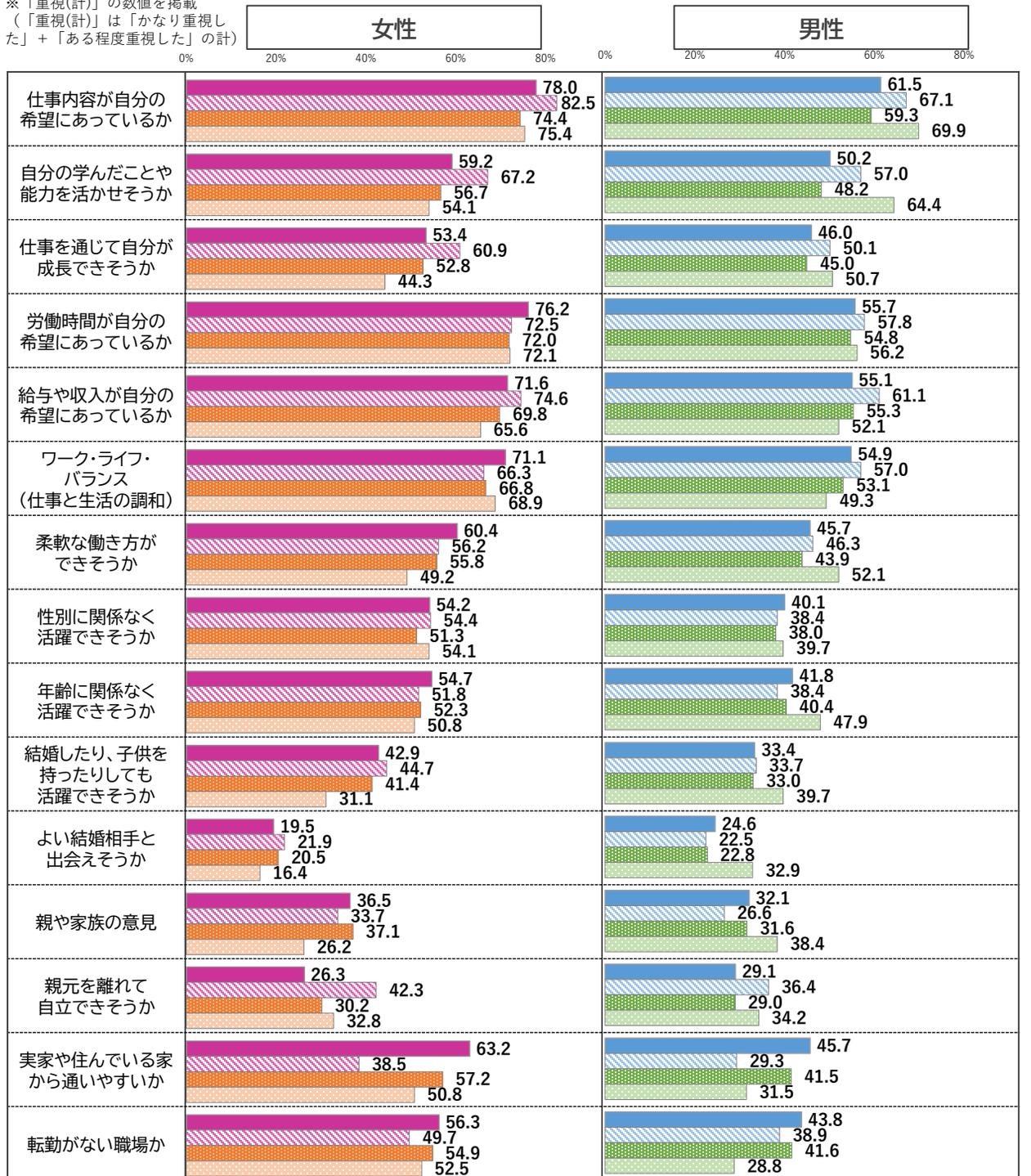
3. 東京圏への転出者の特徴

(7) 仕事に就くに当たって重視したこと(単数回答・Q35)

【対象】就業経験あり 【分析軸】出身地域・現住地域別(東京圏・東京圏以外)

- 東京圏以外出身者の女性についてみると、東京圏居住層の女性は、東京圏以外居住層の女性に比べて、「親元を離れて自立できそうか」「自分の学んだことや能力を活かせそうか」等が高い。一方、「実家や住んでいる家から通いやすいか」等は、東京圏以外居住層の方が高い。
- 男女差をみると、「労働時間が自分の希望にあっているか」「給与や収入が自分の希望にあっているか」「性別に関係なく活躍できそうか」「転勤がない職場か」等は、全ての区分で、女性の方が高い。

※「重視(計)」の数値を掲載
 (「重視(計)」は「かなり重視した」+「ある程度重視した」の計)



■ 女性/東京圏出身・東京圏居住層(n=863) ■ 男性/東京圏出身・東京圏居住層(n=1,046)
 ▨ 女性/東京圏以外出身・東京圏居住層(n=338) ▨ 男性/東京圏以外出身・東京圏居住層(n=365)
 ■ 女性/東京圏以外出身・東京圏以外居住層(n=2,794) ■ 男性/東京圏以外出身・東京圏以外居住層(n=2,812)
 ▨ 女性/東京圏出身・東京圏以外居住層(n=61) ▨ 男性/東京圏出身・東京圏以外居住層(n=73)

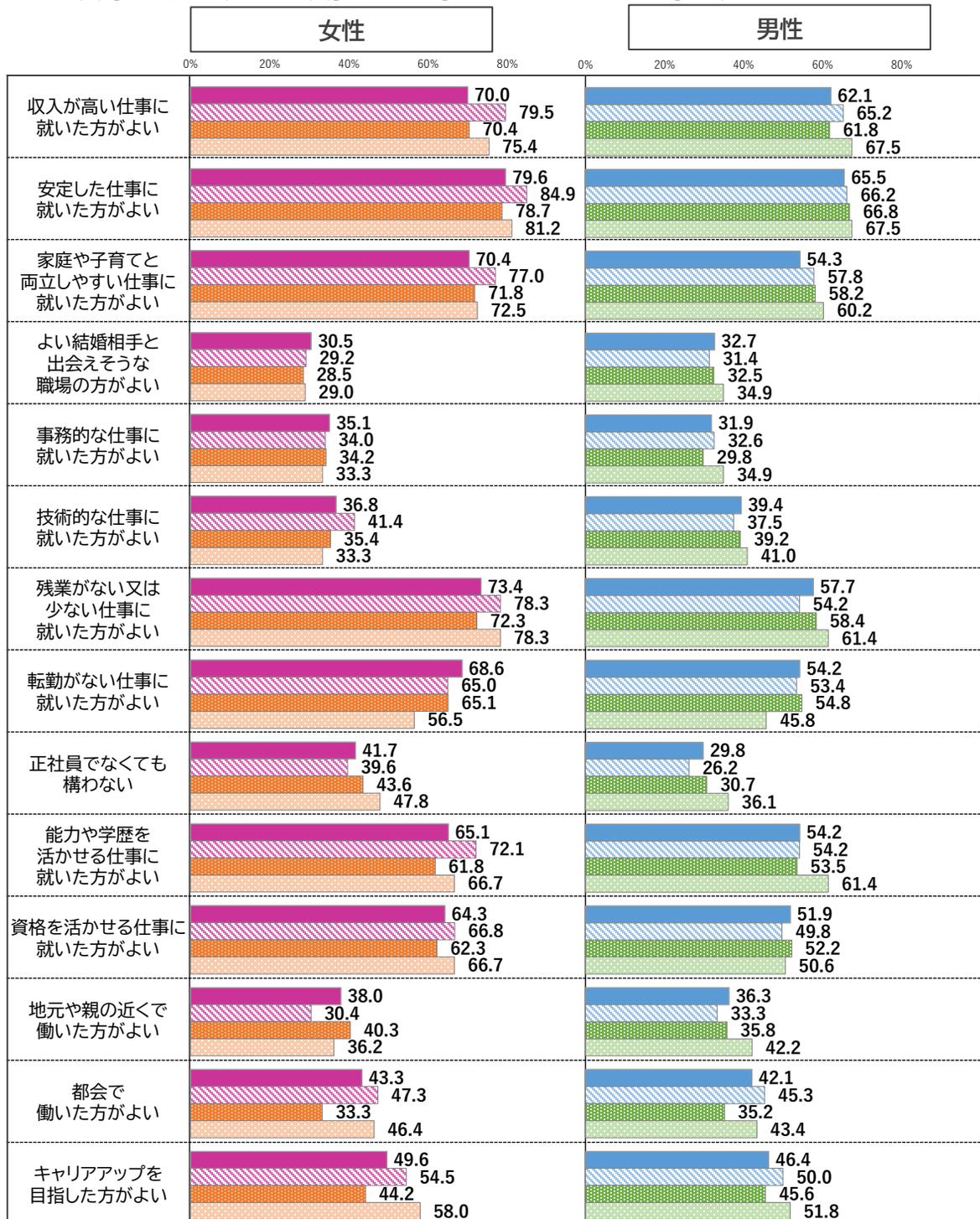
3. 東京圏への転出者の特徴

(8) 仕事や就職先の検討に関する自分の意見(単数回答・Q37)

【対象】全員 【分析軸】出身地域・現住地域別(東京圏・東京圏以外)

- 東京圏以外出身者についてみると、東京圏居住層の女性は、東京圏以外居住層の女性に比べて、「都会で働いた方がよい」「能力や学歴を活かせる仕事に就いた方がよい」「キャリアアップを目指した方がよい」等が高い。
- 東京圏以外出身者の男性についてみると、東京圏居住層の男性は、東京圏以外居住層の男性に比べて「都会で働いた方がよい」等が高い。

※「そう思う(計)」の数値を掲載(「そう思う(計)」は「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の計)



※Q37選択肢の「都会」は回答者の主観による。

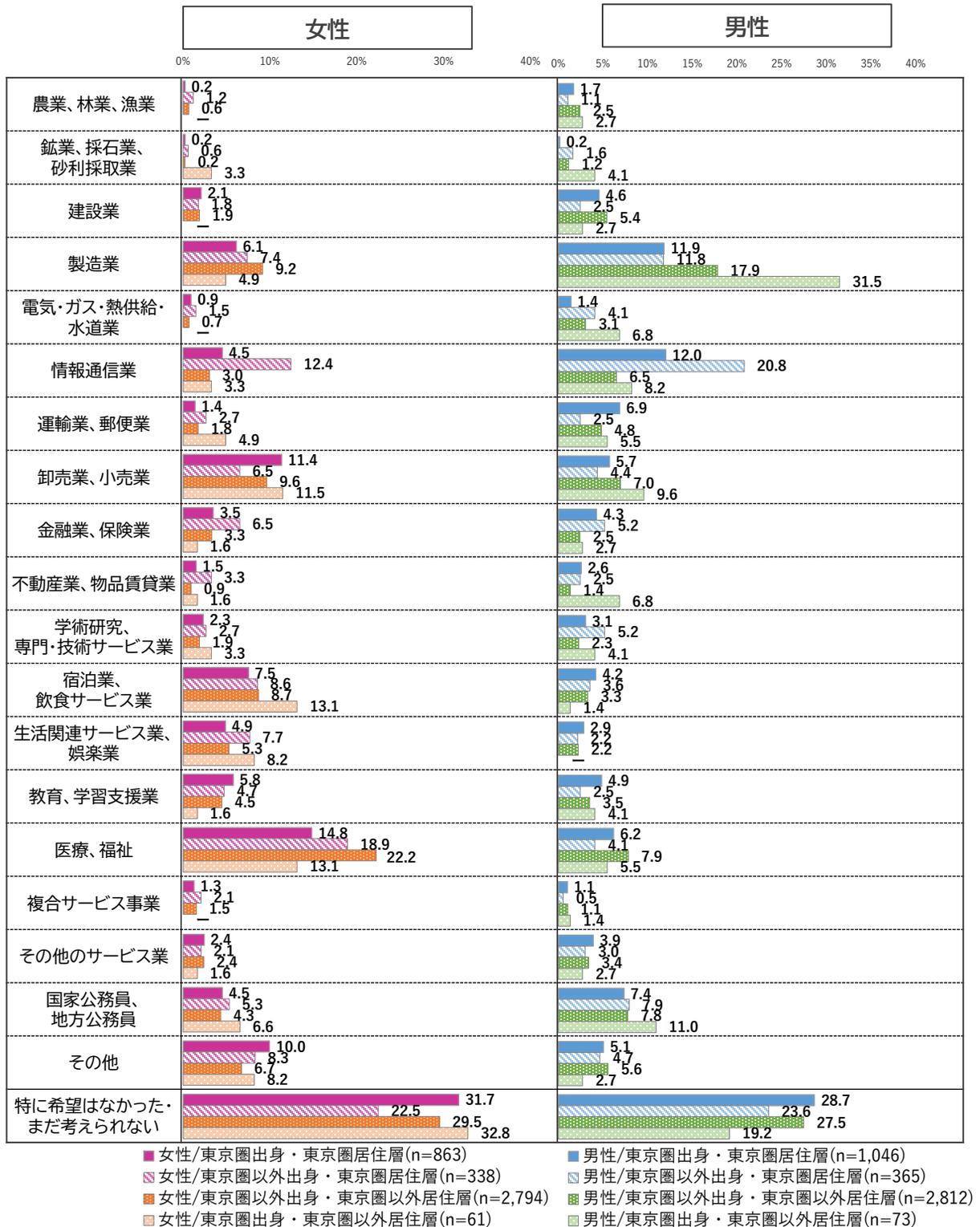
■ 女性/東京圏出身・東京圏居住層(n=1,063) ■ 男性/東京圏出身・東京圏居住層(n=1,261)
 □ 女性/東京圏以外出身・東京圏居住層(n=391) □ 男性/東京圏以外出身・東京圏居住層(n=408)
 ■ 女性/東京圏以外出身・東京圏以外居住層(n=3,367) ■ 男性/東京圏以外出身・東京圏以外居住層(n=3,358)
 □ 女性/東京圏出身・東京圏以外居住層(n=69) □ 男性/東京圏出身・東京圏以外居住層(n=83)

3. 東京圏への転出者の特徴

(9) 初職検討時の希望業種(複数回答・Q34)

【対象】就業経験あり 【分析軸】出身地域・現住地域別(東京圏・東京圏以外)

- ・女性についてみると、いずれの区分でも「医療、福祉」が最も高いが、特に東京圏以外出身・東京圏以外居住層で22.2%と最も高い。「情報通信業」は、東京圏以外出身・東京圏居住層で12.4%と最も高い。
- ・男性についてみると、東京圏以外出身・東京圏以外居住層、東京圏出身・東京圏以外居住層では「製造業」が最も高い。また、東京圏出身・東京圏居住層、東京圏以外出身・東京圏居住層では「情報通信業」が最も高く、特に東京圏以外出身・東京圏居住層では20.8%と最も高い。



3. 東京圏への転出者の特徴

(10) 出身地域・現住地域への愛着度(単数回答・Q5①②)・女性

【対象】全員 【分析軸】出身地域・現住地域別(東京圏・東京圏以外)

- ・女性についてみると、全ての区分で、現住地域への愛着度に比べて、出身地域への愛着度の方が7-10点の割合が高い。特に東京圏出身・東京圏以外居住層では33.3%ポイント、東京圏以外出身・東京圏居住層では25.3%ポイントの差がある。
- ・出身地域への愛着度が7-10点の割合は、東京圏以外出身・東京圏居住層で62.9%と最も高い。
- ・現住地域への愛着度が7-10点の割合は、東京圏出身・東京圏居住層で55.4%と高い。一方、東京圏出身・東京圏以外居住層で26.1%と最も低く、次いで、東京圏以外出身・東京圏居住層で37.6%。

女性

※50%を超えるセルに薄黄色色掛け

		全く愛着がない											中間			とても愛着がある			平均点	0-3点	4-6点	7-10点
		[0]	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]	[10]										
		0%											50%			100%						
東京圏 出身・ 東京圏 居住層 (n=1,063)	出身 地域 への 愛着	6.0	1.7	2.4	19.2	7.2	11.3	15.6	7.2	25.8				6.9	10.9%	29.2%	59.9%					
	現住 地域 への 愛着	5.9	1.4	2.4	23.6	7.6	12.3	14.4	5.9	22.8				6.7	11.0%	33.6%	55.4%					
東京圏 以外出身・ 東京圏 居住層 (n=391)	出身 地域 への 愛着	4.9	2.8	2.6	14.6	7.9	12.3	15.6	9.7	25.3				7.0	12.3%	24.8%	62.9%					
	現住 地域 への 愛着	7.9	3.3	5.9	4.3	27.9	10.2	11.3	12.5	4.6	9.2				5.6	19.9%	42.5%	37.6%				
東京圏 以外出身・ 東京圏 以外 居住層 (n=3,367)	出身 地域 への 愛着	6.5	1.5	2.1	23.1	5.9	9.4	13.9	6.5	26.9				6.8	11.8%	31.5%	56.7%					
	現住 地域 への 愛着	7.5	1.9	3.1	27.2	6.5	9.9	12.0	5.2	21.5				6.3	14.5%	36.9%	48.5%					
東京圏 出身・ 東京圏 以外 居住層 (n=69)	出身 地域 への 愛着	5.8	2.9	2.9	20.3	2.9	14.5	15.9	7.2	21.7				6.6	14.5%	26.1%	59.4%					
	現住 地域 への 愛着	11.6	5.8	4.3	11.6	5.8	29.0	5.8	8.7	7.2	2.9	7.2	4.7	33.3%	40.6%	26.1%						

3. 東京圏への転出者の特徴

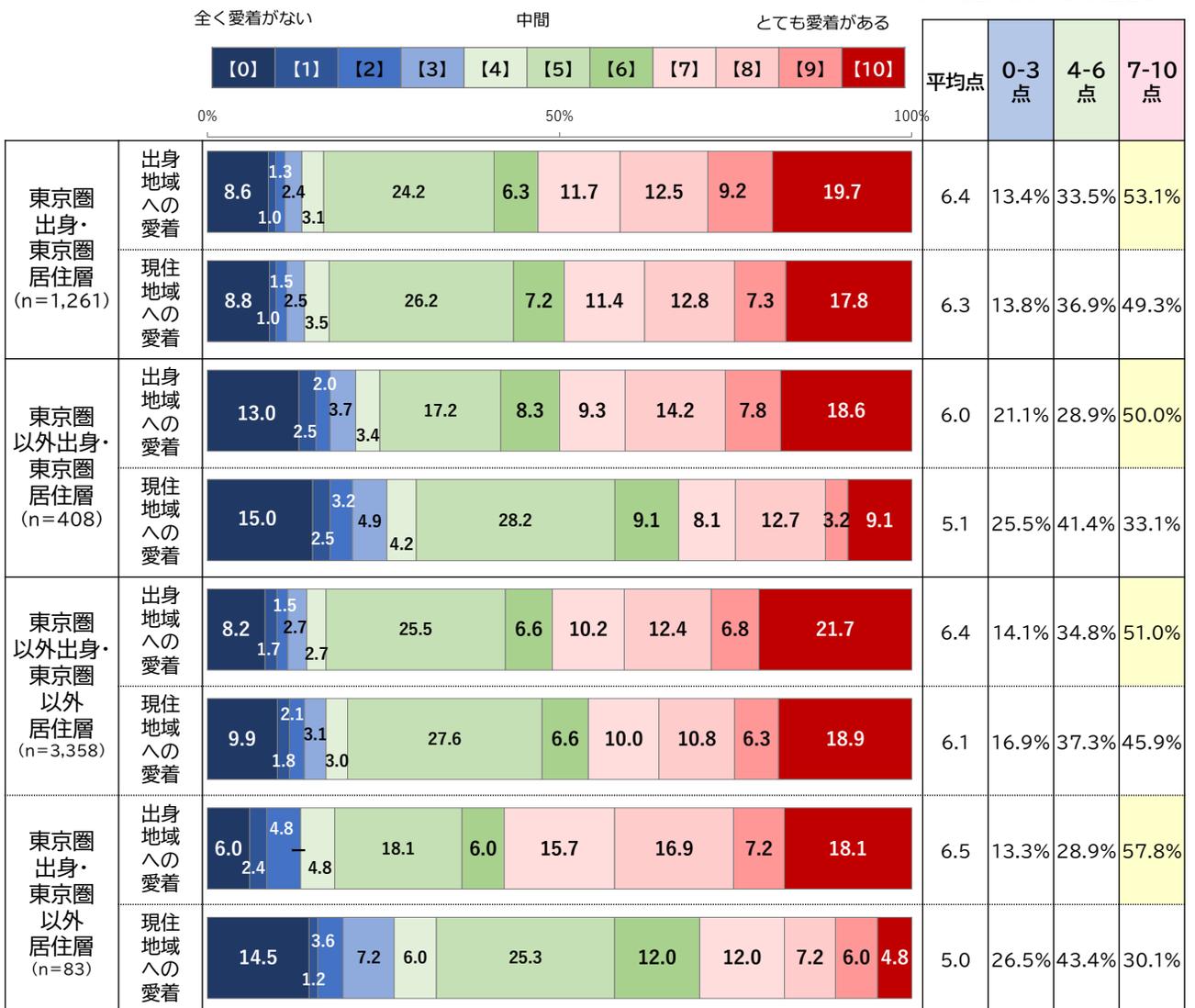
(10) 出身地域・現住地域への愛着度(単数回答・Q5①②)・男性

【対象】全員 【分析軸】出身地域・現住地域別(東京圏・東京圏以外)

- 男性についてみると、全ての区分で、現住地域への愛着度に比べて、出身地域への愛着度の方が7-10点の割合が高い。特に東京圏出身・東京圏以外居住層では27.7%ポイント、東京圏以外出身・東京圏居住層では16.9%ポイントの差がある。
- 出身地域への愛着度が7-10点の割合は、東京圏出身・東京圏以外居住層で57.8%と最も高い。
- 現住地域への愛着度が7-10点の割合は、東京圏出身・東京圏居住層で49.3%と高い。一方、東京圏出身・東京圏以外居住層で30.1%と最も低く、次いで、東京圏以外出身・東京圏居住層で33.1%。

男性

※50%を超えるセルに薄黄色色掛け



3. 東京圏への転出者の特徴

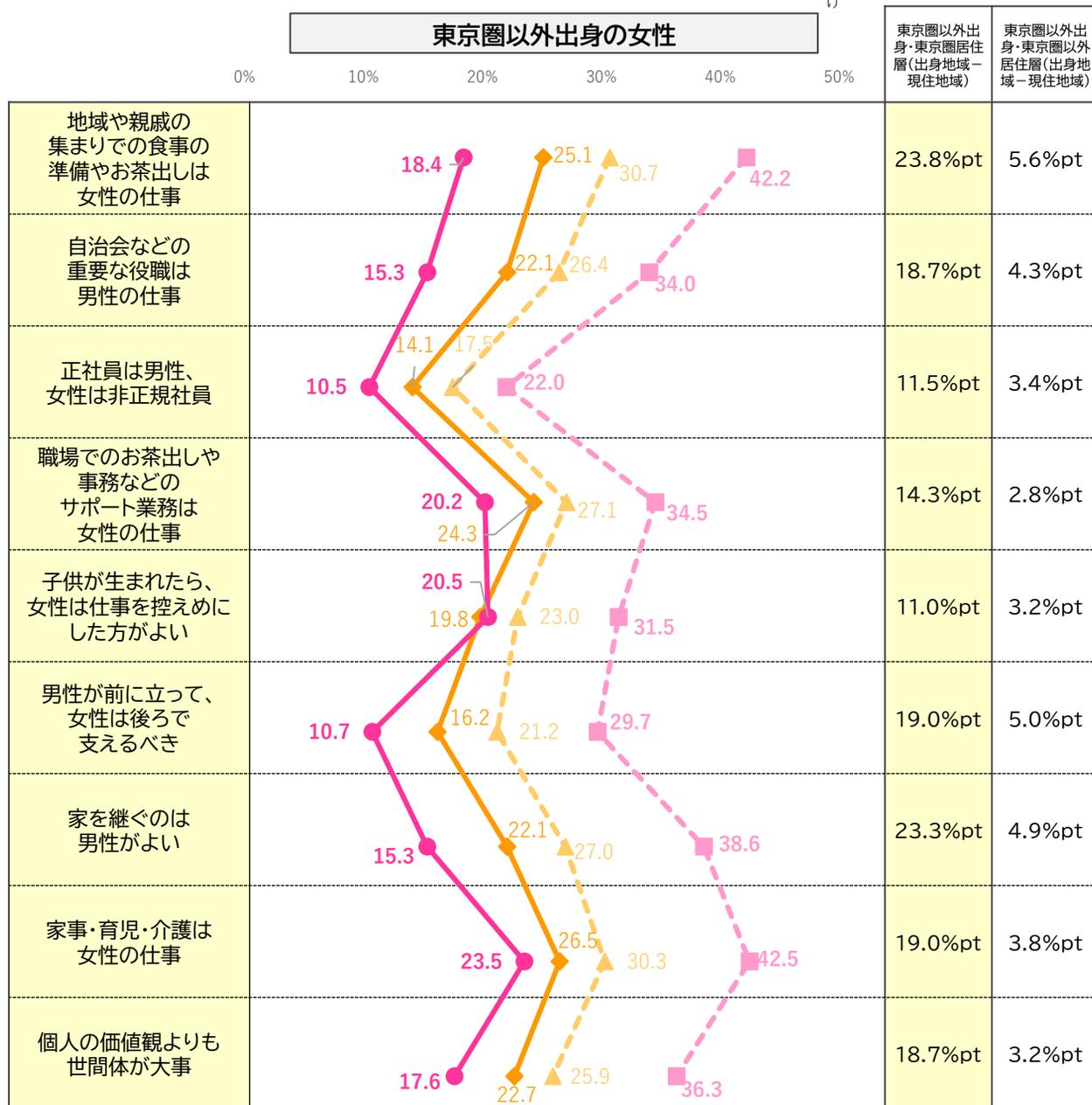
(11) 出身地域と現住地域における固定的な性別役割分担意識等の有無(Q44、Q43)・女性

【対象】東京圏以外出身の女性 【分析軸】出身地域・現住地域別(東京圏・東京圏以外)

- ・下図は、東京圏以外出身の女性について、出身地域(中学校卒業時点での居住地域)と、現住地域における固定的な性別役割分担意識等の有無に関する意識の関係を示している。
- ・東京圏以外出身・東京圏居住層、東京圏以外出身・東京圏以外居住層ともに全ての項目で、現住地域にあると感じている割合(実線)に比べて、出身地域にあったと感じている割合(破線)の方が高い。
- ・東京圏以外出身・東京圏以外居住層に比べて、東京圏以外出身・東京圏居住層の方が、出身地域と現住地域の差が顕著。

※現住地域にあるかは「ある(計)」の数値を掲載(「よくある」+「時々ある」の計)
 ※出身地域にあったかは「あった(計)」の数値を掲載(「よくあった」+「時々あった」の計)

※出身地域-現住地域が10%ポイントを超えるセルに薄黄色色掛け



- 女性/東京圏以外出身・東京圏以外居住層/現住地域にあるか(n=3,367)
- ▲- 女性/東京圏以外出身・東京圏以外居住層/出身地域にあったか(n=3,367)
- 女性/東京圏以外出身・東京圏居住層/現住地域にあるか(n=391)
- 女性/東京圏以外出身・東京圏居住層/出身地域にあったか(n=391)

3. 東京圏への転出者の特徴

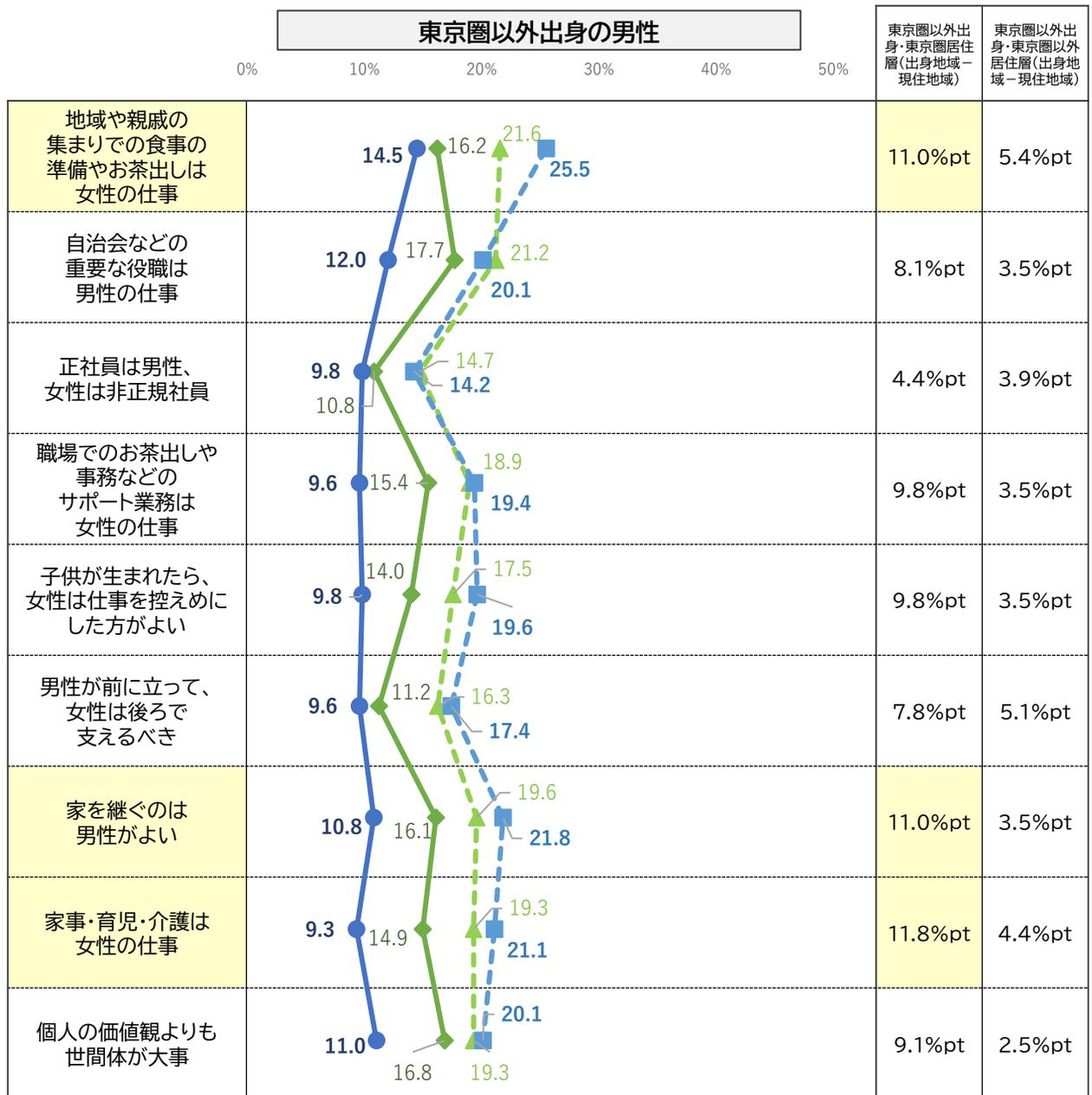
(11) 出身地域と現住地域における固定的な性別役割分担意識等の有無(Q44、Q43)・男性

【対象】東京圏以外出身の男性 【分析軸】出身地域・現住地域別(東京圏・東京圏以外)

- ・下図は、東京圏以外出身の男性について、出身地域(中学校卒業時点での居住地)と、現住地域における固定的な性別役割分担意識等の有無に関する意識の関係を示している。
- ・東京圏以外出身・東京圏居住層、東京圏以外出身・東京圏以外居住層ともに全ての項目で、現住地域にあると感じている割合(実線)に比べて、出身地域にあったと感じている割合(破線)の方が高い。
- ・東京圏以外出身・東京圏以外居住層に比べて、東京圏以外出身・東京圏居住層の方が、出身地域と現住地域の差が大きいが、女性に比べると差が小さい。

※現住地域にあるかは「ある(計)」の数値を掲載(「よくある」+「時々ある」の計)
 ※出身地域にあったかは「あった(計)」の数値を掲載(「よくあった」+「時々あった」の計)

※出身地域-現住地域が
 10%ポイントを超えるセルに薄黄色色掛け



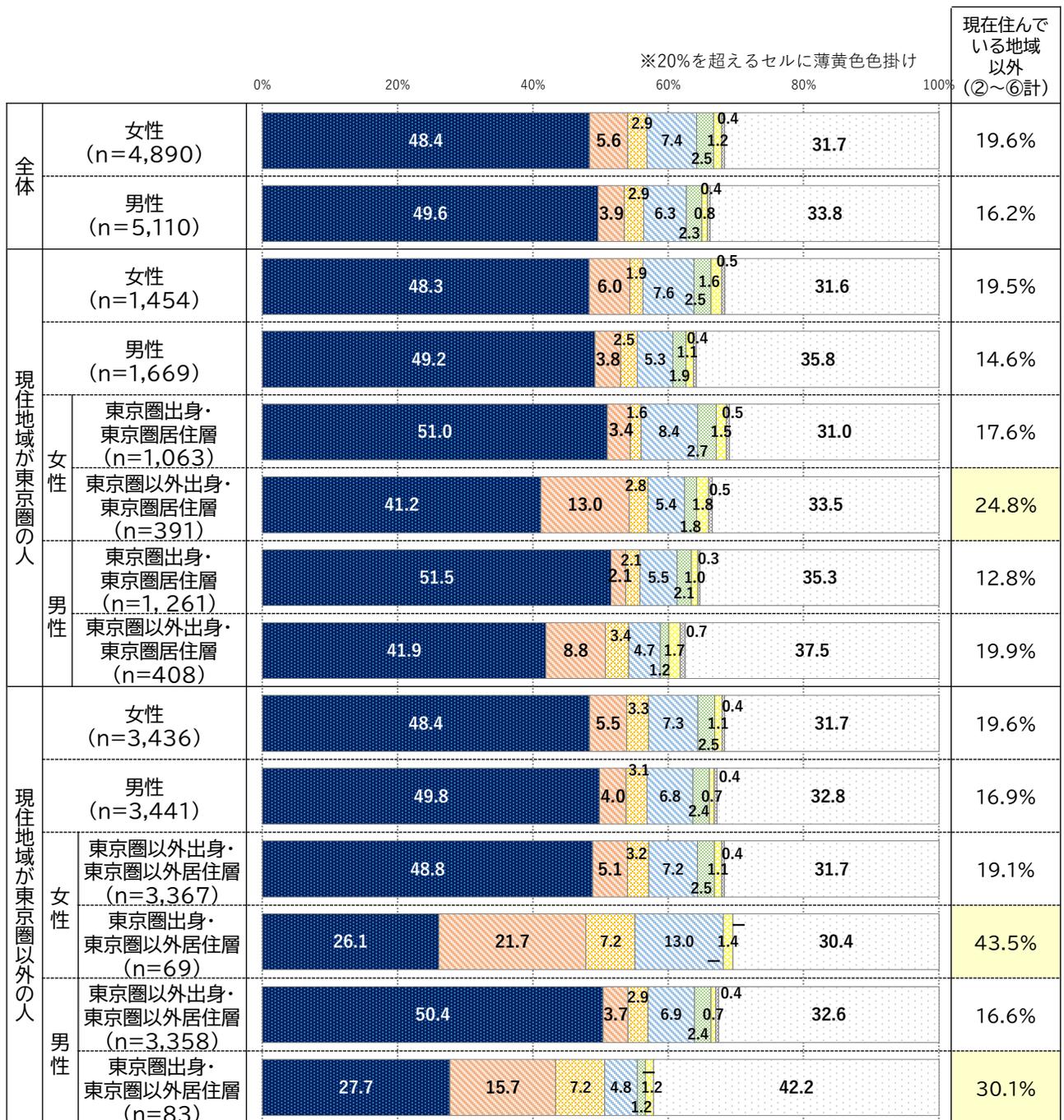
- 男性/東京圏以外出身・東京圏以外居住層/現住地域にあるか(n=3,358)
- ▲- 男性/東京圏以外出身・東京圏以外居住層/出身地域にあったか(n=3,358)
- 男性/東京圏以外出身・東京圏居住層/現住地域にあるか(n=408)
- 男性/東京圏以外出身・東京圏居住層/出身地域にあったか(n=408)

3. 東京圏への転出者の特徴

(12) 将来、住みたい地域(単数回答・Q46)

【対象】全員 【分析軸】出身地域・現住地域別(東京圏・東京圏以外)

- ・男女別にみると、いずれも「現在住んでいる地域に住み続けたい」が最も高い。
- ・出身地域・現住地域別にみると、「現在住んでいる地域に住み続けたい」は、男女ともに、東京圏出身・東京圏居住層、東京圏以外出身・東京圏以外居住層で5割程度、東京圏以外出身・東京圏居住層では4割、東京圏出身・東京圏以外居住層で3割。
- ・「現在住んでいる地域以外(計)」の割合は、東京圏以外出身・東京圏居住層では男女ともに2割程度、東京圏出身・東京圏以外居住層では女性4割、男性3割。



- ①現在住んでいる地域に住み続けたい
- ②中学校卒業時点で住んでいた地域
- ③過去に住んだことのある地域
- ④過去に住んだことのない地域 (国内/都会)
- ⑤過去に住んだことのない地域 (国内/地方)
- ⑥海外
- ⑦その他
- ⑧特に考えていない・わからない

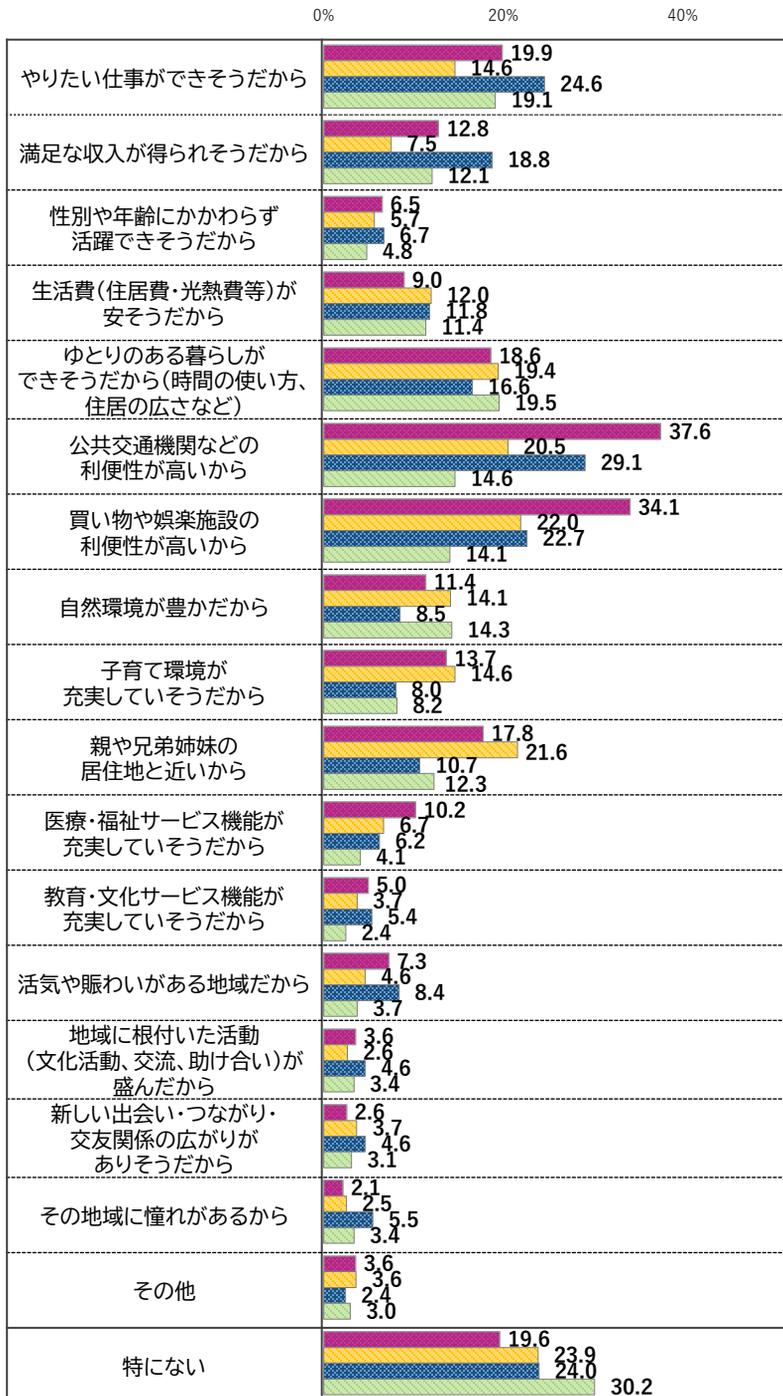
※Q46選択肢の「都会」「地方」は回答者の主観による。

3. 東京圏への転出者の特徴

(13) 現住地域に住み続けたい理由(複数回答・Q47)

【対象】Q46で「現在住んでいる地域に住み続けたい」とした人 【分析軸】現住地域別(東京圏・東京圏以外)

- ・現住地域別にみると、男女ともに東京圏居住層では、「公共交通機関などの利便性が高いから」が最も高く、特に女性で高い。
- ・女性では、同区分の男性に比べて、「親や兄弟姉妹の居住地と近いから」「子育て環境が充実していそうだから」等が高い。
- ・男女ともに東京圏居住層の方が高い項目が多いが、「自然環境が豊かだから」「ゆとりのある暮らしができそうだから」は、東京圏以外居住層の方が高い。



■ 女性/東京圏居住層 (n=703) ■ 女性/東京圏以外居住層 (n=1,662)
 ■ 男性/東京圏居住層 (n=821) ■ 男性/東京圏以外居住層 (n=1,715)